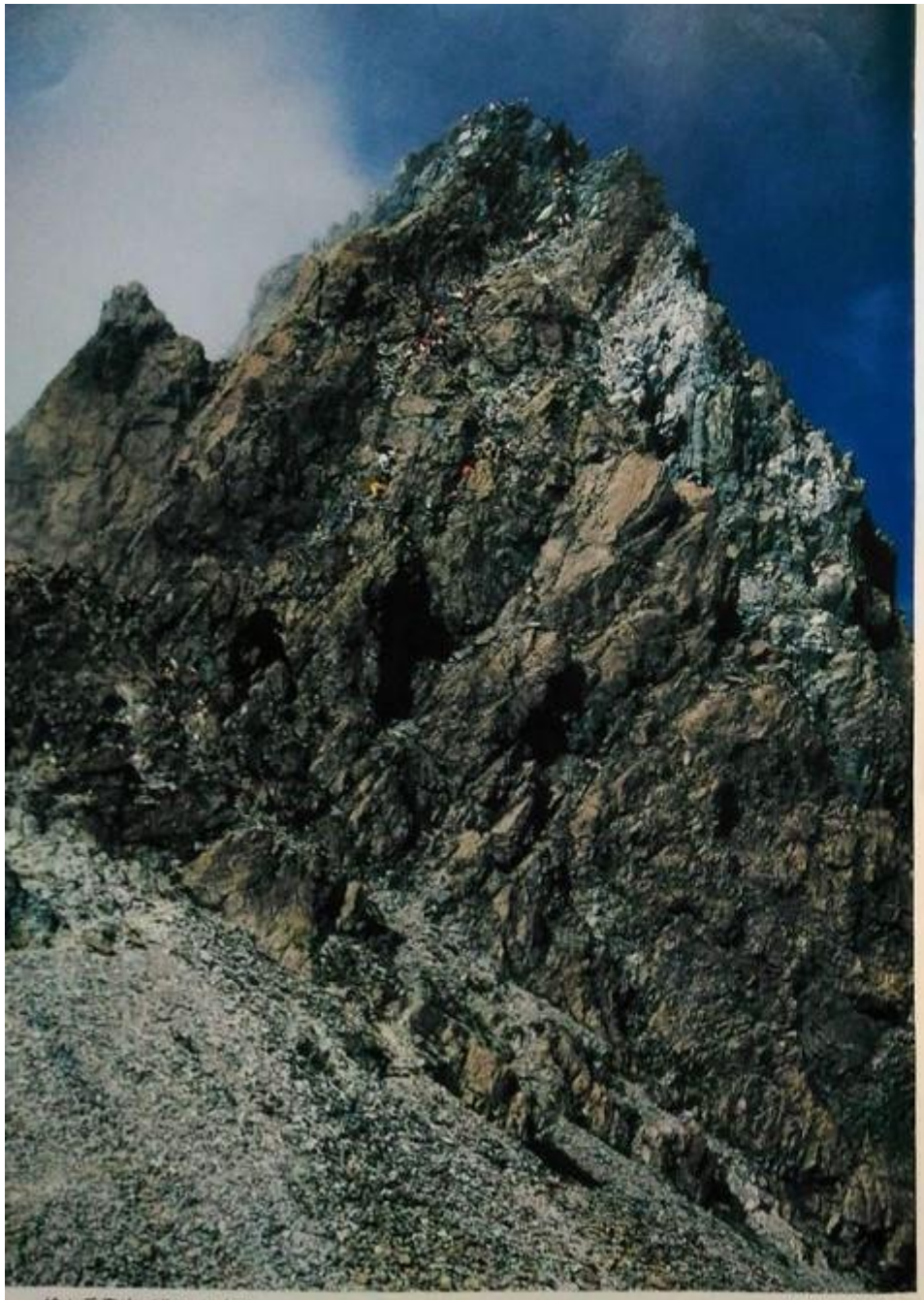


槍ヶ岳登山（北アルプス）　　中川　光郎

世界の山旅
辺境の旅

世界の山旅を手がけて３３年目

——実績と体験に基づいた旅作り——
「一人では行けない、でも、行きたい」
アルパインツアーがお応えいたします。

登山家・重廣恒夫さんと歩く
ピレネー・ハイキング　９日間
旅行代金　¥５４８，０００
旅行期間　８／９（金）～８／１７（土）
①関空→ヨーロッパ内都市→トゥールーズ②→コトゥレ③コトゥレ滞在（ハイキング）④→ガバルニー（ハイキング）⑤→サン・ラリー（世界遺産）⑥（ハイキング）→ヴィエラ⑦（ハイキング）→トゥールーズ⑧→ヨーロッパ内都市→⑨→関空

アルプス・スカイライン・ハイキング　１２日間　<関空発着>
出発日　●6/30　●7/14　●7/23　●7/28
¥４２０，０００～¥５３２，０００

カナディアン・ロッキー・パノラマハイキング　１０日間　<関空発着>
出発日　●7/26　●8/2　●8/16　●9/13
¥４９０，０００～¥５５５，０００

２度目のスイス・アルプス・ハイキング　１２日間　<関空発着>
出発日　●6/30　●7/14　●8/7
¥３９８，０００～¥５３８，０００

デナリ国立公園内・ロッジ滞在とチナ温泉　９日間　<関空発着>
出発日　●7/24　●9/4
¥５９６，０００～¥６２０，０００

チロル、ドロミテ、オーストリア３つの最高峰展望と絶景の谷　９日間　<関空発着>
出発日　●7/8　●7/22　●8/19　●9/2
¥４２０，０００～¥４７０，０００

四姑娘山フラワー・ハイキング　６日間　<関空発着>
出発日　●7/19　●7/26　●8/2　¥270,000

九寨溝と黄龍ハイキング　８日間
出発日　●8/8　●9/16　¥248,000～¥268,000

マレーシア最高峰 Mt. キナバル登頂　６日間
出発日　●7/24　●8/21　¥204,000～¥222,000

ミニヤコンカ山群ハイローゴウ氷河パノラマ紀行８日間
出発日　●9/19　¥298,000

海外トレッキング<特設説明会>
◆ネパール・ヒマラヤ・トレッキング説明会
【８／１（木）・９／３（火）・９／３０（月）】
会場　大阪科学技術センター４階　入場無料
時間　昼の部 14：00　夜の部 18：30　各２時間
（地下鉄 四つ橋線 本町駅下車・北へ徒歩５分）

「北極点への船旅１６日間」　８／１９発　¥1,690,000～¥2,190,000　募集定員 99 名

出張説明会　山仲間がお集まりのときに、経験豊かな当社社員がスライド上映をまじえ説明します。国内・海外のハイキング・登山を問わずいつでもお気軽にご相談ください。

お問い合わせ・お申し込みは
国土交通大臣登録旅行業490号／（社）日本旅行業協会正会員
アルパインツアーサービス株式会社
大阪支店／〒550-0004 大阪市西区靭本町 1-10-22（ボンビル4階）
TEL　０６－６４４４－３０３３／FAX　０６－６４４４－３０３２
広島サービスステーション（大阪支店転送）TEL　０８２－５４２－１６６０

ご請求下さい！
アルパインツアー、総合ツアーカタログ。
「世界の山旅・辺境の旅」春～秋号。海外・国内のハイキング・トレッキン登山コース満載！

Photo essay

送り火

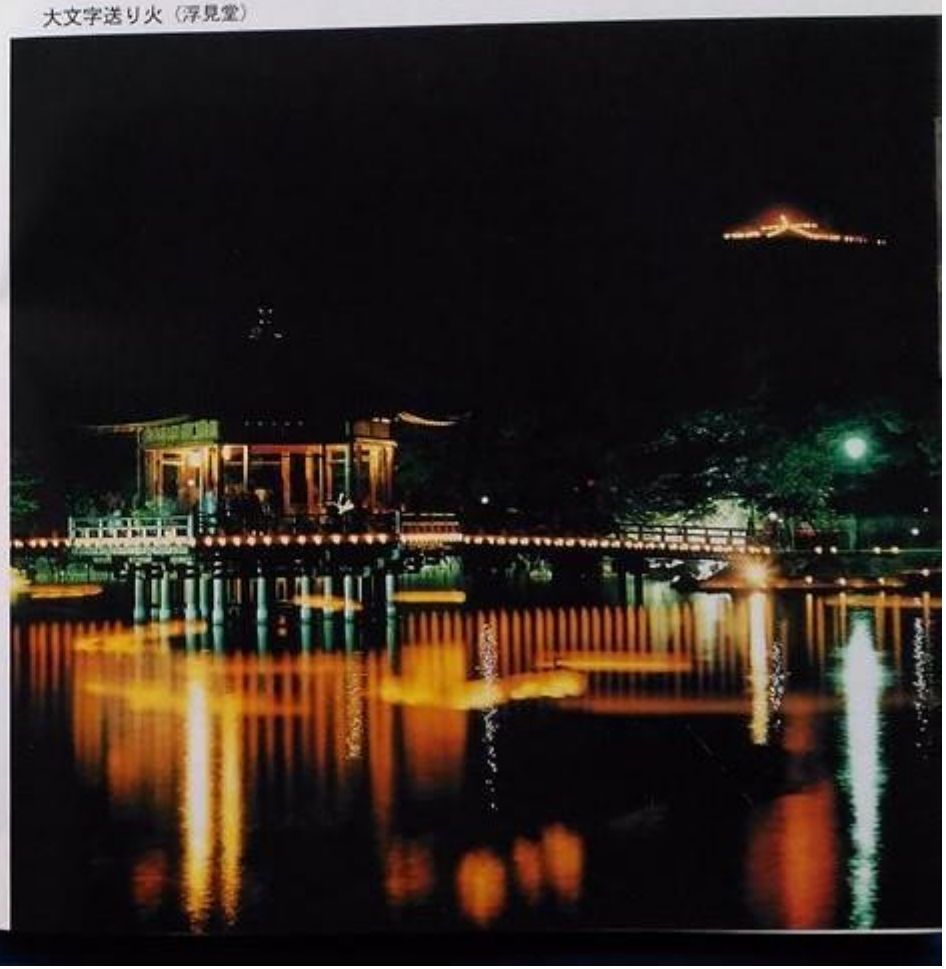
題字　中田蘭石
撮影　由井　収
文　松永恵一

古都・奈良のなら燈花会
「一客一燈」のろうそく
幽玄の世界が現出する
猿沢池　浮見堂　浅茅ヶ原
浮雲園地は灯りが揺れ動く海原
幻想的な光の時空と回廊
花火が夜空を彩る
「大文字送り火」
闇の中にくっきりと浮かび上がる
燃え上がる炎に人々が見入る
胸に去来するのは
祖先への想いか　　はたまた
過ぎ去ろうとする夏への訣別か
きらびやかに燃え上がる
再び冥府に帰る精霊を送る盆行事

燈花会（浮雲園地）

夜空に輝く花火

大文字送り火（浮見堂）



季節の実景

盛夏

木曾駒ヶ岳にて

撮影　武市通治

ミヤマクロユリ

霧のお花畑

チングルマ

シナノキンバイ

コバイケイソウ

大正池の静寂（上高地）　三浦　弘幸

硫黄岳「爆裂口」（八ヶ岳）　吉沢　栄一

コマクサ　中川　光郎

上河内岳より聖岳（南アルプス）　榊原　計国

●目次

表紙：松田敏男「夏の大雪山旭岳」（大雪山）

●作者プロフィール●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳版画、山岳画の個展多数開催。（京都平安画廊、南アルプス仙水小屋、東京ギャラリー百号、他）京都山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員

新ハイキング 別冊 関西の山
'02年7・8月 盛夏 第65号

●グラビア
送り火……撮影 由井 収
季節の実景（盛夏）「チングルマ」他……文 松永 惠一 2
（口絵）中川光郎 吉沢栄一 榊原計国 三浦弘幸 奥田英一郎
随想（山のエッセイ）
三宅安兵衛父子建立碑のこと……武市 通治 4

紀行
藤原岳に登る……綱本 逸雄 平 一郎 10
楽古岳〈北海道〉……金谷 昭 12
苗場山〈越後〉……日野 節雄 14
槍塚奥峰と五大尊岳〈台高・大峰〉……生駒 登峰 18
連載 標高による山の紹介シリーズ5 △△65㍍の山
編蟻岳・岩籠山・武奈ヶ嶽……松田 敏男 21
双六岳・樅沢岳・槍ヶ岳〈北アルプス〉……鷲見 守康 24
モンゴル大草原〈モンゴル〉……妻鹿 ひろ子 26
白馬三山〈北アルプス〉……田中 明 30
槍ヶ岳〈北アルプス〉……杉本 高 36
立山三山〈北アルプス〉……木村 太郎 40
連載 三角点を訪ねて⑰
ツツロ坂峠から西横根へ〈鈴鹿〉……礒部 純 44
●旗振り通信の研究⑨
姫路ルート……柴田 昭彦 56
●1等三角点峰（500㍍以上）548座完登の記録（第32回）
平成7年北海道への夏の山旅 続編……坂井 久光 38
●〈山のレポート〉富士は父、天城は母（井上靖）……紀平 龍雄 60
●〈山のレポート〉山の地名を歩く④山と岳（下）……西尾 寿一 63
●文学歴史探訪ハイク㉕
高台寺に北政所を訪ねて……松永 惠一 66
コースガイド
[1] 日拝山〈湖東〉……長宗 清司 68
[2] 女布権現山と法沢山〈丹後〉……山形 歳之 72
[3] 神崎川源頭から取水口まで〈鈴鹿〉……湯浅 康夫 74
[4] 奥山から三国岳を越え鳴川谷へ〈鈴鹿〉……礒部 純 76
沿線ハイキングガイド……78
サービスチェーン……82
せせらぎ……82
新ハイ関西山行計画と報告……88
バス時刻表（台高方面）……110
編集後記・広告案内……112

巻頭言

夏山シーズンがやってきました。高山植物や山岳展望を求めて涼しい高山へ登りたくなりますが、貴方の今年の夏山計画はもうお済でしょうか。期日を決め、登る山とコースや宿泊地などをいろいろ考える。机上で計画を練るだけで、心はもうその山を歩いているように感じます。

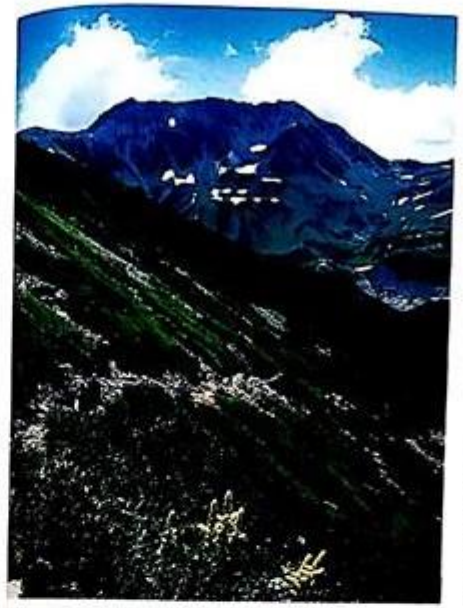
でも、ちょっと待ってください。計画と心の準備はできても、体力や技術のほうはどうでしょうか。北アルプスなど山岳地帯を歩くという行為が、どのようにしんどいものであるかは何度も経験した者でないと理解できません。3000㍍級の山ではきつい登り下りが長く続き、尾根縦走でもピークを何度も越え、きつい岩場の通過もあります。また、思わぬ天候の急変だってあります。

山岳救助隊からも「昨今、山を安易に考える中高年の登山者が多い。遭難やケガで救助を求められる回数が年々多くなった」と警告しています。高山への夏山登山を目指すには、それ相応の体力と歩く技術・装備が必要です。思わぬ事態をも想定し、それを乗り切るだけの訓練を積んでからお出かけください。

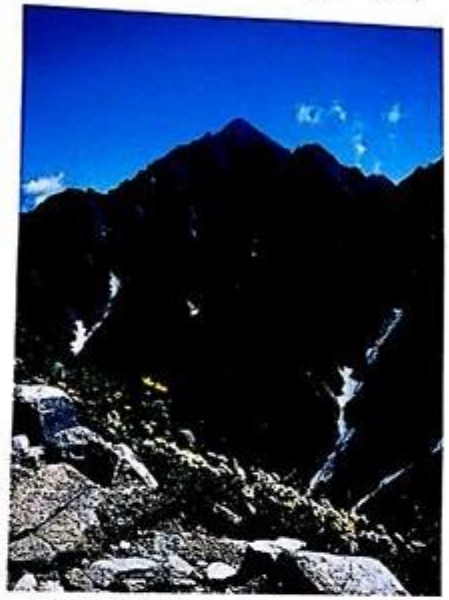
新ハイキング関西（代表）村田 智俊

大日三山（北アルプス・立山）縦走路にて

奥田 英一郎



奥大日岳付近より立山



室堂乗越より剱岳

雷鳥沢血の池とチングルマ

三宅安兵衛父子 建立碑のこと

綱本　逸雄

今年の2月初旬、思うところあってポンポン山へ行った。バス停小塩から歩き、善峰寺入口の朱塗りの橋で一服。ふと見上げると180㌢程ある角柱の石碑が建っている。各面に「西国二十番札所　よしみね寺道」「京都市三宅安兵衛依遺志建之」「昭和三年四月」と陰刻されていた。探してみると、手前の茶店「よしみね乃里」前にも三宅安兵衛の遺志によって建てられた善峰寺標石が二基あった。

このコースは30年程前から何度も通っていたのだが、数年前にこの人物の名前を意識し始めるまでは石碑の存在に気づかずにいた。

三宅安兵衛を知ったのは、以前、植物学者と京田辺市へ古代の桑の遺物調査に行ったとき、同市多々羅で、記念碑「日本最初外国蚕飼育旧跡」を見たときである。裏面に「三宅安兵衛」の名前が刻まれていた。地元の人の話では戦前の京都市内の織物商ということだった。

その後、嵯峨釈迦堂（清凉寺）の門前でも、この人物の名を刻んだ立派な標石を見かけ、調べてみたら、すでに出雲路敬直・伊東宗裕氏らの著述があった。

三宅安兵衛（1842～1920）は、若狭国小浜生まれ。父は三宅清治郎、家業は陶器。嘉永三年（1850）父を失い、同五年京へ上り五条通烏丸東入の木綿商井筒屋に奉公するが、大火で店が焼け、安兵衛は博多織を売り、再興に力を尽くす。26歳で独立し、博多織販売で成功する。店舗が何度か替ったが、明治一五年（1882）六角通高倉西入に落ち着く。明治五年（1872）長男清治郎が生まれ、祖父と同名だ。三男二女をもうける。

子供が独立し、隠居後は長期旅行を楽しみ、還暦を過ぎてからは、江戸時代の地誌「都名所図会」を頼りに、京都周辺の神社仏閣、名所・旧跡を歩いた。大正八年（1919）元旦、長男清治郎に一万円を託し、「この金を死後、京都の為め公利公益の事に使用せよ。但し、その用途の方法時期は汝に一任す。よく我が意を体せよ」と遺言した。没後、南禅寺塔頭金地院に葬られた。

安兵衛は生前、石清水八幡宮に標石を建てていた。その遺志を汲んで、清治郎は一万円を元手に大正一〇年～昭和五年の間、総建設費二万円を投じて史蹟碑や道標を約400基建てた。二万円といえば現在の一億円前後に相当するというから驚きだ。

篤志家や信者（講）が寺社、

随想（山のエッセイ）

旧街道に建碑しているのをよく見かけるが、これだけの数の石碑を単独で建てたのは他に類がない。

「石碑の揮毫も、当時の名士である京大の西田直二郎（歴史学）・浜田青陵（考古学）両博士、荒木富三郎（京大総長）、南画家の宮岡鉄斎、碓井小三郎市会議員（『京都坊目誌』の著者）らである。1936年（昭和一一）には文部大臣から、「多年、史蹟名勝保存事業に尽瘁」したので、銀杯一個贈られ表彰された。

清治郎は父母の十三回忌に、石碑建立事業の記録「木の下蔭」を編纂している。それには343基の建碑個所一覧がある。碑銘から見て建碑の範囲は広範囲で、京都市始め長岡京・八幡・宇治・城陽・京田辺各市、精華町・井手町・山城町・加茂町・宇治田原町・大山崎町・久御山町と京都府南部ほぼ全域にわたる。また枚方市・小浜市にも存在する。

ただ、「木の下蔭」には各碑の所在地が記されていないが、中村武生氏（花園大）の調査で現在約240基が確認されている。しかも「木の下蔭」には「昭和五年迄に建碑無慮四百余基所期以上を了し」とあるが、343基以外は「其他略之」とあるので、約60基近くは偶然の発見かだれかの教示以外確認できない。八幡市や精華町域では郷土史家らによってすでに悉皆調査がされている。もちろん、冒頭の善峰寺や清凉寺の碑は「木の下蔭」に載っている。

三宅父子の建碑事業は最近の近代史のテーマの一つになっていて、なぜ、これだけの顕彰活動をしたのかその意義などが追求されている。三宅父子の場合は、父の遺言を実行した、すなわち、近世によく見られる追善供養の一環でないかとも指摘されているが結論は出ていない。

全国的に近世後期から、特に大正時代から昭和戦前期にかけて府下では史蹟碑など多くの石碑が顕彰されている。

小塩山や向日市内でも大阪皇陵巡拝会の建碑も目につく。皇陵巡拝も盛んだったこともある。京都史蹟会の建碑活動もある。三宅父子の活動をどう位置づけるか今後の課題である。

すでに碑は盗難、開発による移動・紛失、交通事故による損壊などの被害を受けている。行政が積極的に文化財保護に乗り出すべきだと思う。

山行の折、三宅安兵衛父子の碑を見かけたら、ぜひご教示をお願いします。（綱本逸雄宛〒617－0002　向日市寺戸町二枚田12の46　☎・FAX 075（933）5667）

藤原岳に登る

平　一郎

久しぶりにしんどい山歩きだった。

鈴鹿セブンマウンテンズの一つである藤原岳（1120㍍）は、花の名山として人気がある。

三岐鉄道西藤原駅近くの駐車場に車をおいて、裏登山道を登り、表登山道をくだるというポピュラーなコースをとった。

登山道は階段がほとんどなくて歩きやすいし、五合目あたりから上は雑木林で、多くの花々が顔をのぞかせて楽しさが増す。全国的に晴マークの文字通り雲ひとつない五月晴れであった。頂上付近はササ原が広がって展望にも恵まれた。

だが、前日遅くまで飲み歩いたことがたたって、睡眠不足と疲労で苦しい登りを強いられた。

それにしても、過去の経験では、いくら二日酔いであったにせよ標高1100㍍程度の山で、これほどしんどい思いをしたことは少ない。日帰りの山歩きでは、大山に登って以来のハードな体験であった。

老化による体力の衰えが原因であるとは思いたくない。ゼッタイに何かほかに原因があるに違いない。

そこで思いついたのが、標高差である。

関西の山を中心に、登山口と山頂との歩行標高差を調査してみた。その結果を「関西の山、歩行標高差ベスト10」としてまとめたのが、別表である。

日帰り山行だけを対象にし、登山口は歩行標高差の最も少ない所を選んだ。すべてマイカー登山で、登山口に駐車場があることを前提としている。

表の中で、歩行比率というのは、山頂標高に対する歩行標高差の割合で、この比率が低いほど、歩行標高差のわりには、標高の高い山に登れる。つまり少ないエネルギーで高い山に登れる、ということである。

ベスト10の中でも、歩行比率が43%の八経ヶ岳は、821㍍の歩行標高差で、1915㍍に登れるが、愛宕山は、824㍍の歩行標高差でも、結果としての最高到達点は924㍍でしかない。

表にはないが、六甲最高峰（931㍍）は、阪急芦屋川駅（標高33㍍）から登れば、歩行標高差は898㍍で、歩行比率は96%である。つまり労力が多いわりには、登った山はあまり高くないということになる。ちなみに富士山（3376㍍）は、富士スバルライン新五合目登山口（2380㍍）からの標高差は、1396㍍で歩行比率37%である。2日行程で標高差1396

随想（山のエッセイ）

㍍を登り下りするのだから、比較的歩行効率のよい山である。効率だけを考えるなら、先ほどの六甲最高峰は、芦有ドライブウェイからベルビューアリマロードを経て、一軒茶屋（標高888㍍）に駐車して登れば、標高差は51㍍、歩行比率5%である。これではあまりにも楽すぎて、もの足りない。

とにかく、これでしんどかった原因が判明した。藤原岳で疲れたのは、決して老化のせいではなかったのである。私は荒島岳にはまだ登っていないので、日帰り山行としては、藤原岳は今までで経験した最高の歩行標高差である。

年齢を重ねてゆくなかで、老化による体力の衰退を認めたくないばっかりに、つまらない分析をして、抵抗や安堵をしている。

このこと自体が、老化現象の現れなのかもしれない。

別表　関西の山　歩行標高差ベスト10

順位	山名	山頂標高	登山口	登山口標高	歩行標高差	歩行比率
1	荒島岳	1523 m	勝原スキー場	328 m	1195 m	78 %
2	藤原岳	1120 m	西藤原駅	140 m	980 m	88 %
3	大山	1710 m	夏山登山口	780 m	930 m	54 %
4	氷ノ山	1510 m	福定親水公園	600 m	910 m	60 %
5	能郷白山	1617 m	能郷白山登山口	710 m	907 m	56 %
6	稲村ヶ岳	1726 m	洞川温泉	840 m	886 m	51 %
7	横山岳	1132 m	白川出合	250 m	882 m	78 %
8	白髭岳	1378 m	東谷出合	530 m	848 m	62 %
9	愛宕山	924 m	清滝	100 m	824 m	89 %
10	八経ヶ岳	1915 m	行者還トンネル西口	1094 m	821 m	43 %

南日高の名山

楽古岳

金谷　昭

北海道

毎夏、日本アルプスの喧噪を避けて北海道の山登りを恒例としているが、北海道もご多分にもれず、利尻岳を始めとする日本百名山の山々に〝百名山ブーム〟が押し寄せてきた感がある。何回も長い徒渉を強いられる日高幌尻岳の「幌尻山荘」も、盛夏の北アルプスさながらの混雑である。

日本百名山は深田久弥自身の既登の山の中から選び出した深田久弥個人の百名山だが、いつの間にか日本を代表する百名山になってしまっている。従って選び出した際に彼が登頂していなかった山の中には、その頂上を極めただれもが「なぜ日本百名山に入っていないのか」と、異議をとなえる名山も多い。そういった選に漏れた名山は北海道では目白押しだが、考えようによっては逆に喧噪と開発から免れた幸せな山ともいえる。

とはいっても、深田百名山にケチをつけ、否定するものではない。いずれ劣らぬ名山揃いで、登山愛好者がそれぞれ自分の百名山を選び出す一応の目安とするのがよいだろう。

日高連峰にも選に漏れた名山が多いが、深田久弥の活躍した時代は林道開発の進んでいなかった頃で、そう簡単には入山できなかったのでやむを得ないだろう。今なおアプローチには多大の時間を要し、これらの山には容易に近づけない。それだけに手つかずの原始の姿を留めている。

楽古岳（1300ｍ付近から）

私見で恐縮であるが、比較的登りやすい山として楽古岳（1472ｍ）を挙げてもよいだろう。

南北150㎞以上にわたる長大な日高山脈のうち、登山の対象となっているのは北日高の芽室岳（1753ｍ）に始まり、この南日高の楽古岳で終わっている。実際は、高度が低くなっても、山はまだまだ南に北に続いているが、楽古岳以南の高度を急激に下げていく様はちょうど、本州南アルプス南部の雄・光岳と似ている。標高は約1000ｍも低いが、北海道の山は緯度の関係からそれぞれの標高に1000ｍを加えれば、本州の山と景観が似てくるようである。

楽古岳の山名は太平洋に注ぐ楽古川の

水源の山が由来となっているが、そのラッコは「海獣のラッコが川に漂着した」伝承に由来する説と、アイヌ語のラッコ・ペツ「火を止める川」つまり山火事が川で食い止められたという説とがあるが、定かではない。

どこから見ても、そのピラミダルな端正な山容は見る人の目を引きつけるものがあり、また、三角点マニアにとっては垂涎の的の1等三角点（本点）峰である。

登山道は日高側（西側）と十勝側（東側）から開かれており、地元の町の努力によって整備され、日高連峰のなかでも一般登山者が比較的容易に頂上を踏むことのできる山である。

私が登頂した日には盛夏にかかわらず、静岡の青年とたった2人。前日は札幌からの人が1人という静けさであった。

前日のカムイエクウチカウシ山の登山後、十勝広尾町より国道236号線・通称天馬街道の日高山脈のドテッ腹を貫く野塚トンネルを日高浦河町側に走り抜け、ニオベツ川沿いにしばらく行く。楽古岳より流れ出すメナシュンベツ川が合流する所に案内板があり、指示に従い左に折れ、この川に沿った林道を遡る。未舗装の林道だがよく整備され、意外に走りやすい。途中一ヶ所ゲートがあるが開放されていた。

林道終点近くのコイボクシュメナシュンベツ沢の出合に無人の避難小屋「楽古山荘」があり、登山者名簿ボックスが設置されていた。楽古山荘は頑丈な木造二階建でまだ新しく清潔だ。収容人員は50名位。寝具も二組備えられ、屋内電気配線も完備している。発電機を持参し、これに接続すれば照明やコンセントも使用可能の状態だ。地元浦河町のなみなみならぬ熱意が感じられた。

昼過ぎに到着したのだが、一台駐車している以外に小屋の内外に人の気配は感じられず、もしかして今夜は私1人の貸切になるのかもと思った。

しばらくするとカウベルの音が遠くから聞えてきて、1人が下山してきた。車の持ち主で札幌からの中年男性だった。彼は昨夜この小屋に1人で宿泊し、今朝早く小屋を発ち、約6時間をかけて登ってきたとのことであった。

山の状況をいろいろと教えていただいたが、小屋からすぐ近くの林道にクマの糞があり、四六時中、クマを警戒しながらの登山であったとか。残念ながら山頂はガスがかかり、遠望がきかなかったようである。彼は次の目的地十勝幌尻岳に向かって走り去っていった。

北海道は本州に比べて高緯度のため、夏は白夜とまでいかないが日暮れがけっこう遅く、少し時間があったので、えりも岬の観光に出かけた。えりも岬近くの花の名山として有名なアポイ岳は頂上まで晴れ上がっていた。標高811ｍだが、

楽古岳から日高十勝岳

海抜0㍍からの登山だけにかなり高度感のある山のようである。

小屋に戻ってくると、ザックが一つ置いてあった。日暮れ近くに30歳代の青年が手に渓流釣竿と釣果をさげて戻ってきた。近くの川で2時間程の間に10数匹の渓流魚を釣り上げたが、小魚は川に逃がして7匹を持って帰ってきたとか。なかなかの釣人でマナーの心得のある好青年で、聞けば静岡から来た工業高校の先生であった。彼は登別温泉での研修出張を終え、浦河町よりタクシーで入山したとのことであった。

夜は彼の釣った魚の焼き物のお相伴にあずかりながら、山談義から教育談義に話が弾んだ。彼の昼間の釣人マナーといい、話の端々に心遣いの行き届いた教育熱心な先生の片鱗をのぞかせていた。毎夏、単独で北海道の山行きをしていると、いつもすばらしい人と山との出会いがあり、私の得難い財産となっている。

明ければ快晴。小屋の前からは、昨日頂上付近にガスがかかっていた（日高）十勝岳が堂々たる偉容でそびえている。山名の十勝はアイヌ語のトカブ（乳の意）に由来しているといわれているが、大雪山系の十勝岳と同じく、山容が乳房の型に似ているといえなくもない。

早朝5時に小屋を出発。夏の夜明けの早い北海道、すでに太陽は山の端より高く昇っている。すぐ対岸（左岸）へ丸木橋を渡り、使われなくなった林道を10分程行くと、道の中央にクマの糞があった。雨で餌の植物繊維が洗われていてかなり日が経っているようである。少し安心して先を急ぎ、20㍍程行くと再び糞が出てきた。今度は繊維の洗われていないかなり新しい糞のようであり、これが札幌の人が話したものであろう。家の飼犬も散歩時に糞をする場所は大体決まっているがクマも同様なのか。そうするとこのあたりはクマの普段の行動範囲に入っていることになる。これからは2人でカウベル以外に笛を吹き吹きの登山となった。

林道は700㍍で行き止まりとなり、細い登山道となる。コースは全体としてよく整備され、要所には案内板と赤テープがあり迷う所は少なかった。

メナシュンベツ川沿いに行くと対岸への渡渉が始まった。渡渉といっても幌尻岳やカムイエクウチカウシ山のそれに比べれば容易で、うまく行けば飛石伝いに靴を濡らさずにすむ程度のものである。五回の渡渉を終えると右岸の尾根に取りつく。ここには登山口の案内板があり、その背後から道が登っている。

急な尾根であるが、ゆるやかなジグザグを繰り返しながら、気持ちのよいダケカンバの疎林のなかを笛を吹きながらの登りとなった。

約800㍍付近では尾根がいったんゆるやかになり、道はジグザグから直線的となり、同時に道幅は広がった。周囲は樹林のため展望はきかないが、シラカバのなかの道をたどって行くと、北国の山を歩いていることがひしひしと感じられた。

約1150㍍付近からハイマツが出てきて、ここで初めて頂上らしきピークが望めるようになった。ここから見ると三角錐の頂上ではなく、少し偏平である。遠くの眺望もきき始め、えりも岬方向にアポイ岳であろうか顕著なピークが見えてきた。道は少し悪くなってきたが、しっかりと踏まれていて迷う所はない。

標高1300㍍地点で右（東）に折れ、楽古岳の西尾根にのると周囲はハイマツと灌木だけになり、益々展望が広がってきた。ここまで来ると頂上はきれいな三角錐となって正面に立ちはだかっている。思わず歩調が上がってくると、やがてハイマツがなくなり、岩礫と草原が現れ、登りつめると頂上であった。

山頂（手前に1等三角点）

頂上には分厚い木板の彫込みの山名板があり、18㌢角の大きい1等三角点標石がある。それを中心として、ひっそりと静まり返っていた。ピラミダルな尖峰だけに高度感は十分にあり、周囲は360度の大展望である。

日高山脈は壮年期の隆起した山脈で、その東西両側は鋭く削りとられた氷河地形のカールが多く、主稜はやせ尾根となっている。北望して日高山脈の中枢部を見ると、南北に長い山脈の南の高所から北に向かって縦覧したことになり、まるで槍ヶ岳のごとき尖峰の集団であった。中央付近の大きな山塊は幌尻岳あたりであろうか。振り返って南望すると、アポイ岳とその向こうに光る面は太平洋であった。

同行の彼は高山植物の撮影に忙しい。その間、地図を前に山座同定を楽しみ、ゆっくりと写真撮影に専念し、山頂での至福のひとときを過ごした。

久しぶりの好天の下、日高の山々の展望を堪能し、それらの風景を目に十分焼きつけて下山する。彼は植物撮影のためもう少し残ると言うので、私は先行して下山したが、彼は若いだけに歩くのが速く、登山口の手前で彼のカウベルと笛の音が近づいてきて、渡渉の所からいっしょに下山した。

彼は、もう一晩楽古山荘に泊まり、渓流釣りを楽しむと言う。お互いの無事を祈りつつ私は山荘をあとにした。

笛とカウベルによるものかどうかわからないが、幸いクマに出会わなかった。きょう一日充実した山登りのできたことを地元浦河町と楽古山荘に感謝してやまない。

浦河町に向かう途中から振り返って見た楽古岳は、すっきりとした三角錐の端正な姿であった。

（平成13年7月27日歩く）

《コースタイム》

楽古山荘（50分）登山口（2時間10分）楽古岳（1時間40分）登山口（45分）楽古山荘

《地形図》2万5千＝楽古岳

《交通》

＊マイカーに頼らざるを得ない。

＊タクシーはJR浦河駅より約1時間（約13000円）

日交ハイヤー　0146(2)3151

小赤沢から小松原湿原へ

苗場山

越後

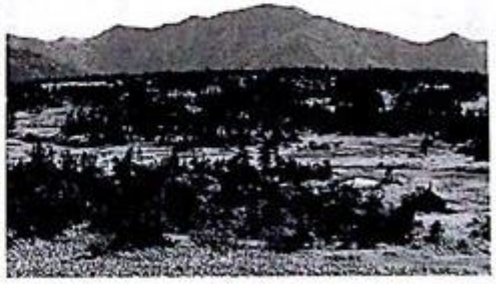
日野節雄

苗場山は、新潟県の南端で長野県境にあり、山頂の南西には4㌔四方にも及ぶ湿原が広がり、その広大な頂上台地は遠くから眺めてもすぐそれとわかる。今年6月、谷川連峰の平標山に登った折、目の前に鯨の背のような山があった。それは、トマノ耳からも小さく同じ形で見えたのだが、それが苗場山で、4年前登ったときの感想は「田圃のような山頂だった」と記憶にある。

一般に関東方面からJRで行くと、近くて便利な、登りやすい和田小屋からの祓川コースとなるが、今回、タクシー代はかかるが、長野県秋山郷の小赤沢コースとした。下山は、昔は秘境といわれていた、一度は訪れてみたい小松原湿原とし、1泊2日の山旅である。

小赤沢コースは、越後湯沢駅からタクシーで1時間半かかるが、標高1300㍍の三合目まで林道を車で行ける。駐車場は30台ぐらい置け、大勢の人が入っていた。登山口は新しいトイレの脇からで、しばらく行くと尾根になり、右に目陰沢が流れている。樹林のなかの木の根の多い湿った道を行くと、六合目から八合目にかけて急登に変わる。前にも後ろにも人がいるのでゆっくりと登る。傾斜がゆるくなり、樹林を抜けると尾根で、急に広々とした湿原に出る。鳥甲山や岩菅山の展望が広がり、緑のオオシラビソに囲まれた、草紅葉の眺めに歓声をあげる。槍や穂高も見える日だった。

池溏の点在する木道をしばらく行くと樹林に入り、歩きにくい大石の道となるが、そこを過ぎると広大な湿原が現れる。初夏は残雪と、チングルマやワタスゲが多く見られたが、今は草黄葉の原で、佐武流山が手にとるように見え、平標山から東へ続く谷川連峰が大きい。



苗場山より佐武流山を望む

赤湯方面にくだる木道を散策し、急下降する所まで行って引き返す。きょう泊まる所は、以前は「山頂ヒュッテ」といわれていたが、今は新築されて「苗場山自然体験交流センター」と名が変わり、ややっこしい。

大きな二階建で、広い食堂兼談話室や水洗トイレがあり、奥に寝室がある。早速、申し合わせたように、外のテーブルへ食べ物や飲み物をいっぱい持って出て、賑やかな歓談が始まる。酒をお燗するほどに涼しく、日が陰ると寒くなって談話室に入る。夕食までのひととき、1等三角点を触りに行く。みんなわさわさと三角点を中心に集まり、写真におさまった。この前は、ここにある遊仙閣に泊まったが、こじんまりとした、整理の行き届いた小屋だった。

早発ちのため、朝食を弁当にしてもらい、暗いうちに出発する。木道を行き、ヘッドランプをたよりに、やせ尾根を標高差200㍍一気に急下降する。くだりきる前に徐々に明るくなり、少し登り返して雷清水で朝食にした。このあたりはお花畑で、シラネアオイやヒメイワカガミがいっぱい咲いていた。冷たい水を補給し、歩きやすい道を行く。前方に谷川連峰が見え、きょうも晴天だ。

祓川コースを右に分けて、小松原コースに入ると、滑りやすい大石の累積する、枝や倒木の多い道で「神楽ノ庭」というとか。そこを通過すると一変して、草紅葉と池溏が広がり、下の方に和田小屋や田代湖が望見されて、ここを「神楽ノ庭」といえばよいのにと思う。カメラタイムをとってから、うす暗い樹間をくだると沢に出るが、道は少し左上手にある。標高差200㍍ほど登ると霧ノ塔。すぐに急下降となり、ササをつかんでの下りでいやな所だが、鞍部からは高原状のゆるやかな道となって、紅葉真っ盛りの日陰山に立つ。硫黄川を隔てて大きな苗場山が高く見え、それに別れを告げて、北に派生する、太くて高いオオシラビソが繁る支尾根に入る。くだりきると小沢が出てきてそれを渡り、右に沢沿いの道が続き、左の方に向きが変わると湿原が出てくる。このあたりは残雪があると迷いやすい所なので注意が必要だ。突然子どもたちのさわがしい声がして驚く。木道を行くと、高い二階建の頑丈な小松原小屋があり、その周りに大人や子どもが大勢いる。後からも来るという。小屋を覗くと食事中の子どもがいて、仕方なく外の一画を空けてもらって昼食にした。

先生らしい人が「どこへ行くのか」と訊くので「風穴へおりる」と言うと、「あの坂を!　もうあそこには道はないだろう」と言う。先生たちは、釜川沿いの林道の使用許可をもらい、車で下ノ代登山口まで来たと言う。その林道を歩けば、バス停まで3時間以上かかるだろうと言う。しかし、昨夏風穴へ、新ハイの

Kグループと、この初夏にはOグループが歩いた記録がある。先生たちは知らないのだと、安心して行くことにする。

シラビソの林を抜けると、待望久しい小松原湿原で、広狭の多くの田代を大きく分けて、上ノ代・中ノ代・下ノ代といわれ、その間は高低差を感じさせない林で、緑のシラビソに真っ赤なもみじが映える。木道に腰を下ろしてのんびりしたいが、まだまだ先が長い。

湿原を次々に通過して、中ノ代に着くと、先ほどの話の下ノ代登山口に行く道がまっすぐ前にあり、私たちが行く金城山から風穴へ行く道は、左に直角に西方に曲がる。道標は小さく、このあたりは注意して行く。

湿原の最後に、壊れた20～30㍍の急な階段があり、しばらくブナ林をくだると流水の沢に出る。水を補給し、ひと休み後登る。比較的ゆるい登りだが、長く感じられたのは疲れからだろう。もう9時間以上も歩いている。

金城山山頂への分岐をやり過ごし、紅葉した大きなブナの原生林を行く。始めはゆるいドリだったが、そのうちに曲がりくねった根と根の間に足を置いてくだる急降下となり、約1時間。標高差にして300㍍は、立ち休みを一回したきり、ほとほといやになった。「あの坂を！」と先生が言っただけのことはある。

ジグザグの道となり、ひんやりとした冷気が吹き出す風穴に頭を入れ、降り切った所に四阿があった。無駄使いの象徴のような大きな記念碑が建つ駐車場だ。旧草津街道だろう、大きなトンネルもある立派な道路が出来ていて、約束のタクシーが待っていた。

実にきょうの行動は11時間だった。われわれは少し遅い歩きだが、早く歩いても8～9時間はかかる長丁場の行程だ。年齢からいって二度と来られない所だから、ゆっくり歩いてよかったと思う。

越後湯沢に来て、温泉に入らないではないのでタクシーに頼むと、駅前の江神温泉に案内してくれた。銭湯より少し小さめだが、山の帰りには上等だった。近くの食堂で打ち上げを楽しんだが、それが新幹線の中まで続いてしまった。

苗場山はどこへ降りても出湯がある。今度はそこで一夜を過ごしたいと考えている。（平成13年9月29日～30日歩く）

《参考タイム》

〈1日目〉上野駅6・46（新幹線）越後湯沢駅8・09～20（タクシー）小赤沢三合目9・45～10・00―六合目11・50（昼食）12・25―九合目13・15～30―苗場山山頂小屋15・00（泊）

〈2日目〉山頂小屋4・30―雷清水5・45（朝食）6・20―日陰山10・10～20―小松原小屋11・15（昼食）11・55―中ノ代分岐12・25―水場13・05～15―金城山13・50―風穴15・30～50（タクシー）越後湯沢駅17・00～18・34（新幹線）上野駅19・58

《費用》

上野駅＝越後湯沢駅（新幹線回数券1人分往復）　11100円

タクシー（1台往復・契約）　30000円

山頂小屋（1泊2食付き）　7000円

江神温泉（入浴のみ）　300円

《地図》2万5千＝苗場山

《連絡先》

ゆざわタクシー　0257（84）2660

山頂小屋交流センター　0257（67）2202

関西百名山の完登を目指して

檜塚奥峰と五大尊岳

生駒聳峰

台高・大峰

関西百名山も最後になった。私としてはこの二山で終了する。本来山の数を定めて登るというようなことは山登りの本質からかけ離れたもので、良い山や自分の好みの山が100とか500とかで、区切られた数になるはずはなく、数などで区切る必要はない。しかし、山のガイドブックは百名山ばやりである。日本百名山があまりにも有名になり、それにあやかって次々と百名山がつくられた。

しかしながら、いったん数が定まると、人々は数の誘惑に勝てず馬車馬のごとくに突進し、山に登り続ける。もっとも数を続けるにはそれなりに登り続ける努力が必要で、生き甲斐ともなり、悪いことではないだろう。かくいう私も数の魅力には勝てず、果てしなく山を追い求める毎日である。

檜塚は高見山から南にのびる台高山脈からはずれた位置にあり、特に目指さなければ登りに行かない山である。私なども台高主稜線の山には登っているが、檜塚には足をのばしていなかった。関西からの交通も、三重県側に廻らねばならず不便である。

前日、芸濃町の錫杖岳を登った後に、伊勢自動車道を走って勢和多気インターで降りる。その後国道368号線で飯高町の道の駅を目指す。登山のときは車で仮泊するが、最近は各地に出来た道の駅をよく利用する。しかし道の駅もいろいろで、快適でない所もある。目指した飯高町の道の駅も何か落ち着かないので、奥香肌峡温泉を目指す。

昔の国民宿舎は立派なホテル（スメール）になり、公園や美術館が併設されていた。ここは迷岳の登山基地としてよく利用される宿である。今夜は公園の駐車場に泊まる。

檜塚奥峰から檜塚三角点を望む

翌日、連ダムから青田経由で木屋谷林道に向かう。林道は千秋林道となってどんどん高度を上げていく。千秋林業の小屋跡あたりで舗装が切れ、やがて作業小屋から200㍍ばかりのカーブ地点に登山口の標示が立っていた。既に三台の車が止まっている。青田村の分岐から5・4㌔の地点である。二台分の駐車スペースと、道端に二、三台は駐車できる。

登山道は急で、しばらく沢の左岸を伝うと右手の尾根へと登っていく。手入れされた植林の尾根上に登ると林道が現れた。もう車は通れそうもないが、登山道は何回も林道を横断していく。テープがたくさんあり迷うことはない。やがて鉄板張りの山小屋の前に出る。前には檜塚奥峰の道標が置かれていた。山小屋かと思ったが、中を見ると作業小屋として利用できるよい小屋である。

小屋から少しの登りで植林は終わり、一面ササ原が広がる。檜塚から奥峰が一望で、右奥には台高の主稜線がのびている。

ササ原を登って稜線道に合流する。まず左にたどって檜塚三角点を訪ねる。小ササの稜線は展望が広がり、歌でも口ずさみたくなる。ここには3等三角点が設置されている。稜線を元に戻り奥峰に向かう。奥峰（1394㍍）は三角点がないのでさびしいが、こちらも展望はすばらしく、今登ってきた檜塚を正面に、迷岳から古ヶ丸山あたり、北には明神岳・国見岳の山々。木屋谷の対岸には千秋林道が長々とのびていた。

稜線のササをよく見ると、みんな葉がかじられている。鹿のせいらしいが、これではササが枯れてしまうのではないかと心配だ。

登山コースは明神岳を通る周遊になっているが、今回は奥峰だけで下山した。

香肌峡温泉スメールは入浴料700円、70歳以上は500円だった。

（平成13年5月10日歩く）

私の関西百名山最後の山である。五大尊岳（790㍍）は、修験道の大峰南部奥駈ルートの、玉置山と熊野本宮に到る区間に位置する。当然奥駈をすれば通過する地点でもある。

大阪から紀見峠を越えて、橋本、五条を経由し、国道168号線で本宮町に向かう。天辻峠を越え、谷瀬の吊橋を過ぎ、風屋ダムから十津川温泉を通る。この周辺にもなつかしい山々が展開している。登山口の熊野本宮の手前で新しい道の駅を見つける。熊野川沿いに立派な建物と広い駐車場があり、前には食料品の店もある。NHKの朝ドラ「ほんまもん」の取材地の峰がはためく。放送に便乗して観光名所にするらしい。今夜はここで泊まることにする。

朝は一面川霧に包まれる。霧は晴天の証しで山は晴れるだろう。熊野川に架かる三里大橋を渡り、対岸の上切原に向かう。村の入口に五大尊岳の道標が取りつけられている。村人に駐車できる所を訊ねると、「村中は狭くて車も入れない。登山者は熊野川の川原に止めている」とのことである。他に車も見かけないので、川原に向かう川沿いの農道脇に車を置く。

関西百名山や和歌山県の山のガイドに取り上げられて、登山者が多く訪れるようになったのか、村中には登山口までの新しい案内板が各所に取りつけられていた。村を抜けて背後の尾根に取りつく。尾根道は幅も広く、奥駈道に通ずる古道を思わせる。

それほど太くもない植林帯を登って行くと、20分程の所に直径2㍍程の大杉が現れる。周囲の木々と明らかに違い、切り残されたその木の根元からは清水が流れ出ていた。一見したところまるで杉から流れ出ているように見える。本来なら神木とされそうな雰囲気の木であるが、流れ出る水はあまり旨くはなかった。

一登りで道は山腹を捲く水平道となり、縦走路の峠に登り着いた。六道の辻で、金剛多和（蘇6）の行場があり、石仏がまつられている。ここから南行すると大黒天神岳2等三角点峰で25分とある。

五大尊岳はここから北上する。前山を一つ乗り越す。貝づくり・蟻の戸渡りと言われる岩場まじりの急坂があり、手を使って登らねばならない。さすがに行者道だ。周辺のシャクナゲは、すでに花芽を付けていた。

前山（825㍍）をくだり狭い道を登り返すと、突然五大尊岳の標柱と錫杖が目についた。石仏もまつられた狭い稜線は、山頂という程のピークでもなく、今乗り越してきた前山のほうが高く堂々としていて、どうしてこのようなピークが百名山に取り上げられているのか不思議なくらいである。山頂とは考えがたい所だが、狭い鋭い稜線の一角は行場として適地なのかもしれない。山としては前方の大森山のほうが立派である。

見下ろす絶壁の下には小屋や道が意外と近くに見えた。狭い山頂はゆっくりと休憩もできない。それにしても、このような鋭い狭い山頂に、どのようにして石仏を設置したのだろうか。修行者の信仰の結果だろうが、宗教とは凄まじいものである。

同じ道を下山する。きょうは休日だが1人の登山者にも会わなかった。

下山後、下切原の熊野古道温泉へ走る。小さいきれいな温泉には透明の湯が溢れ、訪れる人も少なく独り占め。のんびりと関西百名山の完登をひとりで祝った。

温泉は無人で、料金500円は箱に入れるようになっている。

（平成13年11月23日歩く）

Aコースタイム

〈檜塚奥峰〉千秋林道登山口（1時間）作業小屋（35分）稜線（5分）檜塚三角点（20分）檜塚奥峰（1時間20分）登山口

〈五大尊岳〉上切原登山口（1時間30分）六道の辻（1時間40分）五大尊岳（1時間10分）六道の辻（1時間10分）登山口

△地形図▽2万5千㌢伏拝・大豆生

標高による山の紹介シリーズ 5

松田敏男

新ハイ関西65号

標高△△65mの山

蝙蝠岳（2865メートル・南アルプス）
岩籠山（765メートル・敦賀）
武奈ヶ嶽（865メートル・湖北）

蝙蝠岳

塩見岳の東南にのびる尾根上に蝙蝠岳がある。三伏山あたりから見ると、蝙蝠がゆったりと翼を広げているような、美しい三角錐の山である。

大井川方面から直接登るのは一般ルートではない。一般的には塩見岳の少し北方の主稜線上にある、蝙蝠岳より標高の高い北俣岳から往復することになる。だから登山者は極めて少なく、静かな南アルプスの雰囲気に浸ることができる。

真夏に1人で、蝙蝠岳に行くことを一番の目的として、塩見小屋より塩見岳を越えて往復した。

人があまり歩いていないから、さぞ花がたくさん咲いているだろうと期待していたが、当てが外れた。ハイマツの緑が主の地味な山だった。真夏の稜線は暑かった。

しかし、この稜線からは塩見岳の姿が尖って見え、見慣れている兜のような形からはかけ離れていて、新鮮だった。また悪沢岳が近くなったぶん大きくそびえ、蛇抜沢源頭のカールも見えて、なかなか姿がよかった。

今度は季節を変えて、雪投沢源頭のテント場から往復してみたい。

（平成2年8月5日歩く）

≪コースタイム≫
塩見小屋（往復7時間）蝙蝠岳
〈地形図〉
昭文社＝「塩見・赤石・聖岳」

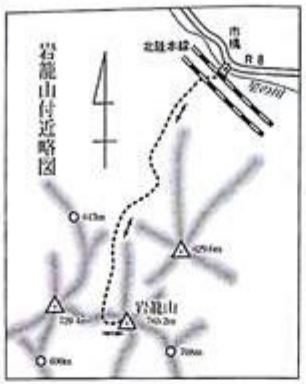
岩籠山

700メートル台の山にしては、なかなかいい山である。山頂一帯がいくつかのコブから成り立っており、ササ原と大きな露岩と自然林がうまくミックスされていて情趣に富んでいる。

また市橋からの登山道の谷が実に美しい。二回共秋に会山行で行ったが、紅葉する谷に急流の飛沫の白さがよく映えて、麗しい山道だった。滝も懸かり、谷道には変化があった。

花崗岩の谷特有の、水流が突然なくなって静寂が支配すると、梢を揺らす風の音が俄によく聞こえ出し、しばらく自然林のなかの急登を経て、ササ原の山頂部に達するのである。その変化がコンパクトにまとまっていて、繰り返し訪れたい山だった。

山頂からは北方に日本海がにぶく光り、敦賀半島の西方ヶ岳が霞んでいた。西には大きく野坂岳が堂々とした姿で望め、その左より南方面にかけては、山また山が似た高さで幾重にも連なっていて、実に奥深い眺めだった。



岩籠山山頂付近

山頂一帯のいくつかのピークは、淡みの強い紅葉の樹林と光るササ原とのコントラストが目に心地よかった。

こんなにすばらしい山なのに、二回共登山者にはあまり出会わず、獣のにおいのする豊かな自然が残る山である。

（平成7年10月22日歩く）

≪コースタイム≫
市橋（3時間）岩籠山（2時間）市橋
〈地形図〉2万5千＝敦賀、駄口

武奈ヶ嶽

前記の岩籠山と同じく野坂山地に属する山である。野坂山地は一様に自然林が多く、渋い魅力を持つ山々が集まっている。

最高峰の三重嶽が武奈ヶ嶽の北方にあり、どちらも根張りの立派な標高のわりには量感たっぷりの山だ。

登山道が最近開かれたと聞いているが、雪の多い時期のみ登りやすかった頃に、石田川ダムより取りついた。

よく晴れた日で風もなく、赤布を付けて登ることをせずに、快適な速さで山頂を極めることができた。日差しが強くなった季節特有の、冬枯れの木の影が真白な残雪の上にくっきりと映え、自然杉のシルエットは黒々としていて静謐な美しさだった。

山登りをする人たちのなかでも、特に山が好きな者のみ行きたくなるような山というイメージが、武奈ヶ嶽にはあるような気がして、登山道が開かれる前に登れてよかった。会山行で行ったが、大山さんと岩井さんと私の3人という少人数も、この山にはふさわしかった。

大斜面の山頂からは三重嶽が大きく、その左には稜線が真っ白に長い三十三間山、南方には遠く比良の武奈ヶ岳が逆光気味のシルエットで望見でき、360度の大展望があった。

（平成11年3月14日歩く）

≪コースタイム≫
石田川ダム（3時間30分）武奈ヶ嶽（1時間40分）石田川ダム
〈地形図〉2万5千＝熊川

新ハイ例会・自然観察山行

双六岳・樅沢岳・槍ヶ岳

北アルプス

鷲見守康

秩父沢は段差の大きい露岩帯の連続で、亜高山針葉樹林を欠くという特異な植生のため木陰もなく、真夏の日差しは容赦なく照りつけていた。双六岳を目指すルートの中で、新穂高温泉からわさび平を経由して登山口に達するという、この小池新道が一番ポピュラーなのだが、ポピュラーだから楽だということでは決してない。メンバーの大部分は新穂高温泉まで夜行で来ており、炎暑のなかのつらい登りにかなり体力を消耗している。

メンバーのなかでは、リーダーがなかなか休憩しない、という不満がくすぶっているようだ。19人ものパーティとなると休憩にはそれなりのスペースを必要とするものの、そんなスペースはおいそれと見つからない。「鏡平小屋には、かき氷があります」と、まるで馬の鼻先にニンジンをぶらさげるような私の言いぐさに、メンバーは苦笑するばかりだ。大ノマ乗越との分岐点で三回目の休憩。パーティはかなりばらけてしまっていた。こむらがえりで苦しむ人もあった。サブの岩田さんに見守られ、遅れてきたM・Tさんは「鏡平まで行ってみて、体調が回復しなければあきらめて下山します」と言う。

私自身は、またしても吐き気を感じていた。数年前から、アルプスなどの高山に登るといつもこうなってしまう。「やっぱり、高山病なのか……」何だか切ない思いで認めざるを得なかった。

日本の山でも、高山病は案外多いものだという認識はもっていた。命にかかわるような高山病は別として、「山酔い」とも呼ばれる軽い高山病は私の周囲でもしばしば起こっていた。けれど、自分には関係ない、と信じ切っていたのだ。植物にかぶれることもなければ、深窓の令

弓折岳稜線から望む樅沢岳

嬢にこそふさわしい（？）花粉症も自分には全く無縁なもの、と信じ込んでいたのに、そんな「自信」はことごとく打ち砕かれてしまった。いつからこんなになったのか。体質が変わってしまったのだろうか。思い当たることと言えば、父が逝った年の翌夏から、ということだけだ。

かつて山酔いに苦しんだ山仲間の経験から、携帯酸素が効果的だと私は考えている。休憩毎に数回ずつ吸入して登れば、山酔いを防止できるし、バテ防止にもなるのではないか。私の地元のハイキングクラブの会員にはそんなふうにすすめている。携帯酸素は、夏になればスポーツ店で販売され、価格も安くてごく軽量である。欠点といえば、ザックの中でかさばるということだろうか。

わさび平小屋から3時間20分で鏡平小屋に到着した。小屋に前泊していた2人が加わり、ここで今回の参加者総勢21人が揃った。

昼食時、食欲のない私はかき氷ばかりか、空き腹に350㍉リットルの缶ビールをあけてしまったが、この缶ビールの効果はてきめんだった。ダケカンバの崩れ斜面の登りで足元はおぼつかなく、ノロノロペースとなってしまった。けれど、疲労のたまっていたメンバーには好都合だったのか、リーダーの配慮によるペースダウンと善意に解してくれたようだ。

まもなく、主稜線に向けて高茎広葉草原の斜面をトラバース気味に登る。東の槍・穂高連峰にはガスがかかっているものの、時々ガスが切れて槍の穂先が姿を現す。下方には、お花畑の果てに鏡平があざやかだ。槍も穂高もお花畑も、みんな応援団。私たちはいつもこうした景観に励まされて登るのだ。

弓折岳との分岐点に到着してやれやれと安堵する。ここまで来れば大丈夫。M・Tさんもちゃんと歩いている。後は、高山の花を愛で、大きくたおやかな双六岳を眺めながら、多少のアップダウンをこなし、双六平までくだっていくだけである。

樅沢岳へ続く稜線西側のゆるやかな下りに入り、前方に双六平と姿の美しい鷲羽岳を見はるかし、どんどん進む。次第に双六小屋が迫ってくるや、私たちパーティを待ち受けているかのような2人の男性の姿が目に入ってきた。「お疲れさま！」と声をかけられてよく見ると2人とも見覚えのあるにこやかな顔。新ハイの人たちであった。本日の例会山行に申し込んだものの定員外となり、個人で計画したとのこと。日程もルートも全く同様だと聞き、パーティに加わってもらってもいいかな、と内心思ったが、それではやはりルールに反することになってしまうのだろう。紳士的なお2人も、そのことは十分承知されているようだ。

2日目の朝、山はガスが濃い、風が強い。けれど、一瞬にしろ青空も覗く。これなら8時頃には強風もおさまり、きっ

と晴れてくるだろうと考えた。昨夜の気象情報によると台風11号が太平洋上にあって本土をうかがっている。どの程度の影響が出てくるのか気がかりではあった。

予定通り西鎌尾根を進むことにする。昨日カットした双六岳を往復したいとも思ったが、メンバーの体力は温存したいし、雷注意報も出ている。それに双六岳との相性からすると、私が向かへば、おそらくガスはいつまでも晴れないだろうとも考えた。今までに、私が双六岳に登って晴れたためしがない。

1時間も要せず、樅沢岳山頂に立った。振り返ると双六岳頂上部は晴れてきた。結局、双六とはこういう因縁かと、いささかひがみっぽくなる。「また、来るさ……」と胸のなかで呟いた。

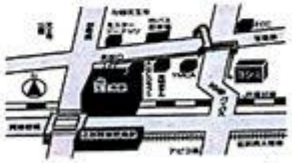
この日、天候は大いなる味方となって、すばらしい青空と澄んだ大気とを用意してくれた。そして、私たちの目指す槍は、天空にその雄姿を惜し気もなく展開し、目もくらむようなまぶしさで迎えてくれた。そそり立つ槍に向かって、西鎌尾根を前進する緊張感味に私たちは酔った。パーティは隊列がばらけることもなく、快調に歩く。メンバーはだれもが昨日とは別人のごとくハツラツとしており、最後尾を守るサブの岩田さんは驚き、そしてあきれていた。

西鎌尾根は小規模ながらお花畑もあって、女性陣がにぎやかになる。男性の中で花好きなA・Tさんが隊列の真ん中あたりに位置し、前後を行ったり来たり、こまめに動いて大活躍。花の説明は「花博士」のA・Tさんに任せ、私はもっぱら山名を説明し、北アルプス中央部の山岳景観を楽しんで歩いた。山岳としては比較的若い双六・三俣連華・樅沢のつくるおおらかな山並がとてもきれいだ。双六から西へ、弓折岳・抜戸岳・笠ヶ岳。双六と三俣連華の背後に黒部五郎、その隣に祖父岳・鷲羽岳・水晶岳、その奥に薬師岳。右へ野口五郎・表銀座の燕岳・大天井岳。槍・穂高連峰に続いて、焼岳・乗鞍・御岳。北方向のずっと遠くには、後立山の爺ヶ岳・鹿島槍も見えていた。

槍の肩には、予定より早く到着。盆過ぎとはいえ、週末土曜日の混雑を考え、槍岳山荘では個室を二つとった。受付で手間どっている間にガスが出てしまったが、山荘にザックを置いて全員で槍に登頂。ルートの交通渋滞を心配したものの、

私達におまかせ下さい。待っています！

●詳しくはホームページを見て下さいネ。



http://www.yoshimisports.co.jp/

登山用品専門店

山とスキーのヨシミ

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70

TEL 06（6772）7231

JR天王寺駅北出口より東へ強歩5分

午前中だったためかそんなに込み合わず、案外スムーズに登れた。

午後の時間帯を山荘前広場のベンチで長いティータイムとした。山でこんなにゆっくりとくつろげるのは本当にめずらしいことだ。槍の穂先を間近にし、ガスの流れを眺めながら、実に贅沢な時間である。そんな贅沢さに私はすっかりはまっていたが、さらに欲張って、槍に二回登ったメンバーが3人いた。いずれも女性である。M・Tさんなどは昨日の不調が嘘のように、私たちが注視するなかを颯爽と登って行ったのだった。

槍ヶ岳山頂への登り

夕食後の男性の部屋は早々と蒲団が敷かれ、いつになく静かだった。「宴会部長」もいないし、サブの岩田さんを始め、男性陣は真面目でおとなしい人たちが大多数だった。おしゃべりに花が咲く女性の部屋では、常連のH・Nさんが男性部屋の手持ちぶさたな様子を心配していたというほどだ。私もそんな空気が気になっていたところ、幸い談話室に宿泊客の姿がいなくなったこともあって、岩田さんに声をかけた。やがて談話室にメンバーが集まり、慎ましやかに宴が始まった。

窓から見える槍ヶ岳の空は、夜が更けるにつれ満天の星になった。

3日目、槍岳山荘の朝は好天に恵まれ、ご来光を仰ぐ登山者の動きで未明から活気づいていた。小屋の外に出て見ると、広大な雲海の上に富士山、南アルプス、八ヶ岳連峰、中央アルプス、浅間山の景観がすばらしい。眼前には、黒々としたシルエットの常念岳が優美な山容を見せている。

久しぶりに山小屋の朝食をしっかりたいらげた。私の山酔いは鎮静化したのか、昨日の夕食時から食欲は回復していた。

清々しい朝の陽光を浴びて、メンバーは全員にこやかな笑顔を見せている。5時30分出発。飛騨乗越からすぐ飛騨沢に入り、長い長い下山となった。山岳展望への未練を残し、穂高平小屋まで草木の花を観察しつつ、3日間の北アルプスの山旅を終えた。

（平成13年8月17日～19日歩く）

▲参考タイム▼

〈17日〉新穂高温泉バスターミナル前6・45—わさび平小屋7・50（朝食）8・30—小池新道登山口8・50—秩父沢9・30—シシウドガ原10・15—大ノマ乗越分岐11・00—鏡平11・50（昼食）13・00—弓折岳分岐13・45—双六小屋15・30（泊）

〈18日〉双六小屋5・30—樅沢岳6・15—千丈沢乗越9・35—槍岳山荘10・50—槍ヶ岳11・50—槍岳山荘12・30（泊）

〈19日〉槍岳山荘5・30—槍平小屋7・50—チビ谷9・20—穂高平避難小屋10・50—新穂高温泉バスターミナル11・45（解散）

〈地図〉昭文社『「上高地・槍・穂高」

馬で行く花紀行

モンゴル大草原

妻鹿　ひろ子

モンゴル

中国・大姑娘山の都合がつかず、モンゴル行きになった。5000㍍を超す高峰登山が大草原の乗馬トレッキングに変わった。全く正反対の旅を同行予定の自称「姫」とチンコロマーヤに持ちかけると、

「あっ、それもいいわね」

と付き合いのよい2人はあっさり乗り換えてくれ、6月23日、初夏のモンゴルに向かった。

函館や鳥取からという参加者も含め、かなり個性的な10人が集まった。直行便でウランバートルまで4時間半、時差もなく楽な距離だ。

機内アナウンスが気温31度を告げる。

「えっ！」

「日本より暑い！」

あちこちでうんざりした声が上がるが、機外に出ると風が乾いているので意外に爽やかだった。

空港には、留学やテニスの国際試合で何度か来日したことのある、タイワンという日本語の上手な青年が出迎えてくれた。本名はもう少し長く「愛と平和」という意味だそうだが、タイワンとしか覚えられない。

市内に向かう埃っぽい道の傍に、旧ソ連時代の戦車やモニュメントがそのまま飾ってある。道路の真ん中で子牛がゆうゆうと親牛の乳を飲んでいる。

「ああ、モンゴルだなー」

とようやく異国に来た実感がわいてきた。

土手などない川は平原を思うままに流れ、柳が水面に影を落とし、人々が楽しそうに泳いでいる。モンゴルは草原ばかりで、水泳など無縁と思い込んでいたので意外な気がした。旅行に出ると、自分の勝手な先入観との違いに驚くことばかりだ。

この地の夏は1日が嫌になるほど長い。23時過ぎにようやく日が暮れ始め、朝5時には夜が明ける。飲食店は午前3時頃まで営業していて賑やかだ。人々はいつ眠るのだろう。

モンゴルには番地がなく、土地の私有もないそうで、だれでもどこでも好きな所に家が建てられる。土地の私有登記という法案が出たが国会で否決されたそうだ。日本の四倍の国土に240万人の人口、そして長い遊牧の歴史があっての国情と思う。しかし、人々はだんだん遊牧生活を離れ、ウランバートル周辺に集まりつつある。町はずれは思い思いに板囲いした家が密集し、草原は裸地となり埃っぽい。翌朝、その道をテレジル国立公園

のツーリストキャンプに向かった。

ケルンに旗竿を立てたような祈りの塚、オボーが道の小高い所にあった。私たちも旅の安全を願い、時計廻りに三周して小石を積み上げた。イブキジャコウソウや様々のハーブが踏まれるたびに足下から薫風を上げ、太ったバッタがキチキチと、高圧電線の唸るような大きな音を立て飛んでいる。

国立公園の管理事務所で入園料を払いゲートを開けてもらった。木造の継ぎ接ぎだらけの橋を車はゴトゴト渡り、岩山に囲まれた狭い谷を行く。思い描いたモンゴルの風景とはだいぶ違う。タイワンは国内で最もカナダ的な風景だと説明するが、私はモンゴルの大草原が早く見たい。車でのんびり3時間程の所にツーリストキャンプがあった。美しいお姉さんがつくってくれたおいしい昼食を食べ終わると、馬がやって来るまで何もすることがない。みんなはゲルの前に集まり雑談をしているが、三方を岩山や白樺林に囲まれた魅力的な小さな谷間にいて、どうして落ち着いていられよう。周りの岩に次々に登りに行く。背後の丘を登ればその向こうもまた同じような谷があり小さな村がある。

「スイスの観光用ハイジの家よりも、この方がハイジの村みたい。ハイジの家はここの方がようく似合う」

と姫が言う。スイスは行ったことがないが、本当に丘の上をハイジが駆けて来そうで、どこの国に来たのかわからなくなりそうだ。ルリタマアザミの野を横切り、白樺の丘に登ればハクサンイチゲやクルマユリに似た花が咲いている。めずらしいものもあれば日本の花と同じものもある。キスゲもタンポポもワレモコウもみんな同時に咲いて、東の間のモンゴルの夏は花も虫も忙しい。花は少し見渡せばすぐに100種は超すだろう。

「花好きなSさんなら、1㍍四方で一日遊んでいるよ」

とつい噂話も出てしまう。

17時はとうに過ぎたが馬が来ない。タイワンは、

「今、馬を集めに行っているから」

と説明するが、18時を過ぎて待ちくたびれた頃にようやく5頭だけ来た。

「では馬の乗り方を説明します。あぶみに足はこのくらいかけて、動かすときは脇腹を蹴りチョーと言う。右に行くときは右に、左に行くときは左に、止まるときは手前に手綱を引いてください。5人ずつ乗ります。ハイ、先に乗る人」

これが乗馬教室の全教程で5分もかからない。馬に乗るのに何の理屈がいるものか、という顔をしている。モンゴルには4年も馬に乗りに来ているという2人が、待ちかねたようにいきなり馬を走らせた。つられて私の乗った馬も走る。初めて馬に乗って10分で「武豊」だ。遊牧民の兄ちゃんが、猛烈な勢いで私の脇をすり抜け、先頭の馬を止めにいったが、こんなものかと、それほど恐怖感はわかなかった。15分ほど乗って、この日の予定は終わった。半日乗ると思っていたのに肩透かしをくったようなあっけなさだ。

翌朝は18頭の馬と、4人の遊牧民の兄ちゃんと、ライトバンで荷物を運んでくれる運転手が集まっていた。出発前にこれから5日間自分の乗る馬を決める。黒い精悍そうな馬がいいな、でも気が荒そうだ、あれはチビだと選っている間に次々に希望者が手を上げ、残り少なくなってくる。私は焦って、嫌だと思っていたラクダ色のさえない馬に手を上げてしまった。タテガミまで短く刈り取られた巨大

歯ブラシのような情けなさである。仕方がない。とりあえずブラシと名付けよう。

馬の毛色は300種もあり、ラクダ色はホンゴルと言うそうで、私の馬は額に三日月があるのでサルタン（三日月）ホンゴルというかっこいい名前だった。ホンゴルが3頭おり、どれも走りたがりでいつも先頭争いをする。これにもホンゴル3兄弟と名付けた。ラクダホンゴルは体をぶつけて進路妨害をするし、チチ（小さい）ホンゴルはいきなり手綱に噛みつく。サルタンはそれらをさらりとかわして上手にトップに出る。草が剥げただけのような路は、砂埃を立てながらどこまで歩いても平原にならない。写真のような風景はどこにあるのだろうかと思っていたが、気がつけばいつの間にか大草原の真っ只中を歩いている。後ろで函館父さんが、

「やっと憧れのモンゴルだぁ。これを見たかったんだよ」

と歓声を上げている。

7月に入ればモンゴル国中でナーダムの祭りが始まる。ここはそのナーダムの競馬会場の一つになるらしい。男女混合の6歳から12歳までの騎手が6クラスに分かれ、名誉をかけた闘いを繰り広げる。最長30㎞コースでは、走り終えた途端、倒れて死ぬ馬もいるほどの過酷なレースだ。3歳の誕生日に自分の馬を贈られ、歩くより乗馬のほうが得意そうな子どもたちは、6歳でも相当な乗り手である。見渡すかぎり人影のない野は、あと二週間もすれば国中から集まった人々で埋まる。そのどよめきが聞こえるような気がした。

野はウサギの穴だらけで、ナキウサギも野ネズミも走る。プレーリードックほどの大きさのカルパカンも視野を掠める。ひばりが足下に寄ってきてうるさく鳴き立て、綱張りを主張する。はるか前方に二張りのゲルがあり、その先に別ルートで先行したライトバンが止まっている。馬の腹を軽く蹴ってチョーと叫ぶと、サルタンは軽い助走からたちまち走り出す。左手に手綱を持ち、右手で引き綱を鞭のように振り回す。あぶみに立ち前傾姿勢でチョーと叫ぶと、馬は前足を揃えて疾走する。揺れるリズムが変わり、馬の走り方が違ったのをはっきりと身体に感じる。バンの手前でドウドウと手綱を引くとすぐにスピードを落とす。サルタンは扱いやすい馬だった。

運転手が、

「上手いじゃないか」

と褒めてくれた。気分はますます「武士」だ。

美しい川のほとりに馬を繋ぎ、昼食にする。大鍋に湯を沸かしてお茶が出るまで、まず1時間、昼食までさらに1時間、食後はたっぷり2時間休憩。大陸時間は悠長に流れ、せっかちな山やは退屈で身の置き所もないが、ひたすら待つより仕方ない。

川辺は虻が多く、バイチャが虻避けに乾いた馬糞を集めて火をつけてくれた。草しか食べていない馬の糞は軽く匂いもない。マーヤがごそごそと古パンツを出して、馬糞の上で燃すが焚火が下手でうまく燃せない。見かねて八百屋お七の異名をとる私が燃してやるしかない。棒でマーヤのパンツを突っつき突っつき燃やしていく。モンゴリアンブルーの美しい空の下を馬糞とパンツのミックス煙が静かに流れ、さすがの虻も寄りつかない。

ボロはテンガロンハットにタンガリーシャツ姿で、背中にライフルを背負い口

笛を吹きながらポックリポックリ歩く。後ろを付いていくとまるで西部劇の一場面である。小川で馬が水を飲むと、ボロもひらりと降り、流れにひざまづき馬と並んで水を飲む。ますます西部劇だ。狼も多く、一頭の尻には襲われた傷跡がある。ライフルは手放せない必需品のようだ。

モンゴル大草原と馬

19時頃に川辺にキャンプを張り、パートルが夕食の準備を始めると、ボロはカルパカンを撃ちに行く。この日、一匹を仕留めて焼いた。少し硬い牛肉のようで羊より食べやすい。いつの間にか、どこからか山羊が一頭連れて来られて木に繋がれている。時々情けないような声でメェ～と泣いている。あれもいつかは私たちの胃袋に納まるのだろうか。モンゴル人の、一滴の血も大地にこぼさないという屠り方を見たい気もするが、見れば肉が喉を通らないような気もする（山羊は、食べたいと言う希望者が少なく、いつの間にかいなくなった）。

夕食が済むとパートルがギターを弾く。パートルは歌も上手く、日本の歌も二度ほど聴けば覚えてしまう。恋の歌、子供の歌、次々に歌が出るがなかでも「母さんの歌」は胸を打つ。広々とした草原に母さんを思う気持ちが切々と流れ、言葉は通じなくてもそれは確かに母さんの歌だった。私は毎晩リクエストしたが、この歌を歌うとパートルはしばらく目頭を押さえ泣いているように見えた。夜毎小さな焚火を囲み、私たちはそのようにして時を過ごした。満天の星空に銀河は流れ、茫々の野面にパートルの歌が流れる。私は「母さんの歌」をリクエストし、パートルは目頭を押さえる。

翌日も、見分けがつかないほど同じような丘をいくつも越えて行く。モンゴル人の旅人も時に方向を失い、夜中にゲルを訪ねることがあるようで、

「やっぱりね、不案内の人じゃわからないよ」

と妙に納得し安心する。

花は丘を越えるたびに種類が一変し、野の色が変わる。一面のハクサンイチゲの野から、見渡す限り黄色のポピーだったりピンクのシオガマだったりする。野を越え川を渡り、林を抜け、尾瀬によく似た美しい湿地帯を通る。モンゴルではめずらしい樹林の山に囲まれた花盛りの湿原の上に至仏山に似た山まである。

「まるで尾瀬みたい」

「あれが至仏で、燧まである」

と言っているうちに、キャンプ予定地の丘に着いてしまった。私たちの進み方が遅いらしくまだ昼前だ。パートルが昼食をつくり、ボロがカルパカンを撃ちに行くが、そうは上手くいかず、その日は空振りだった。みんなはわずかな岩陰を求めて昼寝をしているが、私は岩の上が妙に居心地がよく、いつもよじ登って坐っ

ていた。

みはるかす大草原の西はヨーロッパで、南は中国である。穏やかな夏空の下にいると、この広大な地で満足できなかったチンギス・ハーンやフビライの野望も、ただの強欲としか思えないが、極寒の季節を知らなければモンゴルの真の生活はわからないのだろう。

向かいの大岩の下を衿飾りのようにキスゲがびっしり取り巻いて咲いている。手前の針葉樹の下はエゾルリソウが群生し、薄青く煙っている。あちらの丘ではいちばん若い高橋君が走り廻り、友人に頼まれた凧を揚げている。凧は風に乗り高く揚がるが、景色が大きすぎてビニール凧が何だか貧乏くさく見える。モンゴルにビニール凧は似合わない。

「涼しくなったら、この奥の館跡に馬車に乗って出かけよう」

とタイワンが言う。退屈しているので何でも大歓迎だ。湿地の先と聞いて、10人も乗った荷車はぬかるみできっと足を取られる。私は馬で行くことにした。引かれてきたのはサルタンでなく、姫の愛馬ハラハッファンである。ハラは黒、ハッファンは禿げだそうで黒禿げ。姫が猛烈に怒り、タイワンに抗議をした。

「なんで黒禿げロ、私の馬もサルタンだ」

「サルタンは額に少し星があるが、あれは鼻面まで禿げている。禿げだよ」

「嫌だ、嫌だ。サルタンだ」

と譲らず、タイワンは呆れてどこかに行ってしまったが、姫の憤懣は納まらない。

「所詮人の馬、300ドルで子馬を買い、森の王子様でもバラの精でも、好きな名前を付けたら」

と言っても聞く耳を持たず、いつまでも怒っている。

このハッファンが息け者で動かない。やたら道端の草を食う。腹を蹴っても手綱を引いても動かない。お前はロバか！と、ののしっていたら馬に通じたのか、いきなり坐り込んでストライキをする。それでも降りないと横倒しになる。何という横着な馬だ。

湿原はハクサンイチゲ・キスゲ・エゾギク・シオガマ・ボタンキンバイと色とりどりの花が盛りで幻想的に美しい。廃墟はその奥の1時間程行った針葉樹林のなかにあった。400年前満洲からお姫様（人質）が嫁いで来、この湿地の奥に隠された。秘密を守るため、お付きの中国人、建設作業員は全部殺され、戦後ソ連によって発見されるまで存在さえ知られてなかった。人も近づかない湿地の奥の陰気な地に幽閉された哀れなお姫様の館跡は、今は小さな楼門と秘密のトンネルが残っているだけだ。廃墟の一隅にしっかりした廟があり、中に比叡山亀堂のものと同じ亀石がまつってある。こんな所にもモンゴルと日本と中国の、縄のように絡み合った歴史があったと再認識した。

周りは一面のハナシノブだ。モンゴルはカラフトハナシノブだろうか？　日本では絶対に出来ないハナシノブの花束をつくり、ロバハッファンの鞭にした。21時を過ぎると寒くて、馬車組にのんびり付き合っていられない。花の鞭でチョーとハッファンの尻を叩けばロバは馬になる。やれば出来るじゃない。チョーと叫くと花びらがぱっと散る。馬になったハッファンを走らせていると、乗っている自分もうっすらと汗ばんでくる。乗馬って騎手も汗ばむ運動量だったとは大発見だ。チョーチョーと鞭打ち続け、キャンプに戻るとハナシノブの鞭は20㎝ほどの茎だけになっていた。

翌日も私たちはペースが速く、キャンプ予定地はとっくに通り過ぎたらしい。それは私たちのせいではなく、先頭を歩くエギが速いのである。丘を越えると大きな村があった。モンゴルでは町かも知れない。朝夕一便ずつのバスも通っている。村に入るとサルタンの様子が変だ。急に気もそぞろになり違う方向に行こうとする。いつも先頭を譲らないのに心ここにあらずである。思いつめたようにくるりと後ろを向いて、放牧された馬たちに向かって悲しそうな声でいななく。引き立てられる囚人のような哀れな風情でトボトボ歩く。どうにか村はずれの林に馬を繋いだ。サルタンの態度急変に、ここは故郷だろうか、母馬でもいるのだろうかと訝かしんでいると、ゲルからエギのお父さんが出てきた。きょうのキャンプ地もとっくに通り過ぎたため、エギの村まで連れてこられたらしい。エギのゲルの中に野ネズミが一匹チョロチョロ出入りする。大勢人がいるのに、全く慌てる様子もなく、ストーブの傍で毛繕いまでする。バートルが捕まえてストーブに放り込む真似をすると、タイワンが笑いながら

「エギが泣くよ」

と言う。ゲルに住み着いたエギのペットだそうだ。野ネズミをペットにしている男がいるなんて童話の国のようだ。

エギの家では3日前に子馬が生まれ、きょうは、初めての乳搾りのお祝いの日なのだ。子馬は青いリボンを架けて貰っているが、まるで泥棒の頬被りのようで笑ってしまう。すこし子馬に乳を吸わせてから引き離すがこれが大騒ぎである。子馬は殺されるような声で泣き喚き、犬は吠え立てる。子どもが犬をすばやく押さえ込む。お父さんは騒ぎをものともせず、すばやく乳を搾る。牛と違いわずかしか搾れない。馬乳酒になるのかな？

翌朝、サルタンがいなくなっていた。この村にいた飼い主が移動のため、昨夜連れて行ったという。最終日は予備の馬でツーリストキャンプに戻ることになった。この馬は全く気ままで、姫が最初に放り出した馬だ。歩かないことはハッファン以上、ひたすら草を食う。仲間が見えなくなると渋々歩く。全くお手上げで、（好きにしたら）と私も馬上でぼんやりダレていると、知らない間にボロが後に廻り、馬の尻を思いっきり蹴る。馬体がグラッと揺れ馬が飛び出す。私は体勢を整える間がなく鞍にしがみつく。こんなことが数回繰り返され危なくて仕方がない。ようやく鞭代わりに柳の枝を手に入れた。鞭の力は絶大だ、チョーと叫ばば走るのだ。しかし馬鹿馬は馬鹿馬、上から読んでも下から読んでも馬鹿馬で乗り手のことなど少しも考えず、柳の骨に体は擦る、頭上に枝が出ていてもお構いなしに走り抜ける。慌てて体を伏せたが、帽子が枝に当たり後ろにはね飛ばされる。ギャグ映画のようなスリルと緊張はUSJなど問題でない。キャンプ地への最後のひと登りはさすがに息が切れたらしく、ボックリボックリと歩いている。この先は長く急な下りでこの馬では怖い。どうしようと思ったが、ゴールを目前にして馬もやれやれと思ったのか案外おとなしくくだった。

5日前はヤマハハコに似た白い花の斜面だったのが、帰ってみればエナメルのようにピカピカ光る、赤いユリの丘になっていた。草原のなかに、美しいお姉さんがにこやかに立っていた。

（平成13年6月23日～30日）

雲上の花山行

白馬三山

田中　明

北アルプス

高山植物に会いたい夢がこれでかなえられた、と同行の友は笑顔いっぱいで繰り返すのであった。いえいえそれは友だけではない、当の私自身も感動の連続であった。

春から計画し、花の予備知識もとどこおりなく入れ、登山口の猿倉に立った。快晴のもと、軽やかに歩を進める。

「わあ、オニシモツケだ！」と、周囲の登山客たちがびっくりするほどの声を上げたのは、同行の1人であった。低山でよく見られるヤマブキシショウマの仲間で、白色の五弁花が目を見張るばかりに群生している。これを見た友はいきなり大きな声で叫んだのだ。

猿倉を出発して、二つカーブをすぎると左に、明後日に下山してくる予定の白馬鑓温泉への道をやりすごす。おだやかな登りが続く林道は、歩き始めたばかりには最適のウォーミングアップだ。

正面に白馬岳の稜線をはるか遠くに見ながら登って行くと、白馬尻小屋到着である。よく冷えたトマトを一つずつ配ってバクつく。味塩をふれば、汗をかいた後では最高の口当たりだ。

「さあ、これからあの大雪渓を歩くのだぞ！」と身体に言い聞かせ、軽アイゼン等の身仕度をする。約2㌔・標高差600㍍の予備知識もすっかり忘れるくらいに感動し、うれしさいっぱいだ。

まるで蟻の行進とはよく言ったものだと感心しながら、私たちも白馬の夏の風物詩の一人となった。右よりの岩場付近に咲く黄色の花を見て、「キンポウゲじゃないか」と賑やかに汗を拭き拭き登る。一本立てていると、子どもたちが親御さんを尻目にどんどん登っていく。その元気よさについ嬉しくなる。

大雪渓を登りつめると、そこは葱平と呼ばれる山腹の取りつきで、いよいよ花山行の本番である。葱平は「ねぶかっぴら」と読むが、ネギボウズのようなシロウマアサツキ（ユリ科）が付近に多くあったために、そう呼ばれるようになったのである。小雪渓を通過すると、これぞ、ずばりお花畑だ。色合いも、ミヤマキンポウゲ・シナノキンバイ（キンポウゲ科）、シロウマタンポポ・カンチコウゾリナ（キク科）等の黄色、ハクサンイチゲ・モミジカラマツ（キンポウゲ科）等の白色、ヨツバシオガマ（ゴマノハグサ科）・ハクサンフウロ（フウロソウ科）・テガタチドリ（ラン科）等の赤紫、ハクサンシャジン・イワギキョウ（キキョウ科）、ミヤマクワガタ（ゴマノハグサ科）等の紫色、クルマユリ（ユリ科）の橙色等。脚の疲れも忘れて、カメラタイムを取りすぎ、登山者を守るボランティアの青年に「後がつかえますので、立ち止まらないで！」と指示されてしまう。花に夢中となり、いつの間にかあたりに友がいないのに気づき、上を目指す状況を何度も繰り返した。

たっぷりとカメラタイムを取ったので、村営の頂上小屋で昼食タイムとした。花との感動で食事もおいしい。11時半にはもう次の花が見たくて、結局30分ほどしか休憩しなかったようだ。

きょう宿泊の白馬山荘は目の前だ。時期はすこし遅かったが、北海道ウルップ島で発見されたという初見のウルップソウ（ゴマノハグサ科）に出会えた。距離はわずかしかない山荘との間には、白色のイワツメクサ・ホソバツメクサ・タカネツメクサ・クモマミミナグサ等、ナデシコ科のオンパレードである。左のすぐ下に旭岳を見て、白馬山荘には13時ちょうどの到着であった。

ミヤマオダマキ

チングルマ

コマクサ

さすがに花との出会いで気分はルンルンであったものの、3000㍍に近い高度では疲れだけでなく、少々頭の痛さが気になった。薬のお世話になったら、早い夕食後には部屋の賑わいもものかわ、夢のなかの花園の人となった。

翌朝、頭に何か重しを載せられている感じで目を覚ます。隣の人の太い足が私の頬を押さえつけている。急いで起き上がり、周囲の4人の友を探すも見当たらない。就寝前に話していた、ご来光を拝みに山頂に行ったことを思い出し、安心して時計を見ると4時半であった。熟睡のお陰ですっきり気分で身仕度をしていると、ドヤドヤと帰ってきた4人は「起こしても全く目を覚まさなかったので置いて行ってきたよ」と、それにしてもこの混雑した小屋のなかでよくもそれだけ寝られたものだとしきりに感心し、あきれていた。私に言わせれば、京都から車での昨夜の道中はもちろん、着いてからも4人はそこそこ仮眠をとっていたが、一睡もしなかった私は夕食後に誘眠剤を飲み、耳栓をして18時には普段かかないイビキの世界に入って、10時間を超える夢空間にいた次第である。

山小屋の食事はこんなものかと、用意した缶詰や梅干、漬物等を4人にもつまんでもらい、頂上を踏むのは、また別の機会にすることにして、杓子岳に向かって出発したのは7時ちょうどだった。

祖母谷温泉への分岐は、単独山行時に果たしたいコースと決めている。遠く南にあの槍ヶ岳が天をつくようにそびえ立っている姿を見ながら、道はぐんぐんとくだっている。岩稜の所どころではミヤマ

アズマギク（キク科）・シコタンソウ（ユキノシタ科）・イワベンケイ（ベンケイソウ科）等が楽しめた。杓子岳から白馬鑓ヶ岳の鞍部近くでは、出ました！　あの高山植物の女王コマクサ（ケシ科）が小さな集団をつくって咲き誇っているではないか。

同行の1人は「これですか？　女王は！　この顔は何て神秘的なんですかネ……」と、そこを離れようとせず、急かせるまで腰を上げずにカメラの方角を変えるのであった。葉はバセリのように細かく分裂し、長さ幅とも3～5㎝、花は淡紅色で長さ2㎝、外側の花弁は下部が大きくふくらみ、先が反り返りまるで馬の顔によく似ているため、馬をコマとの表現からコマクサと呼ばれると、これで何度目だろうか、図鑑の受け売りと相成ったが、素直に耳を傾けてくれる同僚に感謝しきりである。

鑓温泉への分岐を左に曲がり、急な下りだが、次第にゆるやかになってくると、

白馬三山（白馬岳・杓子岳・鑓ヶ岳）付近略図

そこは大出原で、白馬岳最指のお花畑が出現した。

雪渓の周囲にはピンク色が可愛らしいあのハクサンコザクラ（サクラソウ科）・シナノキンバイ・ミヤマキンポウゲ・ハクサンイチゲ・クルマユリ等の赤・黄・白・紫、まるで油絵そのものである。

やがて傾斜がゆるみ、登山道沿いには白色の花弁が固まって咲いている。ナナカマド（バラ科）の樹林を通り抜け、大きなジグザグをくだる。クサリ場を慎重に通過し、しばらく行くと白馬鑓温泉が見えてきた。足元に咲く花たちを見やりながらくだっていると、「大丈夫ですか！」と叫ぶ声に後ろを振り返る。友の1人が足を滑らし、5㍍程下の岩で止まっているではないか。傷一つなく、何とかはい上がってきたが、あの岩がなければ2㍍下のシュルントから雪渓の中に吸い込まれているところであった。みんなが一瞬青くなったのは言うまでもない。鑓温泉小屋の30㍍程手前である。ちなみにすぐ後に「雪渓に落ちやすい、足元注意」と立て看板があるが、彼は「設置場所が遅すぎる」と怒り心頭である。イヤイヤだれもが注意を怠るなかれと心して歩くべし。露天風呂がすぐ下にある粗末な山小屋に到着したのは、13時25分であった。

リーダーがすばやく山小屋に込み具合を訊ねると、「きのうは村営か？　白馬山荘か？」と尋ね、「山荘で泊まったのであれば、ここもきのうと同じくらいの混雑だ」と答えた。大出原の昼食時にメンバーで相談ができていたため、リーダーは即座に「予約をキャンセルし、このまま山をくだる」と決め、後の4人に行動予定の変更を伝えた。

この鑓温泉は2100㍍にあり、立山の「みくりが池温泉」についで日本で第二位の高所温泉である。「早朝の露天風呂からのご来光を拝むのは至福のひとときとなるぞ」とひそかに期待していたことは口には出せなかった。きのうの白馬山荘の込み具合がきょうもと言われると、さすがに熟睡した私も自信がなく、さっさと雪渓の入口で二度目のアイゼンを装着した。

途中で、滑る友にもアイゼンを進言して、無事雪渓をやりすごし、タテヤマウツボグサ（シソ科）・ウサギギク（キク科）・オオバギボウシ（ユリ科）等を観察しながら、足を引きずる友を励ましながらくだった。一本立てる回数も増え、予定以上に時間がかかり、猿倉へ下山したのは17時30分であった。

途中の小日向山あたりで、リーダーが手際よく携帯で八方の内湯温泉のある真新しい民宿を手配した。10畳の部屋に5人が悠々と足をのばし、満足満足の花の旅を締めくくった。

（平成13年7月20日～22日歩く）

▲参考タイム▼

〈1日目〉猿倉5・40―白馬尻6・40―大雪渓7・25―葱平10・00―村営頂上小屋11・00（昼食）11・30―白馬山荘13・00（泊）

〈2日目〉白馬山荘7・00―杓子岳9・30―白馬鑓ヶ岳10・15―大出原11・20（昼食）12・00―鑓温泉13・25～40―猿倉17・30（車）八方尾根民宿（泊）

〈地形図〉2万5千＝白馬岳・白馬町

〈宿泊〉

八方尾根・大下旅館

☎0261（72）2206

料金（1泊2食税別）8000円

混雑の山小屋よりきれいで格安で料理もうまい、おすすめの民宿旅館。

オリジナルザック
登山用品専門店
山と山道具のアドバイザー

神戸ザック

http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

イモックと、あんどうさい

OUTDOOR SPORTS SHOP
IMOCK.
KOBE

中型ザック紹介

◆ワイルドミュウ◆

山小屋2～3泊。シンプルで、フロントポケット、雷雨にも耐えるようにシングルプレートフレームを内蔵し、アクティブな山行に最適。立体裁断で身体にフィット。

＊カラー　ワインレッド×モノクロ
　　ネイビー×モノクロ
＊容　量　40㍑
＊重　量　1800g
＊素　材　高密度ナイロン
＊価　格　¥16,000

イモック山遊行くらぶ

6月16日（日）　真剣名山シリーズ
　板馬見沢谷～後山（1345m）
7月21日（日）　金勝アルプス
　雨乞山～亀王山　詳細はお問い合わせ下さい。

〒653-0039　神戸市長田区日吉町3丁目1番30号
カナノビル2F
TEL（078）621－5851
FAX（078）621－3528

■営業時間／10:00～20:00　■定休日／日曜日

上高地から

槍ヶ岳

北アルプス

杉本　高

海の日と次の土・日曜日を利用して、槍ヶ岳に登ることにした。

JRに乗り岐阜から高山へ。バスで平湯温泉へ入り乗り換えて、上高地へと入った。安房トンネルの開通で、関西から高山経由の上高地入りがずいぶん楽になった。夏のピーク時でも平湯温泉・上高地間のバスは、乗車整理券が不要なこともあり、特に下山時のルートとして活用できるように思う。

釜トンネルを抜け、左手に大正池と焼岳が見えてくると、上高地である。すると急にバスが動かなくなる。観光バスが駐車場に入れないため、渋滞しているのだ。定刻より5分遅れてバスターミナルに到着し、入山届けと昼食を済ませ、今夜の宿泊地横尾へ向けて歩き始める。

左手に中日新聞の支局が見え、遊歩道に合流し、人の流れに従って行くと、河童橋が見えてくる。このあたりが、上高地観光コースの中心だ。

あいにく、穂高の山々は稜線を雲に隠し、今にも雨が降りそうな雲行きである。梓川は雪解け水をとうとうと流し、両岸にはみずみずしい新緑の木々が枝を広げている。

新築中のビジターセンターの横を通り、小梨平へと入っていく。この小梨平は、上高地開拓の折に、りんご栽培の台木とするため、小梨（ズミ）の木が植えられ、開拓地が放棄された後も生育を続けたため、小梨平と呼ばれ、キャンプ場が設けられている。

小梨平を抜け、平坦な遊歩道を進むと、やがて前方に建物が見え、広場へと出る。明神分岐だ。左手へ行くと穂高神社奥宮の参道で、登山者や観光客が思い思いに休んでいる。ここで小休止することとし、明神館でりんごを買う。

槍ヶ岳

厚みを増す雲の流れを気にしつつ、徳沢へと向かう。途中、美しいせせらぎや、小さな池がひっそりとたたずんでいたが、近寄る雨の気配に押されて、ついつい早足となってしまう。梓川の岸から見る明神岳や前穂の山々も、心なしか暗さを増したように思う。やがて徳沢の一角に着いたとたん、小雨がパラつき始めた。周囲の樹林のおかげで傘もささずに歩くことができる。村営ロッジへの道を右に分け、キャンプ場を抜けると徳沢園のログハウス風の建物が見えてくる。

雨宿りを兼ねて、喫茶コーナーでコーヒーを飲む。これで穂高の山々が見えれば最高なのだが……。

雨がやむ気配もなく、他のグループのガイドが「横尾までは傘で十分」と言っているため、折りたたみ傘を取り出し、ザックカバーをして歩き出す。

10分程歩くと、左手に新村橋が梓川にかかっており、雨雲のたれ込める穂高の山々がその先にある。

小型車の走れる道を進んでいくと、新村橋より数段立派な吊橋が梓川に架かっている。横尾大橋で、この橋のたもとが、今夜の宿、横尾山荘である。

受付を済ませ、荷物を部屋に置き、外へ出てみると、雨は上がり、穂高の稜線が見えてきた。

翌朝は快晴で、前穂がくっきりと青空にそびえ立っていた。朝、冷気のなかを槍沢へと出発する。すぐに蝶ヶ岳への道を右に分け、槍沢に沿って登山道がつけられている。40分程歩くと、槍見河原の標識が立っている。この標識の前の小高い所に立つと、樹木の間から槍の穂先がちょこんと姿を見せている。

川は水量が豊富で、しぶきが霧のように立ち込めており、木漏れ日とともに幻想的な風景をかもし出している。

やがて一の俣の橋と二の俣の吊橋を渡り、なおも行くと、樹々の間に槍沢ロッジが見え始める。

槍沢ロッジで小休止し、いよいよ本格的になってきた登山道を、槍沢キャンプ地へと向かう。10分程進むと、槍見岩があり、再びここから槍の穂先を望むことができる。槍沢キャンプ地は、旧槍沢小屋の跡で、石積みが残っており、色とりどりのテントが張ってあった。

この先、いくつかの沢（ほとんど水は流れていない）を渡り、大曲がり（水俣乗越

新刊

四国の山を歩く

尾野 益大 著　四六判・一九〇〇円

西日本第一の高峰・石鎚山や第二の剣山、巨樹のブナが群生する大滝山や大座礼山など四国の山々の魅力と、登山コースを紀行文で紹介。周辺の名所や交通も記載。

北摂の山（下）西部編

慶佐次盛一 著　四六判・二〇〇〇円

京阪神から馴染み深い北摂の山々を写真、地図と共に紀行風に紹介。道標の有無や交通機関など、できる限りの詳細な情報を盛り込んでガイドする。

上春更郎編好評発売中

★表示の価格は消費税を含みません

ナカニシヤ出版

http://www.nakanishiya.co.jp/

京都市左京区吉田二本松町2

☎075-751-1211 〒606-8316

分岐）へと着く。ここから急登が始まる。

今年の北アルプスは雪が多いと聞いていたが、盛夏のこの時期に、地図にマークのないグリーンバンドより下で雪渓に出合った。

横断箇所では、すでに先行者が踏み固めたステップがついており、特に心配はないが、やや時間をくう。

天狗原への分岐からモレーン（堆石堤）への急登が始まり、水沢を渡った所で、早目の昼食とする。

横尾山荘のパンとジュースを主体としたランチボックスで昼食を済ませ、モレーンのグリーンバンドを目指し登り始める。

グリーンバンドを越えると、槍の穂先と稜線、そして槍岳山荘が目に飛び込んでくる。登山者が列をなして稜線へ向かう姿は圧巻である。

雪渓をいくつか渡り、坊主の岩屋へ着いた。坊主の岩屋は、別名播隆窟（ばんりゅうくつ）とも呼ばれ、槍ヶ岳初登頂、開山の祖と言われる念仏苦行僧播隆上人が、槍ヶ岳登山のつど利用した岩屋である。

このあたりに来ると、稜線に雲がかかり始め、槍の穂先が見えなくなってきたので、本日中の登頂をあきらめ、殺生ヒュッテに宿を決め、殺生分岐を右折して宿に到着した。

ヒュッテからは、東鎌尾根を行く登山者の姿が豆粒のように見え、時折雲が流れ、槍の穂先が姿を見せ、夕焼けが空をおおっていた。

翌22日の朝は、風の音で目が覚めた。建物全体を揺り動かすような強風だ。建物の外で日の山を待つが、風に身体を吹き飛ばされそうになり、石垣の風下側にしゃがみ込むが、今度は体温を奪われ、寒いことおびただしい。

やっと雲の切れ間から姿を見せた槍の穂先をカメラに収め、雲海に浮かぶ富士山などの山々を眺め、ほうほうの体でヒュッテに逃げ込んだ。やがて朝食となり、温かい味噌汁のおかげで、冷えた身体がほぐれていった。

当初予定していた槍から南岳への縦走は強風と途中のアイスバーンの情報から見合わせ、槍の穂先へ登り、往路を戻ることとし、ザックをヒュッテに置いて出発する。

風はいっそう強くなり、雨粒も混じり始めていた。ゴロゴロとした岩を踏みしめ、登山道に合流する。急斜面をジグザグに登る道を一歩一歩進んで行く。吹きおろす向かい風が、遠慮なく顔や身体に当たり、目を開けていられない。

やがて、ガスの向こうに、槍岳山荘の建物と登山者の姿が見えてきた。とりあえず槍岳山荘に入り、温かいコーヒーを飲んで、風のおさまるのを待った。20分程待ってもおさまる気配もなく、くだってきた人に訊くと、ルートが風下側なので特に心配はないとのことなので、穂先への登りにかかる。

この悪天候のおかげで、前日には2時間待ちだった穂先への登りも、待ち時間なしで登り始められた。岩場の登りだが、要所には鎖やハシゴが設けられ、特に危険もなく登ることができた。

穂先では、砂の粒が飛び、見えるのは、三角点標柱と小さな祠だけというありさま。写真を撮影して、早々に引き上げた。

穂先からの下りも順調で、一部登りと異なるコースをくだる。肩の鞍部で吹き抜ける強風に合うまでは、風を忘れていた。

槍岳山荘から殺生ヒュッテへ戻り、ザックを背負い、きのう登った道をくだる。モレーンをおりると風がやみ、大曲がりをくだると雲が切れ、太陽の日射しが目にまぶしい。

槍沢ロッジで昼食をとり、雨具などザックを整理して上高地へ向け出発する。

槍見河原で、槍の穂先に別れを告げようと思ったが、残念ながら雲のなかに姿を隠したままだった。

横尾、徳沢と順調に飛ばし、明神分岐までくだって、穂高神社奥宮と明神池へ立ち寄ることにした。

明神橋で梓川を渡ると、「山のひだや」「嘉門次小屋」という二軒の歴史を感じさせる宿の間に参道がのびている。参道の先には、穂高の山々をご神体とする穂高神社奥宮が小じんまりと鎮座している。奥宮に参拝し、社務所に参拝料を払って明神池を見学する。

明神池は一の池・二の池に分かれており、岩魚（いわな）が悠々と群れて泳いでいた。明神の山々を水面に映して、落ち着いた風情をかもし出している。

帰りは、梓川右岸に設けられた遊歩道を小1時間歩くと、観光客であふれる河童橋へと出た。バスセンターから平湯温泉行きのバスに乗り、夕暮れせまる上高地をあとにした。

車窓には、大正池と、今にも雨雲に泣き出しそうな焼岳が広がっていた。

（平成12年7月20日～22日歩く）

▲参考タイム▼

〈20日〉上高地13・00—明神分岐13・45～55—徳沢園14・40～50—横尾山荘15・50（泊）

〈21日〉横尾5・55—槍沢ロッジ7・20～30—大曲がり8・40—天狗原分岐10・10—水沢11・05（昼食）12・00—殺生ヒュッテ14・00（泊）

〈22日〉殺生ヒュッテ6・05—槍岳山荘6・50～7・10—槍の穂先7・30～50—槍岳山荘8・10～20—殺生ヒュッテ8・40～9・00—大曲がり10・55—槍沢ロッジ11・45（昼食）12・20—横尾13・40～45—徳沢園14・30～40—明神分岐15・25～30—穂高神社奥宮、明神池15・45～16・00—上高地16・45

▲地図▼

昭文社＝「上高地・槍・穂高」

『万葉集』歌枕紀行

立山三山

木村太郎

北アルプス

わが国の文献に立山の名が出てくるのは、『万葉集』に「多知夜麻」と詠んだ大伴家持の歌が最初といわれている。家持の越中国守時代に詠まれた「立山の賦」という長歌一首と短歌二首により、初めて文学的な描写がなされ、立山の姿が伝えられたといえる。

立山に降り置ける雪を常夏に
見れども飽かず神からならし
（巻十七～四〇〇二）

天平十九年（787）4月27日（太陽暦の6月9日）に詠まれた「立山の賦」は、越中国の掾（国司の三等官）として身近にいた、家持の親しい歌友の大伴池主に披露されている。越中随一の高峰立山を賦に詠む、野心的な歌篇を示した家持に応じ、池主は「敬和立山の賦」をすぐさま書き上げ、翌日に草稿を家持へ届けている。

立山に降り置ける雪を常夏に
消ずて渡るは神ながらとぞ
（巻十七～四〇〇四）

いにしえの歌人から神の山とあがめられていた立山を訪ねて、友人の梅津さんと歩いたのは3年前の夏のことだ。

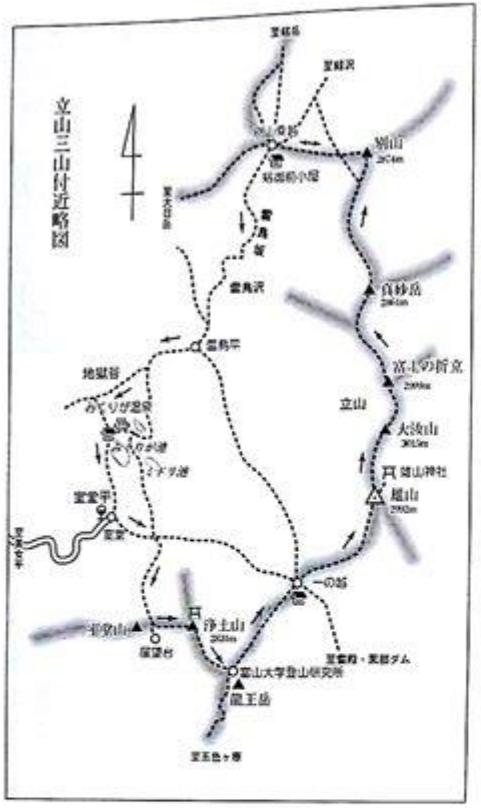
高速夜行バスで富山駅へ着き、富山地方鉄道の始発で立山駅へ向かった。途中通過した岩峅寺には、立山山頂の雄山神社の前立社壇がある。立山の夏山開きには、この地の本殿から御神体がつかわされてきた。千垣駅近くの芦峅寺は、立山の開山縁起に知られる佐伯有頼の霊廟や雄山神社の祈願殿など、旧蹟をとどめる所である。

浄土山道から室堂平を見下ろす

いくつかのトンネルを抜けて、千寿ヶ原と呼ばれる立山駅に着く。立山ケーブルに乗り継いで弥陀ヶ原の裾地になる美女平へ登る。昔の立山本道の巡拝路とおぼしき細道と交差しつつ、登山バスは室

堂平へと進む。室堂ターミナルから朝もやの消え去った立山連峰を見上げて、これから始まる登山への期待で興奮ぎみであった。

快晴を予感してTシャツと半ズボンに身を整え、浄土山を目指して歩き出す。破堂に通じる懺悔坂を見送り、室堂山の登山口から南進していく登路に入る。山草の茂る斜面をぬうように坂道を進んで、りんどう平と呼ぶ傾斜のゆるんだ尾根地に出て一呼吸ついた。



きのうの今ごろは、空気の汚れた街区の住人だったが、きょうは大気の澄みきった山地に遊んでいる。そして立山と大日連峰の清らなる山脈を望見して、生命が蘇える思いさえしていた。「幸福なる時間よ永遠なれ！」。大げさかも知れないが、この時は実に愉快な気分であった。

勇躍して登り着いた立山三山の一つ、浄土山（2831㍍）には石積みの阿弥陀堂と浄土神社がまつられている。遠くに槍ヶ岳、近くに薬師岳の姿を目で追いながら、稜線伝いに進むと、浄土山の友峰のようなピーク上に、富山大学立山研究所の建物を見つける。広くなだらかな頂のまわりはお花畑で、ミヤマリンドウやハクサンイチゲなどの小さな花が、精いっぱいに咲いていた。

霊山信仰における立山の地獄と相対する極楽を思い起こさせる浄土山のお花畑をくだり、雄山との鞍部一の越に着く。鎌倉期の『伊呂波字類抄』によれば、「膝を一輿と名付け、腰を二輿と号し、肩を三輿と字し、頸を四輿と名づく、中頭鳥瑟は五輿なり」と記されており、立山の山容を仏の姿になぞらえて一の越の名が付いているようだ。

一の越から岩塊の集積した立山本峰に取りつき、遮二無二進んで五の越の雄山（2992㍍）1等三角点に立つ。雄山神社峰本社のある山頂へは、岩石を踏んでワンピッチの距離であった。肌寒さを感じ、長袖シャツ長ズボンに着替えたあと、3000㍍の高地からの眺望を堪能した。

東方には黒部渓谷を隔てて、鹿島槍岳

あこがれの剱岳と剱沢

や五竜岳など白馬岳に連なる後立山の峰頭を眺めて胸は高鳴る。西方には室堂平のかなたに白山が浮かび、青年時代の大伴家持が国守として巡察したという、越中国の平野が広がっていた。

氷河地形の山崎カールを足下に急崖の道をたどり、巨岩を踏んで立山最高峰の大汝山（3015㍍）の直下に出る。当然梅津さんは岩峰をよじ登り、頂上を極めて背後の黒部ダムの眺めを楽しんでいた。だが、私のほうは寝不足の身体に高山歩きの疲労のためか、気分が重く午前中の愉快な感情は霧散していた。大汝山に立つ友人を撮影すると、地面にへたばりこんでしまった。

富士の折立を過ぎて、万年雪の内蔵助カールの雪渓を見て真砂岳を越える。さらには行者返しと呼ばれる険路を登り、石屑と石礫に足をとられながら、ようやく帝釈堂をまつる立山三山の一つ、別山（2874㍍）の頂上にたどり着いた。平安期の『今昔物語集』に帝釈ノ獄と記されている山で、帝釈天が衆生の善悪を考勘し天理を示す霊山であるという。

別山からの眺めは、剱岳の雄姿が圧倒的な迫力で押し寄せてくる。前剱から剱主峰にかけての鋸歯状のマウンテンラインが、優しく穏やかなサファイアブルーの中空を荒々しく切り裂いて孤高の刃を尖らせている。このような尖峰に、いつの日か私も登攀することができるのだろうか。私は胸苦しさと頭痛にさいなまれつつ、剱岳からの疑問符の声を聞いていた。

宿泊の手配をしていた剱御前小屋には16時に到着した。地元芦峅寺所有の山小屋であり、展望に勝れていると評判なので、予約を入れておいた。たしかに別山乗越からの展望は絶品ものだった。立山の盟主剱岳は、奇岩怪石を虚空に突き出して、存在感を誇示している。

まもなく大日岳を背景に夕日が沈んでいく。食欲もわかなかったが、一晩睡眠さえとれば体調はとり戻せるはずだ。夜が明ければ雷鳥沢をくだり、地獄谷を歩き室堂平へ下山。その後は美女平の原生林を探勝し、立山駅のホテルで汗を流して明日中に帰阪できよう。

わが良き友との立山の夏の夜を惜しんでひとときを過ごした。山小屋の外では、月姫が玉座へ昇り、星の仙女たちが舞踏を始めている時刻だった。「立山よ、いつか再会の日が訪れますように！」、ささやかな希望を胸に、暗闇の相部屋で、1人一組という贅沢な布団にもぐり込んだ。

眠りに落ちるまでの間に、信仰と憧憬の立山の歴史に思いを馳せていた。

大宝年間に、佐伯有若は逃げた白鹿の姿を追って山に入り、霊異に遭遇し、慈興と名乗って立山を開いたという。

天平年間に、大伴家持は「天離る鄙に名輝す」と立山を讃美して、心合う大伴池主と美しい山を共に詠み上げた。天平十八年、29歳の家持は、都を離れて越中国守として赴任する。翌年正月に、初めて過ごした北国の寒さで病いに臥した家持は、心細さを池主に訴えている。

有名な「山柿の門」（山は赤人、柿は人麻呂を指す）に言及したのもこのころである。「山柿蔑きが如し」と、弱気になっていた家持を持ち上げた池主の励ましもあり、病い癒えてのその後から、泉の湧くごとく多作の時期を迎える。「立山の賦」は、そのころ家持と池主が切磋琢磨し合い、歌神に身を捧げていた情熱の証しともいうべき歌篇だったのである。

雷鳥沢から仰ぐ立山主峰

月見れば同じ国なり山こそば
君があたりを隔てたりけれ
（巻十八～四〇七三）

家持と池主を同じ幻想に誘い込み、固い絆で結びつけたのは、「立山の賦」に象徴される越中の山河であった。しばらくして池主が越前の掾に転勤したときには、山は無情にも友との距離を隔てる障壁となった。

天平二十一年3月15日に、越中国境辺への視察に出かけた池主は、懐かしんで家持に手紙を送る。「北の方越中を望みいて芳徳を思うこと、たちまち恋の心を増す。」さらには「帰らざる春を惜しむべし、紙に向いて悲しみは極まりなし。」と、恋情にも似た気持ちを伝えている。

桜花今そ盛りと人は言へど
我はさぶしも君としあらねば
（巻十八～四〇七四）

我が背子が古き垣内の桜花
いまだ含めり一目見に来ね
（巻十八～四〇七七）

君がいないと満開の桜も楽しくないと詠んだ池主に対し、あなたのいた屋敷内の桜は蕾がふくらみ始めていますよ、見に帰って来なさい、と家持は歌を返した。越路の春は都の春とは異なり、愁いを含んだ春だったようだ。

その後、大伴池主は橘奈良麻呂の変に連座して身を滅ぼし、大伴家持は真の共感者を失うことになる。聖武上皇が崩御し、政争の嵐に巻き込まれていく前の時代、家持と池主ふたりが深き友情の契りを結んでいたころの、まぶしきまでの光彩を放つ贈答歌なのであった。

（平成11年8月7日～8日歩く）

▲コースタイム▼

〈1日目〉室堂（1時間20分）浄土山（30分）富山大学立山研究所（40分）一の越（55分）雄山（20分）大汝山（50分）真砂岳（50分）別山（25分）剱御前小屋

〈2日目〉剱御前小屋（別山往復50分）別山乗越（1時間20分）雷鳥平（50分）室堂

▲地形図▼2万5千＝立山・剱岳

連載

旗振り通信の研究 ⑨

姫路ルート

柴田昭彦

【明石から姫路へのルート】

●明石中継所は、篠崎『浪華夜ばなし』と松永『北浜盛衰記』に記載がないが、川口陽之『垂水史跡めぐり』（垂水区役所、昭和57年）に紹介されている畑山（旗山）である。もとは山上にある畑という意味で「畑山」と呼ばれたが、旗振り中継地であることから「旗山」とも書かれる。（『夢とロマンのライン　神戸　姫路　山陽電車沿線ガイド』浪速社、昭和53年）。ただし、もとは東山といい、旗山がのちに畑山になったとする説もある（『播磨地名研究会・編『播磨　山の地名を歩く』神戸新聞総合出版センター、2001年）。ここもノロシ場と考えられている。畑山の北部は朝霧公園と宅地に変わっているが、松が丘四丁目バス停の少し北の尊神神社近くの道路脇に、「遺跡　畑山」「旗ふり場（須磨鷹取山―須磨鉄拐山―大蔵谷旗山―魚住村金ヶ崎）」と記した、明石市・明石観光協会が昭和57年11月に立てた標柱がある。この標柱の表示地点は、『大蔵谷史』（昭和35年）の記述とほぼ同じであり、その引用らしいが、厳密には正確でない。なお、実際の旗振りポイントは、尊神神社の南西約200㍍にある。

★鉄拐山（237㍍）は須磨の旗振山の北東600㍍に位置しているが、『大蔵谷史』をよく読むと「須磨鉄拐山、今の山電の展望台の旗場」と記載（本誌64号参照）されており、旗振り場は鉄拐山の山頂ではないことに注意しなければならない。山電の展望台があるのは、旗振山の山頂の少し西と鉢伏山である。従って、旗場はやはり現在の旗振山を指すと考えるのが妥当であろう。『播磨　山の地名を歩く』で、畑山（旗山、42・4m）を旗振り場として紹介し、やはり標柱に惑わされたのか、「鉄拐山」を旗振り場としているのは残念なことである。なお、須磨の旗振山の呼称が普及するのは、昭和6年の旗振茶屋の創業以後のことで、大正期までの案内本には鉄拐山と鉢伏山の山名しか見当たらないようである。山崎恒雄『近畿乃山々』（近畿登山研究会、昭和3年）には、鉢伏山の「後方の峰を新鉢伏山と仮に名づける」とあった。

「遺跡　畑山」の標柱

★服部英雄『景観にさぐる中世』（199

5年）には、「神戸市東灘の保久良神社の山、明石市朝霧の旗振山、魚住金ヶ崎町の旗振山などがその山だったといい、旗振さんと呼ばれる人がいて、手旗信号を行なっていた」「子供の時に旗振さんについて山に登り、実際に旗を振るところを見たことがある人は、現存しているという（明石市教委、山下俊郎氏の御教示）」とある。

★確認のため、山下俊郎氏（明石市立文化博物館）に問い合わせたところ、朝霧駅の北方300㍍余りにあった小さな山の上で旗を振っていたとのことであった。ここが大蔵谷旗山である。土俵のように丸く、下に石があって飛ぶとどんどんという音がしたそうで、まわりより一段高かったという。この周辺から出土した須恵器があるので、円墳（古墳）であったらしい。現在は土取りされて旧形を保っていないという。ここから、鉄拐山と金ヶ崎山が見える。旗振さんが住んでいたのは、大蔵八幡町あたりの旧街道に面した北側の家で、八幡神社の西側あたりという（山下氏は平成3年前後に調査）。

★筆者は平成13年10月20日に朝霧駅から大蔵谷旗山（遺跡畑山、東山遺跡）を訪れてみた。松が丘4丁目バス停の少し東から南へ上がる狭い車道に入り、平らな頂上部から南側の展望が開けるあたりが旗振り場である（道の西側）。現地は畑が広がっていて、今でも文字通りの畑山である。須磨の旗振山が見え隠れしているが、金ヶ崎山の方は建物に隠されて見つからない。『明石の史跡』（明石市芸術文化センター、1982年）および『新明石の史跡』（あかし芸術文化センター、1997年）によると、東山遺跡では、弥生式土器・石鏃や、須恵器・土師器など古墳時代の遺物が発見されているという。

●金崎中継所は、明石市魚住町金ヶ崎にあり、明石市の最高峰「金ヶ崎山」（80・1㍍）の山頂である。山下氏によると、金ヶ崎には「めがね屋」という旅館があって、旗振り通信に使ったという望遠鏡も残っていたという。岡山ルートを再現する実験を行なった吉井正彦氏と西宮ローバー隊員らの調査（昭和56年）では、金ヶ崎山（現在、山頂に明石市西部配水場がある）で黒田実三郎氏（調査当時64歳）の父が旗振りをしていたといい、そのフランス製の望遠鏡（長さ1㍍10㌢）4本を今も保存しているとのことである（昭和56年6月11日放送、NHKニュースワイド640。同年7月12日付、神戸新聞。同年8月13日付、山陽新聞）。金ヶ崎の土井一夫氏は小さい頃（明治37～38年頃）に旗振りを目撃したといい、山頂に小屋があって、旗振りさんは窓から首を出して遠めがねでのぞいていたという（前掲、NHKニュースワイド640）。

★『歴史と神戸』第22巻第6号（昭和58年12月）に再録された「三木の眼がね通信」（山田宗作『東播タイムス』昭30）の記事によれば、明石市大蔵在住の陶芸家、小倉千寿氏は魚住村魚ヶ崎の出身で、北方の丘陵の最高地点を「鳥辺山」と呼び、通称「相場山」と唱え、旗振り中継所であったという。小倉氏は少年時代によく登って、その「旗ふり」達の姿を見掛けたという。これが約五十年前（明治38年頃）のことで、東方の鷹取山から受けて、高砂に送ったという。

★『明石市史下巻』（昭和45年）には、明石郡魚住村生まれの陶芸家、小倉千尋氏（明治33年～昭和37年）の紹介があり、「小倉千寿」は、『歴史と神戸』誌の誤植と思われる。引用時には注意が必要な実例であった。

★筆者は平成12年8月23日に金ヶ崎山に登ったことがある。JR魚住駅から歩いて、宅地を抜けて頂上の配水場に達し、展望を確かめて、金ヶ崎バス停から乗車して帰った。

★『播磨　山の地名を歩く』には、畑山（42・4m）の解説の中で、金ヶ崎山を旗振り場として紹介しているが、肝心の金ヶ崎山（82m）の解説では旗振りにふれていない。

●宝田中継所の名称は奇妙である。というのは、加古川市・高砂市域に宝田という地名は存在しない。しかし、山陽本線に宝殿駅があり、これは生石神社の石の宝殿にちなむものである。その北の高砂市阿弥陀町魚橋には、旗振り伝承のある魚橋山があるのである。『増訂印南郡誌』（大正5年）によれば、魚橋山に中継所が設けられたのは明治維新前のことで、大阪の信号を兵庫に受け、兵庫市場の相場を鷹取山（高取山）で受けて送り、金ヶ崎山からの信号を受け取って、姫路方面に通信した。これは大正3年末まで継続したという。

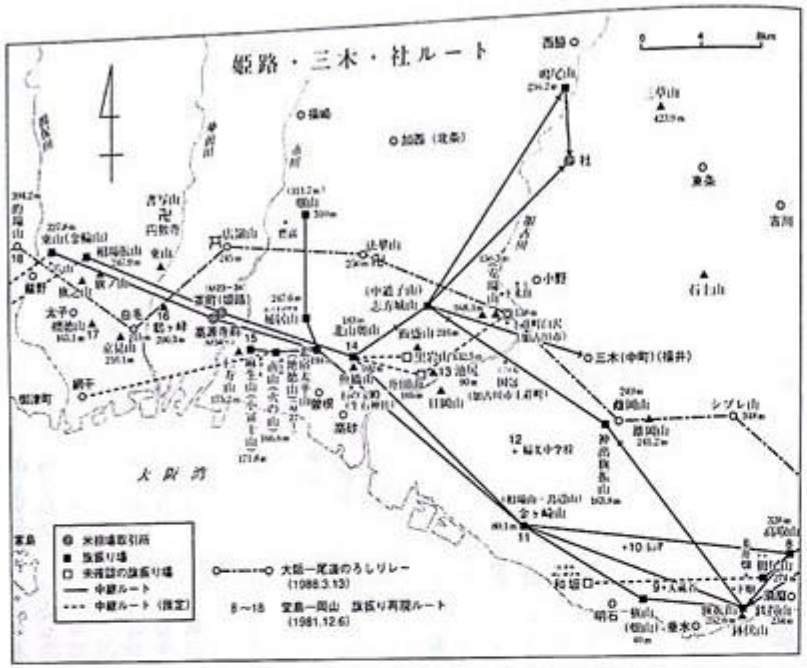
★『志方町誌』（昭和44年、172頁）には、相場中継所が紹介されていて、太閤岩から西へ500㍍余り、峰伝いに歩いて、縦走路と出合う地点（183㍍）に土盛りした跡があり、米相場中継所の小屋が建っていたという。明石から受けて、姫路へ送っていたという。この地点は、本誌41号（平成10年7月）では、北山奥山として紹介したことがある。

★「ふる里の山名絵地図、高砂市北部」（1988年）によると、地元で魚橋山というのは地形図の102㍍ピークである。ここは旗振り場ではない。183㍍の山を地元では北山奥山と呼ぶ。ここは、加東郡方面への旗振り中継点（増訂印南郡誌）でもあり、志方城山を経て、鳴尾山（滝野町・西脇市境）、社町へ送信したという。

●大平山（地徳山）の中継所は、姫路市別所町北宿と高砂市阿弥陀町地徳との境にある。姫路では、「おへらやま」と呼ぶ。この標高194・0㍍の大平山で旗振りが始まったのは明治27年ごろのことで、北宿の村民三名が従事し、快晴の時は、ここから一の谷（須磨）の信号が望見できたという（『別所村史』原稿、昭和27年編）。『姫路の山々』（中島書店、1996年）によると、金ヶ崎山からの信号を受けて、姫路に送ったという。大平山の旗振りは大正6年まで継続されたという。本誌41号のコースガイドを参照されたい。

★『播磨　山の地名を歩く』には、大平山が「旗振り山」として紹介されている。山麓の池のそばに「大平山旗振り所跡」の碑が建てられているという（その内容は『別所村史』による）。巻末の「播磨の山名総覧」にある、太平山（姫路市）と地徳山（高砂市）は、同一のピーク（194㍍）に付けられた呼称なので、備考に注記が必要であろう。

★魚橋山（北山奥山）、北宿大平山などの旗振り場については、木谷幸夫「姫路付近の旗振り山について」（『歴史と神戸』第29巻第6号、平成2年12月）に詳しい。『別所村史』によると、信号の経路は「大阪堂島、尼崎、御影山、須磨一の谷、魚住金ヶ崎山、北宿大平山、姫路、姫路近傍」である。木谷氏は兵庫県中世城館の調査団に参加され（昭和54～56年）、西播磨の山々を踏査し、旗振り伝承についても文献や聞き取りの調査をされており、姫路市域では、大平山、植居山、畑山での伝承が確認できている。木谷氏による



と、麻生山、檀特山、京見山、書写山は、見晴らしの良い山々だが、旗振り伝承は見つけられなかったという（伝承は見つからないが、京見山で旗振りが行なわれた可能性があると木谷氏はいう）。萩野秀（本名は桑島一男）氏は「書写山」を旗振り場としている（『岡山の電信電話』日本文教出版、昭和50年）が、裏付けはとれないままである。

★「逓信協会雑誌」大正3年2月号には、旗振り場として「姫路、曾根、網干」とある。曾根へは金ヶ崎山（または北山奥山）から伝えたのだろう。網干へは、次に述べる南山から伝えたのかも知れない。

●火山（御着火の山、南山）については、落合重信氏は「御着樋の山」の表記で、旗振り地点としている（地名にみる生活史）。寺脇弘光・報「御着付近の旗振り通信」（『歴史と神戸』第22巻第3号、昭和58年6月）によると、寺脇氏の親戚（姫路市別所町佐土）の隣家の九十歳を過ぎたお爺さんの記憶では、この人の子供のころ（明治30年代）まで、相場の動きを知らせる旗振りが、南山の頂上でおこなわれたという。北宿大平山から信号を受け取ったということである。南山付近の字地名に「火山」がある。田、畑に対する地字で、山を指さないというが、『飾磨郡誌』（昭和2年）には、火の山（御着の南東の樋山）は標高一六七米の山として紹介されている。寺脇氏は、北宿大平山での旗振りが最後で、これを姫路および近郊の人が近くの山で望見したというのが正確だとする。つまり、御着・佐土・別所あたりの人は南山などで受信したというわけである。南山は終点で、他の地点への中

継所ではないということになる。

★筆者は、平成13年8月29日、御着駅を下車、線路下をくぐり、北麓の御着南山公園への上り口から南山の三角点を目指して縦走してみた。途中の牛岩では、東方の大平山方面の展望があるが、二つ目の展望台は林に囲まれてあまり展望できない。展望台から少し南で左手に三角点方面への巡視路があり、いくつかの鉄塔の並ぶ山頂方面に出られる。鉄塔付近では、広大な展望の開ける所がある。

●麻生山（播磨小富士山、171・8㍍）、鶴ヶ峰（広畑区蒲田、200・3㍍。『姫路の山々』によれば、山名は鶴ヶ峰山）、檀特山（165・1㍍）は、吉井正彦氏らによる岡山ルートの再現実験（昭和56年）の時に中継地点として利用されている。木谷氏の推論に反して、吉井氏の聞き取り調査では、麻生山における旗振りの証言が得られており、間違いなく中継地点であったという（吉井氏からの平成12年11月の返信による）。筆者は平成11年1月9日に麻生山に登ったことがあるが、頂上における展望は広大であった。ただし、西隣の仁寿山方向は遮られてしまうため、網干方面への送信はできない。また、相場振山（姫路市太市）は見えるが、龍野市片山の金輪山への見通しはきかない立地にある。麻生山は姫路近郊（平地）への連絡に用いられたように思われる。

★姫路米穀取引所については、木谷「姫路付近の旗振り山について」に詳しい。明治23年に姫路米穀市場が茶町（現在の北条1付近）に開かれ、同34年には光源寺前（現在の駅前町付近）に姫路米穀取引所が設立された。

●神戸新聞社学芸部兵庫探検・総集編取材班著『兵庫探検・総集編』（神戸新聞出版センター、昭和56年10月25日発行）に「旗振山」の項目がある。これは、昭和55年5月27日付の神戸新聞の「旗振山」の記事の再録であるが、内容をよく調べてみると、新聞記事にない文章が追加されていることに気付いた。「姫路市太市駅近くにある相場振山も旗振山だったと、地元では言い伝えている。」おそらく、神戸新聞の旗振山の記事の読者から寄せられた情報で、出版の際に追加されたものではないだろうか。筆者は、この記事だけでは、相場振山の位置がわからないので、姫路市教育委員会に尋ねてみた。同文化課の担当者より、「地元に問い合わせましたところ、所在は『西脇』地先で、三つの池の内、真中の池より西北の山を相場振山と呼んでいるとのことです」（平成13年7月23日付）との返信が得られた。添付された地図によると、西脇の集落の西北方向の247・9㍍の山を相場振山と呼ぶようである。南北に並んだ三つの池（総称「開キ池」）の真中（弁天池）から見ると山頂は真西になるが、山塊は西北方向を含んでいる。なお、ここは3等三角点で点名は「入野山」と記されている。中継方向は明らかでないが、北山奥山、大平山、姫路米穀取引所、南山、麻生山のいずれからも受信できる立地にある。西脇を含む太市地区は江戸時代には龍野藩領で、太市村が姫路市に編入されたのは昭和29年であることから、相場振山は岡長平氏のいう龍野の中継地点である可能性がある。送信方向は、岡氏によれば赤穂とあり、落合重信『地名にみる生活史』（神戸新報社、1981年）では、赤穂高山と記載されている。

★筆者は、平成13年9月22日に、JR姫新線太市駅で下車して、相場振山の実地踏査を試みたが、点の記に記された南側の道は廃道となっており、西脇側から山頂に達することはできなかった。その際、西脇集落の西の踏切（開キ谷大池の南方）のすぐ南で、午前の草刈り作業を終えて家に戻りかけている地元の人とすれちがったので、もしやと考えて、「ソバフリ山というのはどの山でしょうか」とたずねてみた。その年配の男の人は、北側に大きく見える山の方を指して、247・9㍍の山が相場振山であることを教えてくれた。相場振山の話は先代から聞いているということだった。ずっと以前、登ったこともあるとのことで、登り口についても教えてもらった。東麓の開き谷の中央のため池（弁天池）の西側にむかしは子供たちのために、相撲取り場が設けられたこともあったといい、そこから突出した尾根筋をたどるのがいちばん登れる可能性があるとのことだった。池は南側の土手からではなく、北側から回り込むようにとのことだった。そこで、弁天池の北側の林道から枝道をいくつかたどってみたが、山頂に至る道は見つからなかった。ただ、谷に沿って踏み跡らしきものはあるようだった。

★平成14年1月12日、相場振山に再度、チャレンジする。今度は、西麓の神岡町入野の老人ホームからアプローチしてみた。旧地形図を見ると、ここから谷沿いに相場振山のすぐ西北西の鞍部を越えて弁天池に出る道が描かれていたからである（『姫路の山々』29頁）。前回の調査から、東側は廃道だが、西側は通れるのではと考えてみた。老人ホームの左側から右の池の土手をたどり、右の谷のやぶの薄い所を選びながらつめると鞍部に達する。右手に尾根伝いに踏み跡があり、最高地点を目指すと三角点に着く。山頂にはアンテナが立つが、視界はない。途中で北側がよく見える地点が何ヶ所かある。鞍部から東へ谷沿いにくだってみたが、猛烈なササやぶで、旧地形図のルートは廃道であった。強引に左岸の上方に残る旧道の痕跡をたどって開き谷奥池の土手に出たが、やぶこぎと茨で大変なルートであった。帰りに太市公民館に寄って、『郷土誌　おおいち』（太市郷土誌編纂委員会、平成3年）を購入したが、相場振山についての情報は掲載されていなかった。館長さんも相場振山の話は聞いていないという。明治は遠くなりにけりである。ただ、この本には、太市で最も高い247㍍の山は「鷹の子山」とある。田中早

相場振山（太市）の山頂
（アンテナがある）

相場振山（太市）

春・編『姫路市小字地名・小字図集』（1994年）によると、山頂から南方の鷹ノ子池（丸山古墳の北）にかけてを「鷹ノ子」、その東側中腹を「銭取」「銭取山」と呼んでいるという。銭とは相場の値段を指すものだろうか。相場振山の元の呼称は「鷹ノ子山」であろう。

★『姫路市小字地名・小字図集』の「太市中」の小字に「旗ノ山」が見える（125頁）。相場振山の南東1・8㌔付近で、相互に通信できる地点である。太市小学校の南方700㍍付近の標高80㍍ほどの尾根にある山を指す。旗振りとの関連は未確認である。『郷土誌　おおいち』には「畑井山」とあり、土器の散布地という。橋本政治『姫路市町名字考』には「旗ノ山」と表記されている。

★『播磨　山の地名を歩く』の「播磨の山名総覧」の太市町鵜飼の山に、広坂の南峰「旗之山」（70㍍）が掲載されている。ところが『太子町史第二巻』（平成8年）の11頁の地図を調べてみると、「旗之山」は鵜飼にはなく、広坂の照雲寺の西300㍍に位置するピークで、標高も95㍍ほどである。太市の相場振山の南方西寄り1・6㌔付近にあり、相互に通信できる立地にあるが、旗振り場かどうかは不明である。町史には、江戸時代前期以来の「たたら谷山」（照雲寺の北西にたたら谷池がある）の所有をめぐる争論に関わって出てくる山名であり、近くに甲山（城台、約180㍍。『播磨　山の地名を歩く』の山名総覧の標高68㍍は誤り）があることから考えると、城に関わる旗地名かも知れない。相場振山と二つの「ハタノヤマ」で二等辺三角形が作れるのは偶然であろうが、興味深い現象である。「旗ノ山」と「旗之山」の相互の見通しはききにくい立地である。

【西宮・神戸の旗振り場について】

★田岡香逸『西宮地名考』（民俗文化研究会、昭和45年）の「武庫」地名の解説に、生駒山と保久良神社の上で堂島の米相場を旗で合図して受けたという記述がある。

★『区制50周年記念誌　東灘のあゆみ』（東灘復興記念事業委員会、平成12年）に『東灘歴史散歩』と同様の記述（63頁参照）がある。

★本誌57号で紹介した「火と馬と旗（十二）」には「尼崎―摩耶山（神戸）―須磨」というルートが見える。摩耶山（702㍍）での旗振りの裏付けはとれていない。角川地名大辞典の「旗振山」の項目で、中尾東山（中央区中尾町北方）が旗振り場であるというのは、執筆者である小林茂氏（故人）の独自の見解であるが、おそらく地元の伝承によったものと思われ、摩耶山のちょうど南に位置していることを考えると、摩耶山の旗振り場とは、中尾東山なのであろう（六甲山頂の南方に金鳥山があるのも同じケースと思われる）。

★『垂水史跡めぐり』（垂水区役所まちづり推進課・直販、代金切手300円と送料切手140円、平成8年3月）は、垂水区の史跡案内で、「地名あれこれ」に、須磨の旗ふり山の解説が載っている。

（つづく）

（平成13年4月17日成稿、9月20日補訂）

（平成14年2月2日追補）

カタログご請求ください！

送料無料

山歩き&ウォーキング

オールカラー 登山情報満載！

国内・海外・自然観察の旅500コース以上を満載した総合カタログ。

初心者の山歩き

全く初めての方も安心して参加出来るコースが満載。

世界新探

世界の辺境や遺跡を訪ね歩き、雰囲気や人々と触れあう！

この秋オススメ　海外ツアー

三大瀑布ビクトリアの滝 & 喜望峰南アフリカ・テーブルマウンテン登頂 10日間
見渡す限りのお花畑は世界一の称号にふさわしい美しさ。さらに、世界三大瀑布に数えられるビクトリア滝も加えました。巨大な滝が圧倒的なスケールで迫ります。また、テーブルマウンテンの標高のマクレアースピーコン1086mにも登頂します。
9月1日(日)～10日(火)　528,000円

紅葉のマッキンリー デナリ国立公園 ハイキング&オーロラ 8日間
マッキンリーは白く輝き、紅葉はピークを迎えるこの時期に、タルキートナで遊覧飛行でマッキンリーに迫ります。デナリ国立公園で、野生動物観察、ハイキングを楽しみます。アンカレッジでも白く輝くレイブン氷河を目指すクロコバスハイキングなど、人気の2コースに挑戦！
9月5日(木)～12日(木)　458,000円

キリマンジャロ(5892m)登頂と野生動物 アンボセリ国立公園 12日間
アンボセリの魅力はなんと言ってもキリマンジャロ山を背景にした素晴らしい眺望と大迫力野生動物です。サファリを楽しんだ後、いよいよキリマンジャロに挑戦！高度順応をはさみゆっくりと登ります。最後の登頂は外国人ポーターが同行しますので軽装でゆく事が出来ます。
9月18日(水)～29日(日)　560,000円

紅葉のカナディアンロッキーと紅葉のメープル街道 ハイキング 8日間
美しい湖と黄っ白に輝く氷河を背景に、山全体が金色に彩られる黄葉の秋。鮭のカナダ西部・カナディアンロッキーと、燃えるような紅葉の東部カナダ・ローレンシャン高原をまとめて楽る素晴らしい企画です。旅の締めくくりは憧れの大陸横断鉄道で、ナント！1等車を利用。
9月26日(木)～10月3日(木)　428,000円

燃えるような紅葉の東部 カナダハイキング & ナイアガラの滝 8日間
ローレンシャン高原とアルゴンキン州立公園という東部カナダの2大紅葉名所を歩き、ナイアガラの滝にも訪れます。憧れの大陸横断鉄道はナント！1等車を利用。観光列車、ハンツビルとトランプランは自然の中の素晴らしいリゾート地で有名な滞在！
9月27日(金)～10月4日(金)　398,000円

韓国本土最高峰 智異山(1915m)登頂 3日間
智異山はハンラ山に次ぐ高峰で、韓国で最初に国立公園に指定されました。韓国5大名山の一つで、青紅で美しい山として親しまれています。そして尾根筋に上がり北朝鮮へ。ここから最高峰の天王峰(チョンワンボン)へ。登山路も良く整備され、安心して登れます。
10月13日(日)～15日(火)　100,000円

パリ島 パトゥール山(1717m)登頂と芸術の島を満喫する 6日間
独特な文化を持つパリの魅力に浸るため、通常の観光ルートではわからないような絶景を眺め歩きまた芸術の村を訪ね、ヒンドゥー寺院にも足をのばします。パトゥール山へはパトゥール湖畔から谷底の登山道を標高差約300mの段差された道を歩きます。
10月19日(土)～24日(木)　198,000円

玉山(3952m)と雪山(3884m) らくらく登頂 8日間
台湾の最高峰玉山、台湾第二位の高さを誇り、台湾五岳の一つの雪山に登頂。登山道はよく整備されています。台湾の山小屋は基本的に無人小屋ですが、「らくらく登頂」では寝袋やマット、食事は民泊スタッフが用意します。またポーターもつきますので軽装で歩いていただけます。
10月23日(水)～30日(水)　215,000円

詳しくはお問い合わせください。

お問い合わせは… 山旅専門旅行会社

アミューズトラベル株式会社　国土交通大臣登録旅行業第1366号　日本旅行業協会正会員　ボンド保証会員

〒530-0001 大阪市北区梅田1-1-3大阪駅前第3ビル7階

☎ 06-6456-3366　ホームページ http://www.amuse-travel.co.jp　E-mail:osaka@amuse-travel.co.jp　FAX 06-6456-3377

連載 三角点を訪ねて ⑰

ツツロ坂峠から西横根へ

鈴鹿

磯部 純

もう7月だというのに、保田君といっしょに歩くのはこの年初めてだ。久しぶりに2人の時間調整ができて、前年12月の多田ヶ岳以来、7ヶ月半振り。

この日登る山は、まだ踏んでいない鈴鹿の三角点峰「点名西横根」。鈴鹿の500㍍以上の三角点峰65座のうち、前年末で8座を残すのみとなったが、この年の初め、彼に故障が出て、その残りの三角点を訪ねることができなくなり、1人で登山道のある湖北の山を訪ねたり、新ハイの例会へ参加していた。家の者からは、道の無い山への単独行をしないで欲しいと言われていたからである。

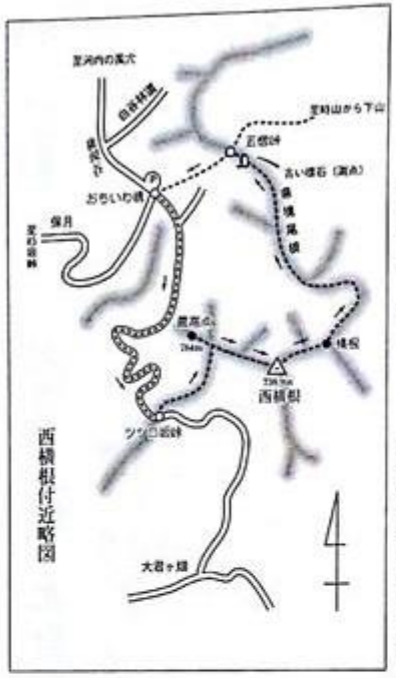
横根連峰は、三国岳から五僧へ至る滋賀・岐阜県の県境尾根の途中から西に分かれた尾根上にある。その尾根は、県境上にある横根から西横根、横根最高点と続き、ツツロ坂峠から高室山へと繋がっている。三角点は中央のピーク西横根にある。5月に岩野さんの例会で三国岳へ登ったとき、目の前にそびえる三つの頂を見て、近いうちに登ってやろうと思っていたのだが、やっとそれが実現できたのだった。

京都・四条大宮を7時に出発。河内の風穴の奥の権現谷を遡り、五僧峠の取付点・おちいわ橋西へ車を置いたのは8時40分。五僧峠から登ることも考えたが、結局、岩野さんの「近江側から登る鈴鹿の山々」の紹介にあったルート、ツツロ坂峠から登ることにした。

横根最高点から西へ延びる尾根岩稜帯

峠に向かい権現谷林道を歩き出すが、思った以上に林道は長い。途中、休日だというのに、土を積んだダンプカーが行き交い、ゆっくりとあたりの緑を楽しむどころではなかった。天気は上々だが、暑過ぎるくらいで、歩き出すとすぐ汗がしたたり落ちてくる。峠まではしっかり1時間かかり、ツツロ坂峠へ着いた時には思わず坐り込んでしまったほどだった。

峠から尾根へ取りつく。始めは杉の植林斜面だったが、すぐ雑木の林へと変わる。木には紫と黄色のテープが捲かれていたが、迷いようのない尾根だからか、そのテープもいつしかなくなり、山頂まで見ることはなかった。まだ100㍍も登っていないのに汗が滝のように流れ落ち、早や最初のピークで休憩し、水の補給。1・5㍍以上のお茶を各自担いで来てはいるものの、先が思いやられる。



西横根付近略図

尾根にのるとシャクナゲの林。4月にこのルートを小林実さんが歩き、花が満開で楽しんだと聞いていたが、この時期では花は全く見ることはできなかった。二つ目のピークから右へくだると、左は杉の植林斜面。枝打ちされた枝が尾根に散乱し歩きにくい。それもしばらくの間で、アカマツの岩稜尾根になると左前方に横根最高峰がそびえ立つ。山頂直下に岩が露出し、遠目に見たときと違って、荒々しい様相を呈している。

登るにつれ、尾根は細く急になる。急な岩尾根を途中まで這い登ると、背後に大展望が開ける。御池岳とその前に鈴ヶ岳、茶野から大見晴がすぐ目の前にあり、その下には鞍掛峠に至る大君ヶ畑道が白くうねっていた。

木につかまりながら岩肌の尾根を登り、横根最高ピークへ繋がる主尾根へ登り着く。すぐ坐り込み、また水の補給。横根最高点（764㍍）まで行くのに、わずか50㍍程に過ぎなかったが、往復する気にはなれず、最高点へは行かずじまい。早く三角点へ行って食事にしたいという気が勝り、そのまま右へくだり、西横根へ連なる尾根へと踏み出してしまったのだ。

木の間から見える西横根への尾根は、すぐにでも行き着くことができるほど近くに見えたが、思いのほか時間をくってしまった。地図で見る以上に小さなアップダウンが続き、しかも、露岩のやせ尾根。注意してくだらないと転げ落ちてしまいそうな個所がいくつもある。喉が渇き、エネルギーの補給をせずに、茶ばかり飲んでいたのでは腹に力が入らず、思っていた以上に時間がかかる。2人とも体力が落ちていると自覚しているので、ゆっくり焦らず尾根を進む。ピークを二つ越え、左へ曲がり斜面を登り切ると西横根（759・9㍍）山頂。展望は全くきかず、木立に囲まれた静かな山頂だった。

広場の中央にはつい最近に埋められたような、真新しい三角点標石が立ってい

◎蟻さんの熊野紀行Ⅰ（堺～本宮編）
新刊
紀伊路・中辺路を行く
山村 茂樹 著 価一八〇〇円 現代の巡礼・熊野古道ウォーキングを楽しむ。
★表示の価格は消費税を含みません
ナカニシヤ出版
http://www.nakanishiya.co.jp/
京都市左京区吉田二本松町2
☎075-751-1211 〒606-8316

た。地面の三方にトンボが打ちつけられている。顔は北方を向いていたが、正確には20度西に振っていた。標石の大きさを測ってみると、何と通常のものより遥かに大きかった。南北16㌢東西15・7㌢の大きさで、上から見ると僅か3㍉の差だが、長方形に見える。

この場所で大休止。汗でビショビショに濡れたシャツを脱ぎ、広げて干す。夏の山行では飯粒は喉を通らないので、2人とも種類は違えどコンビニで買ってきた麺類。それを食べる前に、まずは久しぶりの2人での山行に乾杯！　飲んで食べて、ホッとひと息ついたが、全く動く気は起こらず、ゆっくりし過ぎるほど休んでからの下山となった。

山頂から北東の尼根をくだる。東斜面は伐採地で大展望が開けていた。この山行中で二ヶ所しかなかった展望の良い場所である。東正面に烏帽子岳。その続きに双耳峰に見える三国岳が坐り、その右に御池岳が横たわっている。この前はあの尼根を登って、あの尼根からあそこへくだったのだと思うと、見ていて飽きることがなかった。

いつまで見ていてもキリがない。鞍部へくだり、太いブナの点在する林の斜面を横根へ登り返す。この山頂も全く展望はない。あたり一面イワカガミの群落が広がっている山頂だった。食事の後の登りはつらい。ほんの小さな斜面をたった30分登っただけで、もう息が上がってしまった。しばし休み、息を整え、北東へくだる。尼根に沿ってくだったために、西に振り過ぎて谷へおりそうになってしまい、慌てて東へトラバースして、県境尼根にのる。尼根は二次林で、それまでとは違った静かな趣のある尼根だった。林にはミズナラやシロモジが多く、通る人が多いのか、木にこれでもかというほどにテープが捲かれていた。

二次林の尼根を小さなアップダウンを繰り返し、北から西へ、そして北へと方向を変えて尼根を辿む。やぶもなく快適な尼根歩きだった。急な斜面をくだり、小さなコブを二つ越えると、前方の斜面の下に送電線が見えてきて、五僧が近いことを示していた。方向を左に変えくだり出すと、尼根斜面に墓石のようなものが立っていた。岐阜の山田さんや金谷さんから聞いていた標石である。近づいてみると、それは自然石を利用した標石だった。前面には「測點、地理寮」とあり、裏面には「射近江美濃國界字立分峠東南　之基點三百九度四六分　此距離十二間一尺六寸　明治九年四月」と彫られていて、標石の頭には十文字が刻まれている。その高さは70㌢程。何の標石かはわからなかったので、標石の写真を撮り、帰った後で国土地理院へ問い合わせることにした。

写真を撮った後、踏み跡の消えた尼根をくだると五僧峠。この峠は別名島津越と呼ばれる古道の峠の一つである。五僧越は、近江の多賀大社から彦坂峠、寒坂峠、保月峠、五僧峠と越え、美濃の牧田川の下山へ通じる古道である。別称島津越えと言われる所以は、昔、関ヶ原の合戦で敗れた西軍の勇将島津義弘が、それまで知る人の少なかったこの間道を通り、美濃国から近江高宮へ逃れ、甲賀から堺浦に出て、船で薩摩に逃げ帰ったことから呼ばれるようになったという。昔は関所まであり、栄えたという五僧も、現在では滋賀県側から林道建設がなされているものの、廃村となってしまって人の気配は全くない。

地理寮の設置した測点

五僧峠到着15時10分。草の生えた峠で、相棒が立派な4年物の「通行手形」（鹿の角）を見つけた。今回も、当方は何も得るものがない。林道工事の途中から旧道をくだり、10分程でおちいわ橋へと戻った。一段と体力の衰えを感じさせられた山行だった。

帰宅後、標石の写真を送り問い合わせたところ、国土地理院から返答をいただいた。それによると、「地理寮とは明治7年から10年まで明治政府の内務省内に設けられた機関で、現在の国土地理院の前身である。その業務は日本地図を作成する為の三角点設置、測量を主とし、それ以外に臨時に裁判上の測量や府県の境界の測量を行っていた。内務省第一回年報によると、滋賀岐阜両県の境界を測量した―と報告されていることから、明治6年に決定されたこの付近の滋賀岐阜両県境を、明治9年に境界測図を作成する為に、この基準点を設置したものと推定される。この標石は県境を示すものではないが、明治政府が明治初期に測量を行ったことを知る上の貴重な資料である」とのことだった。

三角点・水準点・天測点等、いろいろな基準点標石は国に登録されていて位置も記録されているが、この標石は、長年鈴鹿を歩いている人々には知られていたようだが、国土地理院には登録されていなかった標石だったのである。

その後、国土地理院では現地調査を行い、標石の存在を公にしたが、この貴重な標石を破損することなく、大切に見守りたいものである。

（平成12年7月20日歩く）

▲コースタイム▼
五僧おちいわ橋（1時間）ツツロ坂峠（1時間20分）横根最高点（40分）西横根（30分）横根（1時間30分）五僧峠（10分）おちいわ橋

▲地形図▼2万5千㌢高宮・篠立

連載

平成7年北海道への夏の山旅 続編

1等三角点峰（500㍍以上）548座完登の記録（第32回）

坂井久光

平成7年7月29日、落船山に登頂後、往路を下山して雄武町に戻った。道庁営林署に行き、毛鉤尻山（1等点・916㍍）の登路と林道の状況を尋ねた。「現在、上幌内からバンケオロピリカイ川沿いに林道が山麓深く入っており、500㍍程新しく延長された。また、旧終点から右へのび、雄武町のイナシベツ川林道と山越えで結ぶ計画がある。登路は全然ない」とのことで、一応、林道終点まで車で行ってみたが、一面のブッシュで踏み跡も取付点も見つからない。今回は無理をせず登山は取り止めることにした。

30日、浜頓別町に向かってオホーツク海岸沿いに国道を快適に走った。枝幸町を経て浜頓別町に着き、買い物をして、クッチャロ（喉もと）湖畔で昼食休憩しながら風光を愛でた。午後、宇曽丹砂金王国キャンプ場へ行き泊まった。

明治二三年頃、このウソタン川で砂金が発見され、ゴールドラッシュが起こり、一時は一万人の街が出来たとか。今でも川砂を掘ると少量の金が採れるので、500円で道具や装備を貸して観光客に掘らせているが、1日で1㌘も採れたらよいほうだとか。あすはこの川の源流、珠文岳（シュブンは鹿）に登る予定。

31日、5時30分出発。ウソタンナイ川林道を遡り、出合からさらに夏草の茂る荒れた林道を進んだが、崖崩れのため終点より1㌔程手前で駐車した。30分歩いて林道終点7時10分。ここから川へ下り、右岸・左岸と渡渉して遡行開始。熊の沢川沿いに踏み跡をたどって下二又8時40分、上二又10時。赤布の標識をたよりに砂金の光る川を右に左に渡渉を繰り返し、10時30分山道の切り開きに出る。ここからネマガリダケの切り開きの急登となった。白樺・ミヤマハンノキの林からハイ

珠文岳山頂にて

マツが現れるようになり、露岩を急登のすえ、ガスに包まれた珠文岳（761㍍）山頂へ12時13分に着いた。

山形氏と感激の握手。万歳三唱。撮影や記録をすませ、しばらく休んで往路を下山した。途中に神社や塚があり、往時のよすがを残していた。山名は支流シュブンベツの頭からとったものと思われると、町からの返事だった。15時50分駐車地へ戻り、その後、中頓別町経由敏音知温泉に行き、キャンプ場で泊まった。（ピンネは男、マチネは女。シリは山の意）

金山神社（ゴールドラッシュの遺跡）

8月1日、7時20分出発。旧JR線沿いに天北線沿いの国道を南下し、音威子府に出て天塩川沿いに西進。安川三に行き中川営林署を訪れ、鬼刺山（1等点）への林道の状況を尋ねた。その後、遠別町へ未舗装道路を走っていると、運転ミスで左の溝にはまってしまった。4WDだったがどうしても脱出不可能となり、救助を求めて営林署に走ったが、途中地元の車が来て、「奥へブルドーザーが入っていてちょうど帰る頃だから、それに引張ってもらうのがよい」と言う。待っていると、ブルが来て、チェーンで引き上げてくれ、窮地を脱した。峠を越えて遠別町へ走ったが、遠別町側で道路整備工事が進んでおり、トンネルや橋が架けられていて、二車線の舗装道路がつくられていた。

遠別町から遠別川沿いの車道を南下すると、私の名と同じ久光なる集落を通って上遠別まで長い谷沿いの道が続いた。風烈山（1等点・410㍍）に入る林道分岐を探していたら、営林署の車が来て、その道が登路だとのことで少し入ってみたが、悪路で引き返した。遠別町駅前食堂で昼食し、ここで不要な荷物を運送店から発送して身軽になった。国道を南下して留萌へ行き、ここで食料を買い入れてから浜益温泉へ行って泊まった。

2日、6時52分出発。東へ向かって当別町へ。泥川から南へ右折して郡境の峠を越え、青山ダムからキャンプ場へ行った。ここには神居尻山やピンネシリ山への登路があり、大勢のキャンパーが来ていた。

ちょっと休んで、共有地から自衛隊の門前へ行き、電話して入隊を乞う。やがて許可がおり、車がくだってきて開門してくれた。入門し急坂を登って阿蘇岩山の自衛隊に着き、来意を伝え、山頂三角点（418㍍）へ案内してもらった。ガスで展望は悪かった。担当の自衛官は良い人で、我等に他意のないことを認めてくれ、前任地は八重山群島（沖縄）と言い、名刺をくれ、島へ行く時は便宜を図ると約束してくれた。

下山後、当別町から江別市経由で札幌へ行き、10時頃国土地理院を訪ねた。職員に経過を話し、山形氏は必要な「点の

記」を入手した。昼食後、川越皓充著『北の三角点探訪』の画家、倉岡啓吉氏宅を広島町に訪問した。川越氏の現状スケジュール等を聞いたり、倉岡氏の作品を鑑賞して辞した。札幌から高速道路にのり、朝里川温泉に入浴後、余市町の海岸で泊まった。

3日、7時出発。国道5号線を南下、国富で右折。中ノ川から上中ノ川に左折し、岩内町から車道に出て、白樺峠に駐車。今晩は美利河ダムで会員の秋村氏一行と合流する予定である。峠から目国内岳（1203㍍・3等三角点）を登り、新見温泉へ行き入浴後、蘭越経由で5号線を走り、長万部町を通り国縫で右折して今金町へ向かう。峠を越えてくだると美利河ダムで、近くにスキー場や温泉があり、入浴後ダムに駐車。やがて秋村氏と小幡氏が到着。4人で楽しい夕食を終えて、翌日のルコッ岳（532㍍、ルコッは足跡の意）の登頂（私は再登）を夢見て就寝。

4日、5時14分出発。中里からホンシュブンナイ川（シュブンは鹿、ナイは大川の意）林道を通り滝を越え、ルコッ岳から発する支流沿いの草におおわれた林道に入り、終点で6時頃駐車。標識（平成3年国土地理院の下請け測量隊設置）をたどり、沢登りにかかった。滝を二、三越え、茂った沢をつめ急崖を登る。支稜線への切り開きをたどるが、5年前の切り開きはやぶがひどく茂って、どこがコースなのかわからない箇所があった。半分はヤブ漕ぎで、やっと山頂を望見する主稜線に達した。ひと息入れてなおもやぶと化した稜線を行く。一峰を越え、コルにおりたがネマガリダケのブッシュがひどい。そのうえ、小幡氏が遅れていたので、山形氏の判断で11時40分、引き返すことになった。15時に駐車地に戻り、美利河ダム温泉に行って泊まった。

5日、秋村氏と別れを告げ、5時40分出発。長万部の知人高野宅を訪問。彼は東京農大出身の器用な方だ。彫刻が趣味だが、独りで八角形の家を設計して建設中であり、来年完成の予定とか。未完成の家に招待され、作品や入賞杯や賞状等を見せてもらった。

また、彼の話では、私を以前ルコッ岳に案内した長谷川さんは黒岩に住み、超能力者の大看板が国道に掲げられ、毎日信者や患者が彼の家に押かけているそうだ。家の周囲は、回復した人たちの奉仕によって、池・橋・門・便所まで建てられて公園のようになっているとか。

再訪を約して高野氏宅を辞し、5号線を北上して尻別岳登山に向かった。蘭越～ニセコと走り、後方羊蹄山の南麓を通って、喜茂別町の尻別岳登山口（留産）から林道に入り、8時30分三合目で駐車。よく踏まれた登路を登って10時前に登頂。2等三角点（1107㍍）が設置してあり、展望は良好だ。北西に後方羊蹄山、南の貫気別山が望見できた。登山者は数人で、1人は「札幌山の会」の理事で、私の知人、JAC会員の柳田涼子さんも会員とか。山形氏も名刺交換して往路下山した。

百名水で有名な京極名水で昼食休憩して、余市町の日果ワイン工場へ行き、見学したり料理を賞味したり、土産品を買ったりした。その夜は、近くの公園で泊まった。

6日、10時の小樽港発フェリーに乗り、7日帰京した。（次号へつづく）

（文中の太字は今回登った1等三角点の山を示す）。

〈山のレポート〉

富士は父、天城（あまぎ）は母

（井上靖）

紀平　龍雄

作家井上靖の故郷は伊豆である。母校の湯ヶ島小学校の校庭には彼の石碑が建っている。孫のような後輩の子どもたちにさまざまな思いをこめて先輩が贈ったことばである。後輩たちへの激励や願いであるとともに、自身の望郷の感慨でもあろう。

地球上で一番清らかな広場。
北に向って整列すると、遠くに富士が見える。
廻れ右すると天城が見える。
富士は父、天城は母。
父と母が見ている校庭でボールを投げる。
誰よりも高く、美しく、真直ぐに、
天にまで届けと、ボールを投げる。

井上　靖

井上靖が誇らかに「地球上で一番清らかな広場」と詠った母校湯ヶ島小学校校庭からの、「父と母」と形容された富士と天城が見たかった。母（天城）から父（富士）も眺めたいと思った。

だれかの随筆か詩に、「伊豆の人はどの山を指さしても、天城山と教えてくれる」という趣旨の一節があったが、それだけ天城山は伊豆の人々の誇りであり、慈母の懐抱なのだろう。

天城山けさよく晴れて兄弟の二つの峯が明らかに見ゆ

山口茂吉

茂吉が詠うような天城山という独立の山はない。天城連山の総称であり、一般には万二郎岳（1300㍍）・万三郎岳（1406㍍）を指す。なぜ万太郎・万二郎でなくて万二郎・万三郎なのか、なぜ弟のほうが背（標高）が高いのか、おもしろいと思う。

JR伊東駅から天城高原ゴルフ場行きバスに乗り1時間10分、終点で下車する。ここが天城山の登山口である。3月下旬というのに20～30㌢の積雪がある。しかしよく踏み固められている。取りつきからヒメシャラ・ヤシャブシが目立ち、ブナやアセビなどの自然林で心が解き放たれる。高度を増すごとに雪も増すが、時折、木の間越しに富士が顔を見せてくれる。相模灘や大島も見える。意外と簡単に、1時間ほどで万二郎岳頂上に着いた。とぼけたような独特の山頂標示板がおもしろい。遮るもののない視界だが、春霞のせいで、期待の富士山は見えない。少し前方から万三郎岳が早くおいでと呼んでいる。

万三郎岳へは一度くだる。やはりこのあたりからアイゼンが必要になる。アセビがトンネルをなしている道の両側はシャクナゲの群落で、その時期にはさぞ大勢の人で賑わうことだろう。最後の登りがきつく、雪も一段と深いが、樹氷が励ましてくれる。1時間強で万三郎岳に達する。1等三角点を撫でる。ここが伊豆半島の最高峰だが、先刻まで時どき真っ白な姿を見せていた富士は見えない。

時間は11時半、天城峠のバスの時刻が16時50分。間に合うだろうか。これから先は残雪も多そうだし、年輩者もいる。折り返すルートも考えたが、好天と展望

の魅力に誘われて縦走することにする。少しペースを上げて天城峠を目指した。

（1995年3月20日歩く）

天城連山は伊豆半島を南北に分断するように東西にのびている。東から歩き、万二郎岳を越えて20㎞近く縦走してくると、かなり標高が下がった天城峠あたりで目が覚める。再び標高をもたげる西半分（伊豆山稜道）の主峰は猫越岳である。その伊豆山稜道の西半分を昨年の3月19日に歩いた。今度は逆に西から東へ、やはり天城峠をゴールにした（約15㎞）。この冬は暖かい日が多く、雪ははとんどなかった。

前日泊まった湯ヶ島温泉湯川屋を朝7時、タクシーで出発し（バス便はなし）、30分で仁科峠に着く。それまでの曲がりくねった細い道が一変して、その少し手前の風早峠から突然立派な広い道路になった。「この一帯は国有林です。少し前に近くで植樹祭があり、天皇陛下が来られたときに出来た道路です。それにしても植樹祭のために数千本の杉を切り払って自動車道をつくったのですからおかしな話です」と運転手が教えてくれた。そう言えば私たちが山登りの支度をする5分間ほどの間、通り過ぎる車は一台もなかった（西天城高原線というらしい）。高度経済成長期かバブル期の話だろう。ムダな、否、有害無益な話だ。

仁科峠は標高800㍍、いくつかの起伏はあるが、今日の最高地点猫越岳は1035㍍だから楽な行程である。絶好の富士の景色を期待した展望台は朝霧で何も見えなかった。後藤山（994㍍）から静かな猫越火口湖を越え、猫越岳まで1時間強、ここには2等三角点が立つ。いつものように頭を撫でる。相変わらず富士は姿を見せてくれないが、一帯の植林帯は明るく、勝手に歩が進む。ブナ林が美しいツゲ峠（1022㍍）は恰好の休憩ポイントである。

三蓋山（1013㍍）、滑沢峠を過ぎ、二本杉峠（旧天城峠）へ着いたのはお昼に近かった。私たちに馴染みのレンガ造りの天城トンネル（天城峠）が出来る以前は、ここが天城峠だった。もう少し先へ進むと、天城の眺めが楽しめる吉峠に出る。うまい具合に天気も回復して展望も開けてきた。ここで昼食とする。ここから天城峠のバス停まで1時間少々のドり道は富士が見え隠れして楽しい。全く静かなコースで、半日を通して登山者は1人しか出会わなかった。

そして今年、やはり春3月7日に再び湯ヶ島を訪れた。伊豆は春がいい。今回は病みあがりだから登山ではなく温泉が目的だ。それでも、あまり天気がいいので天城峠のやや北、昭和の森会館（ここには伊豆近代文学博物館があり、伊豆ゆかりの梶井基次郎や川端康成・井上靖、その他の文学者関連の資料が展示されている）から湯ヶ島温泉まで、本谷川沿いに2時間ほど

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発㈱へ!!

・小型（20人・24人）
・中型（28人乗り）
・中2階（45人乗り）
・大型（55人・60人）
いずれもリロンカーからデラックスまで
スキーバスもあります
〒578・0971 東大阪市鴻池本町1・20 オカダビル4F
電話 06(6745) 3011・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

天城遊歩道を歩いた。

天城峠から北流する本谷川と、猫越岳を源流とする猫越川が合流する場所が湯ヶ島であり、川はここから名前を狩野川と変え、沼津で駿河湾に注ぐ。この湯ヶ島が井上靖の故郷である。彼が小学校を卒業するまでの話は、半自伝的小説『しろばんば』に牧歌的に語られている。昨秋、病床で再読した『しろばんば』が処置前の不安な私の心を随分と落ち着かせてくれた。元気になったら湯ヶ島へ行こうと決めていた。

冒頭の文学碑を小学校に訪ねる。校門をくぐると、入った所に主人公耕作少年とおぬいばあさんの彫像がある。子どもたちは授業中らしく、校庭に児童の姿はない。挨拶しようにも先生の姿も見えないから、無断で校庭の北の端まで入る。朝礼台の裏後ろに文学碑は建っている。私も前に並んでみた。なるほど、「北に向かって整列すると、遠くに富士が見える。廻れ右すると天城が見える」。伊豆は春の訪れが早く、真っ青な空にすすカンザクラが満開だ。しかし、当時はなかったであろう防球除けの金網があり、くっきりした富士は見えない。校門を一度出て、近くのさくら公園に登ってみる。ここからはしっかりと見える。たしかに「富士は父、天城は母」だった。

湯ヶ島は井上靖の故郷であるばかりでなく、文人ゆかりの地でもある。わずか31歳で夭折した、『檸檬』や『城のある町にて』など、今も若者の心をとらえる名作を残した梶井基次郎は、ここの湯川屋で約1年半の療養生活を送った。そして湯本館に投宿していた川端康成を訪ね、『伊豆の踊り子』の校正を手伝ったり、三好達治・尾崎士郎・宇野千代などの文学者とも交流した。湯川屋の前の小高い丘に梶井の文学碑が建っている。湯川屋から川端に宛てた便りの一節がコピーされて大きな自然石に掘られている。まだ20歳代の文字だが、明治人の達筆ぶりが察せられる。

山の便りお知らせいたします
桜は八重がまだ咲き残っています
つつじが火がついたやうに咲いて来ました
石楠花は浄連の滝の方で満開の一枝を見ましたが、
大抵はまだ蕾の紅もさしていない位です
げんげん畑は掘りかへされて苗代田になりました
もう燕が来てその上を飛んでいます

伊豆湯が島世古滝湯川屋内
梶井基次郎

当時、梶井は貧しい学生だったが、湯川屋の当主はその才能を惜しんで可愛がった。その息子さんの奥さんが、もう80歳に届こうというのに、かくしゃくとして客の相手をしてくださる。

私は今年も湯川屋に世話になった。奥さんの厚意で、井上靖が泊まった部屋に泊めてくれた。ただし、80年程前に建てられた建物で、さして上等とはいえないが、岩風呂の温泉と岩風の囲が裏に坐って頂く料理（新鮮な刺身・炉端焼き・シシ鍋）、それにカッポ酒は文句なしに旨く風情がある。「梶井さんと井上先生ファンの紀平さんはこれでいいです」と言って、宿泊代金を割安にしてくださるのも嬉しい。

気分がいいのでついついお酒のお代わりまでしてしまった。妻は友人を誘ってまた来ると言う。そんな宿である。

〈山のレポート〉
山の地名を歩く④

山と岳（下）

西尾　寿一

ヤマをセンと呼ぶことは中国地方で一般的であるが、これはすでに優れた研究があり、辞典にも出ているので言及しないが、「平」と「台」は同一か異態かの問題は一考に価する。

平は「タイラ・ダイラ・タイ・ヘイ」などがあり、これを平の一字に集約することのむつかしさは「山」と同様である。平には様々な形態がある。八甲田山は、元は八甲田で山は後から付されたものと考えるが、ここには岱が多くみられる。つまり八つの岱が集約されて山名になった感もあるが、この岱はまさに現実の姿を字体にしたもので、タイまたはタイラが平の一字に集約されることへの無理が感じられる。

台は台形の山を表すものから、山頂に湿地を伴なうものまである。苗場山は、これも後から山が付されたものとみえるが、山上に苗代状に多くの池塘をもつ特異なヤマである。これに対して会津の丸山岳は、これも山上に池塘をもつ山なのに味も素気もない山名である。おそらく残雪期にしか登られず、遠くから見た印象を山名にしたものではないかと思われる。

以上のように山名は、同じ要因があっても、あるいは同じ環境にあっても全く違った発生の仕方をするものなのである。従って、同じ形態であったり同名であっても、山名由来が同じとは限らないのである。また全く異る山名でも同質のものも当然存在する。

わが国には火山列島特有の様々な形態のヤマが存在する。その形態の違いによって古代から様々なヤマの名称を発達させてきたのである。その成因を日本語の未発達さと乱用に求める考え方には賛成できない。むしろ、わが民族のもつ豊かな感性が、様々な形態のヤマを正確に表現しようとした結果であると考えたい。それが中国からの漢字移入によって、ヤマが山になったとき、何らかの混乱が起きてしまったのではないか。

ヤマ（様々な）のもっていた本質が山という官の統一規格によって画一化され、特色が失われた結果、ヤマの本質を語れない山が成立してしまった可能性が高いのである。

そして現在、山から岳へ移動が始まっているようである。ヤマが山となったときと同じような混乱が再び始まろうとしている。

それでは中国の山はどうかを考えてみる。

中国の山は五台山などが代表で、西域やヒマラヤなどの山は本来は中国ではないので、文献などに登場しない。

中国の山を知るにはやはり文献に頼らねばならない。大漢和辞典に「平地より高く突起し、万物を養育する地塊」とある通り、単なる高所でなく万物の養育という重大な特目が加わってくる。神の居所や、薬草が存在し、癒しの空間でもあり、隠者をかくまう聖地でもあった。「説文」では「山は産なり、生物を生むなり」とあって、山は生命の源なのだ。

やがて山は信仰の対象となり、様々なタイプの宗教が争って山の精気の取り込みを図ることになる。

仏教が宇宙の中心とする須弥山は、アジア全域に形を多少変えながらも広がり、現実の山が神秘性を失った後も、宇宙の彼方に観念として光を放っている。

わが国ではヤマはたいていが生活の場であった。山国のもつ宿命ではあるが、その生活の中心としてのヤマと聖なる大岳の山とは全く違うのだ。生活の場であったからこそ、わずかの成因や形態などの違いを嗅ぎ分けて表現することを可能にしたのである。複雑で多様なヤマにはそれ相応の多様な感性の表現があって当然のことで、それを大切に残すことこそが民族の誇りなのではなかろうか。

ヤマを山に統一する必要もなかったし、山を岳にする必要もないと思う。森・丸・仙・台・平などのヤマに無理をして末尾に「山や岳」を付す必要もないのである。○○谷川なども同じで末尾に山や川を付けずにいられない人もあるようだが、ヤマの多様さを精いっぱい表現しようとした先人の努力を水泡に帰す愚は避けるべきではなかろうか。

富士の頂上からたくさんのヤマが見える。どれひとつとして同じものがないのに、どうして「山」と「岳」なのか。山は山であり、不用意に岳へ転換することだけは慎んでほしいと願う。茫洋たるスケールをもつヤマを失いたくないために……。

山と高原地図シリーズ

定価　各750円(税込)

- 1 利尻・礼文・利尻・阿寒
- 2 ニセコ・羊蹄山
- 3 大雪山・十勝岳・旭岳
- 4 十和田湖 八甲田 岩木山
- 5 八幡平 岩手山・秋田駒
- 6 蔵王・磐梯・猪苗代
- 7 蔵王 栗駒山・鳥海山
- 8 鳥海山
- 9 朝日・出羽三山
- 10 飯豊山
- 11 磐梯・吾妻・安達太良
- 12 那須・塩原
- 13 日光 男体山・奥日光
- 14 尾瀬
- 15 越後三山 巻機山・守門岳
- 16 谷川岳 苗場山・武尊山
- 17 志賀高原・草津
- 18 妙高・戸隠
- 19 軽井沢・浅間
- 20 赤城・皇海・筑波
- 21 西上州・妙義
- 22 奥武蔵・秩父
- 23 奥多摩
- 24 大菩薩連嶺
- 25 奥秩父 1 雁坂山・甲武山
- 26 奥秩父 2 金峰山・甲武信
- 27 高尾・陣馬
- 28 丹沢
- 29 箱根
- 30 伊豆
- 31 富士・富士五湖
- 32 八ヶ岳・蓼科
- 33 美ヶ原・霧ヶ峰
- 34 北アルプス総図
- 35 白馬岳
- 36 唐島湖・黒部湖
- 37 剱・立山
- 38 上高地・槍・穂高
- 39 乗鞍高原
- 40 御岳山
- 41 中央・南アルプス総図
- 42 木曽駒・空木岳
- 43 甲斐駒・北岳
- 44 塩見・赤石・聖岳
- 45 白山
- 46 霊仙・伊吹・藤原
- 47 国在所・鈴ヶ岳
- 48 比良山系
- 49 京都北山 1
- 50 京都北山 2
- 51 京都西山
- 52 北摂の山々
- 53 六甲・摩耶・有馬
- 54 葛城高原・二上山
- 55 金剛山・岩湧山
- 56 紀泉高原
- 57 大峰山脈
- 58 大台ヶ原 大和冠・高見山
- 59 奈良・倶留尊高原
- 60 氷ノ山 扇ノ山・神鍋
- 61 大山・蒜山高原
- 62 四国剣山
- 63 石鎚山
- 64 福岡の山々
- 65 阿蘇・九重
- 66 祖母・傾
- 67 屋久島 種子島
- 68 霧島・開聞岳

（★印は新刊等の地図です）

*昭文社の「山と高原地図」は年度版として毎年春頃発行します。ご山行の際はなるべく最新版をご使用下さいますようお願い申し上げます。
*2000年度より「大雪山」「甲斐駒・北岳」「塩見・赤石・聖岳」「阿蘇・九重」を全面改良し、新刊として「霧島・開聞岳」を刊行しました。

株式会社 昭文社

本社　東京都千代田区麹町3-1
電話03(3556)8111(代)　〒102-8238
支社　大阪市淀川区西中島6-11-23
電話06(6303)5721(代)　〒532-0011
〈インターネットで情報発信中〉
http://www.mapple.co.jp/

文学歴史探訪ハイク ⑥⑤

高台寺に北政所を訪ねて

松永恵一

夏の夜間特別拝観

高台寺は豊臣秀吉の正室、北政所ねねの眠る美しく静かな寺。慶長三年（1598）8月18日、秀吉は「つゆと落ち つゆと消えにし わがみかな 難波のことも 夢のまた夢」の辞世を残し、63歳で伏見城で没した。8月1日から18日まで高台寺では、秀吉をしのぶ燈明会が厳かにとり行われる。ライトアップされた境内は、幽玄の世界が広がり訪れる人を桃山時代へと誘う。

灯篭の薄明かりに導かれ台所坂を登る。都会の雑踏を離れ、忙しい日々を忘れ、素直に歴史の足跡をたどる。幻想の世界、深い深い闇、ほんのり光る灯篭の灯り。夜の海のような気分が体を包む。

小堀遠州の作と伝える東山を借景にした庭園（史跡・名勝）が広がる。方丈と開山堂（重要文化財）を結ぶ楼船廊が優月池に架かる。中央の檜皮葺四本柱唐破風屋根の観月台（重要文化財）は、伏見城で秀吉が月を愛でていたもの。開山堂と霊屋（重要文化財）を臥龍廊の石段の廊下が結ぶ。臥龍池に浮かぶ臥龍廊の瓦屋根のうねり。庭と建物の織りなす絵のように美しく静かな眺め。感動のため息がこぼれる。

開山堂は、建仁寺から開山として迎えられた高台寺第一世住持、三江紹益禅師をまつる。左右の壇上には、北政所の兄木下家定夫婦の像も安置されている。もと北政所の持仏堂で、礼堂部中央の彩色天井は北政所の御所車の天井、狩野山楽筆の龍の絵と秋草の絵が彩る。前方の格子天井には秀吉が使った御船の天井が用いられている。

庭園・開山堂・観月台

再び中門を通り北政所が眠る霊屋に向かう。正面三間、奥行四間の廟堂は、阿弥陀ヶ峰にまつられた秀吉の廟堂と類似していると伝えられる。中央に随求菩薩がまつられ、右側に秀吉像、左側に北政所の胡跪の形をとった木像が安置され、その下で北政所は眠りにつかれている。

須弥壇や厨子には、「高台寺蒔絵」が施されている。黒漆地に金箔細工で描かれた華麗な模様。漆黒と黄金。絢爛豪華な蒔絵はわが国の漆工芸美術の頂点。戦国時代を切り開いた武将達の好みにあった。正面須弥壇は、笛や琵琶などさまざまな楽器に天女を絡ませた「楽器づくし」、階段は川面を流れる筏に桜が舞い散る「花筏」の蒔絵が施されている。秀吉の厨子の扉の表にはススキに桐の紋、裏面には菊ともみじと桐の紋が描かれ、北政所の厨子の扉の表裏には松竹の図が描かれている。内陣の浜松図、外陣の花鳥図は狩野永徳・興以の筆、三十六歌仙図は土佐光信筆、書は八條宮智仁親王の秀吉・北政所への追慕の書。智仁親王は後陽成天皇の弟で、一時秀吉と北政所の養子になられていた。終生お二人を父母と慕われた親王は後に桂離宮を造営された。高台寺に多数残されている北政所の調度品等にも蒔絵が施されている。

霊屋からさらに上へ登る。伏見城から移されたと伝えられる時雨亭と傘亭（いずれも重要文化財）の二つの茅葺きの茶室がある。利休の意匠によるもので、秀吉が好んだ茶室であるという。「傘亭は竹と丸太が放射状に組まれ、カラカサを開いた感じを受けるところから名付けられたそうで、正式名称は安閑窟と言います。土間鄰下でつながっている時雨亭は、珍しく二階建ての茶室です……」と、説明係の女性が優しく語ってくれる。

美しい竹やぶをくだり庭園に戻る。じっくりと味わった後、靴を脱いで書院に上がる。今年は建仁寺開創800年を記念した「大高台寺展」の一環として、御霊の秀吉の厨子の扉を取り外して公開されている。アクリル板にはさまれた扉、「両面を一度に見られるのは初めてこと」と説明をうける。間近に対面し、高台寺蒔絵の美しさを脳裏に焼き付けた。

伏見城から移築したかつての方丈は、狩野派の絵師が筆をふるった贅を尽くしたものであった。方丈前庭に広がる白い砂の海。波心庭。ゆるやかなカーブを描き、波がゆったりと打ち寄せる。全ての記憶がその音もない波に吸い込まれゆく。さわやかで静かな気持ちが心を埋め尽くす。絢爛たる桃山の風が吹き抜け、「夏の夜の夢」そっとつぶやく北政所に出会えたような気がした。

圓徳院

塔頭の圓徳院は、北政所の終焉の地。慶長十年（1605）、伏見城から化粧御殿を移し、晩年を過ごされた。一緒に移された御殿前庭の枯山水庭園は、当時をほぼそのままに留める桃山時代の代表的庭園（国名勝指定）。多数の巨岩大岩がふんだんに置かれた豪壮な庭園として知られる。北政所が住まわれていた化粧御殿の南側には北政所警護のため、兄木下家定の居館が建っていた。正門の長屋門に当時の趣が残る。後に家定の次男利房が自らの号をとって寺院とした。

正門をくぐり、靴を脱いで方丈に上がる。目の前の南庭を眺めていると、「由来や歴史を少しお話させてください……」と、女性が優しくわかりやすく語り始める。方丈の襖絵は白龍図。荒れ狂う波の中から天を目指す白龍の姿は、赤松・雄画伯が秀吉をイメージして描かれた。長谷川等伯の障壁画（重要文化財）が伝わる。襖絵制作を懇願しながら許されなかった等伯が、住職の留守の間に桐紋を散らした唐紙の上に一気に描いたと伝える迫力ある作品。美しい辻が花の裂で表装された北政所ゆかりの武将の遺墨が残る。

コース概観

北政所が太閤の冥福を祈り、余生を過ごした高台寺。庭園には四季の花が咲き乱れ、優しさと柔らかさに包まれている。優美な建築と穏やかな東山の自然とが一体となって、桃山の歴史の残像を今に伝える。自由で斬新なデザイン、多彩かつ華麗な高台寺蒔絵に会いたくなって、石畳の道をぶらぶらと歩いた。三年坂（産寧坂）、二年坂、一念坂、ねねの道。

圓徳院北庭

清水寺仁王門の正面を下る清水坂の途中、七味唐辛子の老舗、七味屋本舗の角を曲がると三年坂。急な石段の上からは、風情にあふれた古都の町並が見渡せる。紅殻格子・虫籠窓・数寄屋風など、昔ながらの京の情緒を伝える建物が軒を並べる。昭和五一年（1976）に国の重要伝統的建造物群保存地区に指定され、町並保存によって優れた歴史的景観が維持されている。明保野亭は坂本龍馬の常宿。志士たちが集まり倒幕の密議が交わされていた。当時の井戸が今も残る。清水三年坂美術館は、幕末から明治時代にかけての七宝・金工・京薩摩・蒔絵（まきえ）などを展示する。

三年坂、二年坂にかけては、竹細工のお店やら、ひさごをいっぱいぶら下げたお店やら、陶器屋さん、古道具屋さん、さまざまな店が並び、京都、京都した道である。二年坂は高台寺方面へくだるゆるやかな坂道。大正時代の人気画家竹下夢二が恋人彦乃と暮らした夢二寓居址の石碑がある。鄙びた風情あるたたずまいの甘味処かさぎ屋は夢二ら文化人が通った店。店内には夢二が店主のために描いた絵が掲げられている。

東山のシンボル「八坂の塔」として親しまれているのが法観寺五重塔（重要文化財）。京都でも最古の寺院のひとつで、その創建は聖徳太子の時代にまでさかのぼる。現在東山の裾にそびえる塔は永享一二年（1440）室町幕府六代将軍足利義教が再建したもので、応仁の乱の戦火をくぐりぬけて現存する貴重な建物である。室町幕府を開いた足利尊氏、直義の兄弟は、元弘の乱から南北朝の内乱によって犠牲となった人々の霊を慰めることを目的として全国に寺院と塔を設置した。この寺院を安国寺、塔を利生塔と呼ぶ。幕府のお膝元である山城国の利生塔には、八坂の塔が当てられている。塔心礎は創建当時のものがそのまま使われていて、円形の舎利孔などを間近に見ることができる。

二年坂の右側に浄土真宗興正寺別院霊山御本廟の建石がある。木立の参道を入り、正面の石段を右に折れると、清水さんへの近道。本坊成就院へと続く。

石畳の二年坂をくだり霊山観音の南側を通る道は維新の道と呼ばれる。霊山護国神社は明治元年（1868）幕末から明治維新までに国事に奔走し、維新の

原動力となって倒れた志士たちをまつったわが国初の官祭の招魂社。昭和四年6月に御即位大礼の建物を下賜せられ社殿を整備し、昭和一四年に護国神社と改称した。神社境内背後の霊山中腹に木戸孝允・坂本龍馬・中岡慎太郎・頼三樹三郎・平野国臣ら志士たちの墓があり、付近一帯は明治維新をしのぶ史跡公園となっている。

霊山護国神社の南にある霊山歴史館は、近代日本の礎となった先覚者たちの資料館。故松下幸之助氏（当時、松下電器産業会長）の発唱で明治百年の昭和四三年「霊山顕彰会」が創設され、霊域を整備・復旧、昭和四五年霊山歴史館が設立開館された。西郷隆盛・大久保利通・木戸孝允・吉田松陰・高杉晋作・坂本龍馬・中岡慎太郎・武市瑞山・徳川慶喜・松平容保・勝海舟らの遺品や遺墨類が展示されている。

維新の道に沿う料亭、山荘京大和の庭園内の翠紅館は、国内に攘夷の嵐が吹き荒れた文久三年（1863）、志士らが集まり、討幕の具体的方策を検討した歴史的な会議、翠紅館会議が開かれた。

高台寺の前の道は、電線類を地中化し石畳の道に生まれ変わり、この地で十九年の余生を送った北政所にちなんで「ねねの道」という名前が付けられた。

高台寺は北政所高台院湖月尼が、夫・秀吉や親族の菩提を弔うために、徳川家康の助力で慶長一〇年（1605）に創建した寺。徳川家康は家臣の酒井忠世、土井利勝を造営御用掛に任じ全面的に協力した。また加藤清正が伏見城の薬医門を移築し高台寺表門とし、福島正則や浅野長政ら豊臣恩顧の武将達が尽力した。

現在、臨済宗建仁寺派に属する高台寺は、萩の名所としても知られる。蕪村の句に「黄昏や萩に鎚の高台寺」とある。

5月中旬から9月中旬の土曜日、音楽の夕べが開催される。薄闇に浮かび上がる境内を舞台に、文化の薫り豊かに行われる。青葉のなかを吹く風にのって流れてくる楽器の調べは、体の中まで沁み入るよう。高台寺「紫美術館」は、ねねの道に面する京・洛市「ねね」の二階にある小さな美術館。高台寺ゆかりの品々が展示されている。塔頭の月真院は、新選組と袂を分かった伊東甲子太郎一派の勤王の士、禁裏御陵衛士の屯所となった。

＜コース＞

京都駅・京阪四条駅・阪急河原町駅より市バス東山安井停下車（東へ徒歩5分）

清水寺—産寧坂—八坂の塔—高台寺表門—高台寺—圓徳院—月真院—八坂神社

＜地形図＞2万5千＝京都東南部

＜費用＞

高台寺共通拝観特別割引券　900円

＜問い合わせ先＞

高台寺	075（561）9966
圓徳院	075（525）0101
紫美術館	075（561）1624
霊山歴史館	075（531）3773

特選コースガイド①

湖東

（里山シリーズ9　米原）

万葉と史跡の山

日撫山

一般コース（★　）

長宗　清司

東海道と北陸道の分岐点、米原駅からJR北陸線に乗車して間もなく、ホタルで有名な天野川を渡ると、右手に小高い丘陵が北に向かってのびている。

日撫山は、この横山山系の西南端にある標高240㍍前後の山の総称である。万葉集巻十一にも詠まれ、古くは顔戸山・朝妻山とも呼ばれた。

坂田駅で下車して東へ、一度右折し飯の交差点から再び東進し、国道8号線を越え、新幹線のガードをくぐると、正面に富士山のように美しい円錐形の小山が見える。この日撫山の左肩には遠く伊吹山の雄姿が望める。

近江町役場前から大鳥居を見て、山裾の顔戸集落を抜けると、左手に緑深く静かなたたずまいの日撫神社がある。少毘古名命・応神天皇・息長宿禰王をまつる神社で、歴代天皇の崇拝が厚かった。社宝には、薬師如来の懸仏や、鎌倉時代に造られた梵鐘、小野道風自筆の下乗札がある。

日撫山のハイキングコースは、神社の本殿左脇から登る。地元住民の保健休養増進の場として活用されている多目的保守林だが、最近松枯れがひどい。マッタケ山だが、散策路はシーズンでも歩くことができる。

コース内には、婆さん岩・天神岩・夫婦岩などが点在し、一つ目のピークにはアミタビ遺跡があり、尾根筋には日撫山遺跡や顔戸山遺跡などが散在する。

日撫山の山頂には高木がなく、四囲の眺めはすばらしい。琵琶湖はすぐ足下に見え、伊吹山や霊仙山などが望める。

このあと尾根は長浜トンネル上部の鞍部にいったんくだるが、次のピークに向かっては少し急な登りとなる。しかし、樹間や伐採地からは下界の田園地帯が美しく眺められるので疲れを忘れる（△239・9㍍の三角点は見つからず）。

山頂から琵琶湖・長浜方面を望む

やがて、尾根上にある支尾根への分岐T点の道しるべに従って、熊野神社へ右折し、下山する。地形図には、破線路も記されていないが、幅の広い楽しい山道である。

元は寺内だったとみる日光寺の集落に出て、由来の寺に向かう。10月下旬に訪ずれたときには小さな境内の苔むした前庭のなかに、センブリの白い小さな花が咲いていた。

再び集落のはずれに戻り、やぶ陰に立つ「日光寺～能登野散策路」の案内看板に従って、やぶのなかに入る。上り道はすぐ平らで明るい道になり、やがて山向こうの集落に出る。

目の前の新設されたバイパスを横切って、やぶぎわの小道をたどると山津照神社の脇に出る。息長氏の祖神をまつるとされる延喜式内社で、祭神は国常立尊。参道脇で発見された前方後円墳は、この地域の実力者息長氏一族で、神功皇后の父、息長宿禰王の墳墓といわれている。横穴式石室からは数多くの副葬品が発掘された。里山にしては老木に囲まれ、境内は広く落ち着いている。桜の名所としても有名で、斜面は自然石と芝を配した公園になっている。

山室の集落に向かう車道に出て、多和田に向かう。

長浜トンネル上部付近の尾根道

今回のコースは多和田のバス停で終わるが、時間と体力に余裕のある人は、バス停から東に望む「かぶと山ハイキングコース」を歩かれるとよい。

絶滅寸前のオオムラサキ（蝶）の貴重な棲息地であり、全山雑木林の石灰岩の山で、風穴もあり、環状列石群（神籠石様）は有名である（所要1時間20分）。

（平成13年9月23日・10月27日歩く）

△コースタイム▽

JR北陸線田村駅（5分）飯（20分）近江町役場前（15分）日撫神社（顔戸～日光寺散策路・30分）日撫山（40分）分岐点（20分）熊野神社（10分）日光寺（5分）能登野への散策路口（20分）能登野（10分）山津照神社（15分）多和田バス停（バス20分）米原駅

△地形図▽2万5千＝長浜・彦根東部

△問い合わせ先▽

近江町観光協会　0749（52）3111
湖国バス（長浜）　0749（64）1224
日撫神社　0749（52）1792
山津照神社　0749（52）2259

特選コースガイド㉒

丹後

2等三角点のある山
女布権現山と法沢山

山形　歳之

女布権現山（2等・点名女布）

初級コース（★　）

丹後久美浜町にある女布権現山に登る。以前からその名前に引かれて、遊歩道もある登りやすい山だろうと思っていた。

舞鶴自動車道、綾部宮津道路経由で宮津に出る。後は国道312号線で佐野に到り、佐濃谷川沿いを北上して女布の集落に入って行く。

最後の農家で山の様子を訊ねると、「林道の最初の分岐は左に入るのだが、道が荒れて車は通れない。そのあたりに車を置き、林道を歩いて登ればよいだろう」と言う。

言われた分岐に車を止める。道標があり、「山頂まで1420m　女布ダルマ会」と書かれていた。分岐する林道はダムからの給水管埋設跡が大きく崩れ、車の通行は不可能であった。

林道は、少し行くとダムに向かう道と尾根を登るものとに分かれる。ここにも古びた道標が山頂まで1276㍍と表示していた。

尾根上を登って行くとやがて林道は終わり、遊歩道が始まる。分岐点の崩れがなければここまで車が可能である。

周辺は「野鳥の森」になっていて、鳥の写真入りの説明板が立っている。

山頂稜線に登り着くと、岩が積まれた窪地に三体の石仏があったが、何の標示もなく、整備もされず荒れたままで放置されていた。山の名があるので何か関係がありそうだ。

女布権現山の山頂

山頂（348・4㍍）には休憩舎が建ち、木造のベンチが置かれていたが、神社などはない。「野鳥の森」として整備された後は、放ったらかしという感じがした。

それにしても、どこから権現山の名が付いたのか。村の神社もそれらしきはなかった。

（平成13年10月25日歩く）

法沢山（3等・点名法沢）

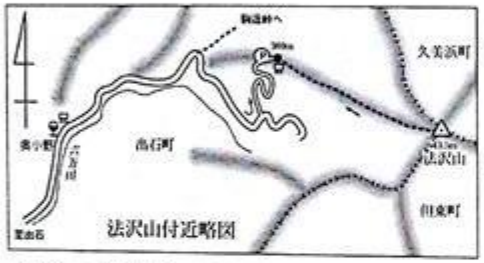
初級コース（★　）

出石町・但東町・久美浜町の三町の境界に位置する法沢山は、登山者の間でもよく知られた山である。

法沢山登山口

〈コースタイム〉
林道分岐点（15分）林道終点（30分）女布権現山（40分）林道分岐点
〈地形図〉2万5千＝久美浜

出石の町を通り抜ける。町の観光は後廻しにして、出石川の支流六方川の上流、奥小野に走る。奥小野のバス停に案内板があり、それに従って林道に入る。沢沿いの道を標示に従って左手の尾根に車を走らせる。



分岐から約900㍍、奥小野のバス停から3・7㌔の地点に登山口の標示があった。少し手前に駐車スペースがある。

有名な山は道標完備。登山道も明瞭で安心して登れる。

いつもアタックしている三角点の山登りでは道標など全くなく、目印も少なく、絶えず地形図と山を見比べながらの登山で緊張の連続だが、登山道の明瞭な山では緊張感もなくのんびりと登れる。

道はよく整備されているが、意外と急坂が多く、各所にザイルが張られていた。特に最後の急坂はザイルの助けなしでは登れなかった。

もっともそれだけ鋭峰ということで、山頂（643・5㍍）からの展望はすばらしい。久美浜湾から日本海。前日登った女布権現山を見下ろし、はるかに丹後半島の依遅ヶ尾山が望まれた。西には氷ノ山あたりの山並が霞んでいた。

登山口の奥小野村は里芋の産地で、畠にもたくさん見られたが、折からの休日市ではいろいろな野菜が並び、都会より安いと妻はたくさん買い込んだ。

出石の町は多くの観光バスが駐車していて、狭い町並に人々が行き交っていた。町はずれの出石温泉では福祉センターで入浴できる。300円だが、70歳以上は200円であった。

（平成13年10月27日歩く）

〈コースタイム〉
奥小野登山口（1時間）法沢山（45分）登山口
〈地形図〉2万5千＝須田

特選コースガイド③

鈴鹿

神崎川渓谷の沢下り

源頭から取水口まで

健脚コース（★★★）

湯浅　康夫

新ハイキングの会員の中には、例会は参加しないで雑誌だけを購入して、コースの研究をしている人も多い。とりわけ岩野氏の鈴鹿のコースは独自のルートで120数回と歴史もあり、他の「山の会」の人にも有名で、地形図と共に新ハイキング・エリア別徹底研究「近江側から登る鈴鹿の山々」のコピーを持って歩いている人が大勢いる。

さて、このコースは、鈴鹿を歩いた方なら一回でも渡渉したであろう神崎川を、「通し」で下ろうというもので、経験した人もまだそう多くないと思い、岩野さんの沢下りをコースと共に紹介しよう。

川下りにはいろいろな方法があるが、若者たちが激流をゴムボート（ラフト）で「かい（パドル）」を使ってくだるのをラフティングといい、浮輪（チューブ）でくだるのをチュービングという。我々は激流でないところをプカプカくだるから、さしずめ初級のチュービングとでもいっておこう。ちなみに「ナメ滝」をすべり台みたいに滑るのをキャニオニングというが、そんなことはどうでもよく、楽しく沢をくだっていけばよい。

この沢下りは車のデポから始まる。午前7時、国道421号線杠葉尾の神崎橋広場に集合し、沢下り到着予定の神崎川発電所取水口の上の駐車地に車をデポしに行く。すぐさま戻り、鈴鹿スカイラインの武平峠の手前まで車を移動する。茨谷を少し行き過ぎた右道路脇に車を置く。

少し戻り、茨谷取りつきから一気に180㍍ほど登り心地よい汗をかく。尾根にのり北西に数回アップダウンを繰り返す。道標「雨乞岳への矢印」のあたりから徐々に溜まり水が出てきて、ここがまさしく沢の源頭部。小さな滝や支沢を左右から集めながら徐々に水量を増してくる。このあたりはマイナスイオンに満ち満ちている。山稜では歩きづらくなってきた所で沢靴に履き替え、入渓となる。

メンバーの装備はまちまちで渓流シューズや地下タビにワラジ、ウェットスーツやライフジャケット。浮輪を使うと速く流れるので全員持っている。ヘルメットがあればなおよい。浮輪は山登りのときには枝で傷つけないようにすぼめておく。冷水につかるとすぼむため、沢に入る前に大きく膨らませておく。水は冷たいが浮輪を腹に捲きつけておくとその部分は暖かく感じる。

最初、水は浅くて谷は深く薄暗い。そこを抜けると空が明るくなってくる。両岸の谷の上をシロモジ・ホオノキやカエデ類・ツツジ類などが枝を張り出し、いつもの山歩きのときとはちょっと違う視線から風景を見る。緑のシャワーが頭上から降ってくる。

水の美しい「チャラ瀬」と「トロ」の繰り返しのなかを、イモリが何匹もフワフワと指を広げながらユーモラスな姿で漂っている。

沢下りは迷いようにも迷いようがないし、沢登りに比べ水圧の負担が少なくて楽だ。

肌色の浸食岩が出てきた前後から増水し、水は岩の上を迷路のように走り出す。薄暗い「ゴルジュ」や高さ数㍍の「壁」・「廊下」も出てきて、数々の奇観に目を奪われる。

通過が困難なような所でもよく見ると、なんとかヘッったり捲いたりできるように思われるが、渇水で水量が少ないときは泳いだり飛び込んだほうがてっとり早い。四～五ヶ所飛び込んで「大瀞」も難なくクリアした後、次の「下の大瀞」に出くわすが、ここはどう考えても飛び込む以外に通過できない。下流から遡行してきた人も余程の装備と技術がない限り、ここが終点となるはずだ。滝は吠え、あたりの空気を震撼させている。

下界では35度を超す酷暑、ここでは服を着たまま頭から滝のシャワーを浴びたり、水に飛び込んだり泳いだりして、まるでイタズラざかりの子どもの遊びみたいだ。ヒロ沢の手前で昼食とし、至福のひとときを過ごす。

午後からの圧巻は何と言っても「七丈淵」と「天狗滝」だ。その前後にも四～五ヶ所飛び込む所があるが、天狗滝は以前に事故のあった所で特に注意が必要だ。メンバーの1人が滝の真上から飛び込んだが、水面から目線まで5～6㍍はある。躊躇しながら、よく見ると滝の左岸にバンドがあり足を掛けて降りられる。次に滝の裏のバンドに足を掛け、頭と右肩に強烈な水圧を感じながら飛び込む。飛び込んだ後は、アメリカのアクション映画の主人公にでもなったような気分だ。鼻の中に少々水が入ったって気にしない。浮輪をしているから深く沈まないし釜にも捲き込まれにくい。右岸を高捲くこともできるが、捲いている人を下から見るとこれは結構怖そうだ。

例会で来る白滝谷・ツメカリ谷を経て「ゴーロ」の河原を行き、ここから先はプカプカ浮きながら、ナメ滝のすべり台あり、大岩くぐりあり、岩風呂（岩がえぐれて風呂桶状に水が溜まり、太陽熱で暖まり入浴できる）あり、と岩野さんは遊ぶ所をよく知っておられ、疲れを忘れさせてくれる。大の大人が浮輪につかまりほとんどラッコ状態でプカプカ流れてくる姿をご想像あれ。

最後は度肝を抜くS字のゴルジュと大瀞を行き、神崎川発電所取水口のはしごを垂直に登り手すりをまたぎ、登山道を登ると15時過ぎ駐車地となる。

（平成13年8月12日下る）

△コースタイム▽

神崎川発電所上の駐車地（車1時間20分）武平峠手前の茨谷の先右手道路脇（40分）雨乞岳分岐（1時間）杉峠分岐（25分）上水晶谷（30分）タケ谷・根ノ平峠分岐（40分）大瀞（35分）ヒロ沢・ハト峰分岐（30分）天狗滝（10分）下谷尻谷（10分）白滝谷（35分）ツメカリ谷（1時間）神崎川発電所取水口（15分）駐車地

△地図▽昭文社＝「御在所・鎌ヶ岳」

特選コースガイド④　鈴鹿

―続・近江側から登る鈴鹿の山々㊃

奥山から三国岳を越え鳴川谷へ

中級コース（★★）

磯部　純

三国岳へ登るルートには、鞍掛峠からのルート・烏帽子岳からの縦走ルート・時山からの阿曽谷ルートが一般的だが、近江側から三国岳へ登るルートとしては、大君ヶ畑東の百々女鬼橋から北へ入り、鳴川谷をつめて三国岳三角点の北の鞍部に出るルートもあり、昔は一部の登山者に登られていた。

今回紹介するルートはこれ等のルートとは全く違って、百々女鬼橋を出発点にして、鞍掛峠北のピークに至る尾根を登り、最高点・三国岳・三国岳三角点を越えて鳴川谷へくだるルートで、これまで岩野さんの例会では、平成12年5月に一回だけ歩いた。歩くのはシャクナゲの季節が最適である。

多賀から国道306号線を東へ走り、大君ヶ畑を越え、百々女鬼橋東の広場に車を置く。広場には20台以上の車を置くスペースがある。国道を鞍掛峠に向かって歩き、送電線をくぐったら、次の谷を左へ入る。巡視路を使って尾根にのろうというのである。取りつきの最初は杉林。最初から急登で、切られた階段をジグザグに登って行く。こんな所にヒルはいないだろうと思われるが、薄暗い杉林の斜面には、アチコチにヒルの姿を見るので、足回りは完全にしておかなければならない。

一つ目の鉄塔までは、わずか標高差150㍍程登るだけだが、急登で早くも汗がしたたり落ちる。この鉄塔で息を整える。目の前にはめずらしくもナナカマドの木がある。ここから送電線に沿って巡視路を登る。松の混じる雑木の尾根である。木々の間から横根の山並を意外に間近に見ることができて驚く。さらに登って行くと、二つ目の鉄塔。ここからは巡視路を離れ、道のない尾根を東南東へと登ることになる。ゆるやかな檜林の尾根を過ぎると勾配は急になり、斜面には草花が目につく。急な尾根を登り切ると奥山と呼ばれている標高点769㍍のピーク。このあたりまで登ると、一面シャクナゲの林に変わる。シャクナゲの時期に訪れると、淡ピンク、濃赤と咲き乱れ、花を眺めての休憩にはもってこいの場所である。

三国岳から見る三国岳最高点

シャクナゲの花のなか、木を避け木をくぐり、尾根を東へ進む。やがて、シャクナゲ林の踏み跡もない急斜面をくだって尾根へのると、様相は一変する。細い尾根の右手は雑木の林で、左はまばらな檜の植林斜面。木の間から三国岳の三峰が目の前に迫ってくる。標高点794㍍を踏み、急な尾根を登り、県境ピークが近くなると、カタクリの葉が目につき出す。ホトトギスやフモトスミレも見ることができる。急斜面を登り切ると県境尾根へと出る。尾根にはしっかりした道がある。それを北へくだって行くと、道の左斜面はシロモジの多い二次林の疎林で、道の傍らにはカタクリの花が点々と続いている。シャクナゲの季節にカタクリの花を見ることができるのだから大満足。

鞍部でひと息入れ、最後の急坂を登り切ると最高点（911㍍）だ。最高点にはケルンが積んであり、傍の木にはごていねいにも「三国岳ではありません」との標識がぶら下がっている。この疎林の最高点は三国岳とは呼ばず、単に最高点と呼んでいる。

最高点峰から広い釣り尾根を北へ向かう。尾根にはしっかりと道がついている。道脇にはツクバネソウ・ユキザサを始め、いろいろな花が咲いている。それを見るのも楽しみの一つ。5分も歩くと三国岳（890㍍）本峰。ここが近江・美濃・伊勢三国の境に当たる山である。

烏帽子岳への縦走路を右に見て急斜面をくだり、三角点峰（815㍍）へ登り返す。三角点峰は本峰より75㍍も低く、しかも、県境の縦走路はピークを捲いてつけられている。今でこそ訪れる人が多くなったが、昔、三角点がどこにあるかもわからずに通過してしまう人が多かったと聞く。以前来たとき、やぶにおおわれわかりにくかった三角点峰への取りつき点も、今でははっきりわかる道に変わっていた。

三国岳三角点・点名阿蘇（1）、北向きできれいな標石である。このピークから東を振り返ると、三国岳本峰、最高点が目の前にどっしりと腰をすえ、山腹に咲いているシャクナゲの赤色が鮮やかに飛び込んでくる。

三角点峰から尾根を西へくだる。左方には鈴ヶ岳・御池岳が高くそびえ、その手前に朝登ってきた尾根がクッキリと連なっている。急斜面をくだると鳴川谷への道へと出る。送電線鉄塔からさらに尾根を西へ進み、小さなピークの手前から右の杉林斜面に入る。道はしっかりと刻まれていて迷うことはない。杉林の道を何度もジグザグを切りくだって行くと、鳴川谷林道の終点におり立つ。ここから長い林道を歩き、百々女鬼橋の駐車場所へと戻る。（平成12年5月14日歩く）

△コースタイム▽

百々女鬼橋広場（5分）尾根取付（1時間40分）標高点769㍍（1時間10分）県境尾根ピーク（45分）最高点（5分）三国岳（15分）三国岳三角点（1時間）鳴川谷林道（40分）百々女鬼橋広場

△地形図▽2万5千＝篠立

沿線ハイキングガイド

近鉄　京阪　阪急　南海　神鉄　山陽電車　叡電・京福
公開ハイク　歩け歩け大会　文学散歩　歴史散歩　その他

近鉄

▽読売ふれあいハイキング「浄瑠璃寺から岩船寺（あじさい）」　7月6日(土)雨天中止〈集合〉近鉄奈良駅東改札9時30分～10時〈コース〉奈良駅（バス）西小―浄瑠璃寺―あたご灯籠―岩船寺―京都府加茂青少年山の家―西小（バス）奈良駅（約8㌔）参加自由、無料（バス代等別途）、営業推進本部大阪ハイキング係06（6775）3566

▽ほのぼのツアー「夏の大台ヶ原日帰りの旅（東コース）」　7月13日(土)・28日(日)／8月4日(日)・31日(土)雨天中止〈集合〉近鉄サービスネット阿倍野橋営業所前7時40分〈コース〉あべの橋駅（特急）吉野駅（バス）大台ヶ原駐車場―日出ヶ岳―正木ヶ原―生石ヶ原―大蛇嵩―シオカラ谷―大台ヶ原駐車場（バス）大和上市駅（電車）あべの橋駅（約9㌔）定員各120名（電話申込制）参加費大人5310円小人2910円、（申込先）あべの橋駅06（6623）6635、近鉄サービスネット阿倍野橋営業所06（6624）0026

▽近鉄万歩ハイキング「長岳寺・安倍文殊院・おふさ観音」　7月14日(日)（雨天延期の場合7月28日(日)）〈集合〉天理駅前9時30分～10時〈コース〉天理駅（バス）上長岡―長岳寺―（山の辺の道）―三輪明神―海柘榴市―近鉄桜井駅―安倍文殊院―おふさ観音―大和八木駅（約14㌔）参加自由・無料（拝観料等は別途）、営業推進本部大阪ハイキング係06（6775）3566

▽ほのぼのツアー「夏のみたらい渓谷ハイキング日帰りの旅」　7月20日(日)／8月3日(日)・24日(土)雨天中止〈集合〉近鉄サービスネット大阪営業所前8時40分〈コース〉あべの橋駅（特急）下市口駅（バス）天川村役場前―みたらい渓谷―洞川温泉（バス）下市口駅（電車）あべの橋駅（約7㌔）定員各120名（電話申込制）参加費大人4130円小人2310円、（申込先）阿倍野橋駅営業所06（6623）6635、近鉄サービスネット阿倍野橋営業所06（6624）0026

▽名張市ハイキング「地ビール工場見学、おきつもの国に伊賀流ビール」　7月27日(土)雨天決行〈集合〉名張駅―万葉歌碑―藤堂家邸宅跡―北村酒造（地ビール試飲）―宇流富志禰神社―名張駅（約4㌔）参加自由・無料、営業推進本部名古屋ハイキング係0593（54）7007、営業推進本部大阪ハイキング係06（6775）3566

▽近鉄万歩ハイキング「布袋奏の中に浮かぶ本薬師寺と古の商都今井町を訪ねて」　7月28日(日)雨天中止〈集合〉橿原神宮前駅中央改札前9時30分～10時〈コース〉橿原神宮―畝傍山―畝傍御陵前駅―本薬師寺跡（ホテイアオイ群生地）―（飛鳥川堤防）―小房観音―今井町（古い町並み）―大和八木駅（約10㌔）参加自由・無料、営業推進本部大阪ハイキング係06（6775）3566

京阪・叡山電車・江若交通

▽北山ウィークデーハイキング「岩倉・幡枝」　7月3日(水)雨天中止〈集合〉岩倉駅10時〈コース〉岩倉駅―宝ヶ池―松ヶ崎大黒天―松ヶ崎小学校―宝ヶ池競技場―大田神社―山通寺前―栗栖野瓦窯跡―幡枝八幡宮―京都精華大前駅（約8㌔）一般向）参加自由・無料、叡山電鉄鉄道部075（781）5121

▽こうじゃくMtハイク「鯖街道・若狭上根来、百里岳」　8月1日(水)雨天中止〈集合〉JR安曇川駅9時〈コース〉安曇川駅（バス）小入谷―百里新道―シチクレ峠―百里岳―木地山峠―小浜市上根来（バス）安曇川駅（約9㌔健脚向）電話申込制（1ヶ月前から）参加費3000円（バス代等）、（申込先）江若交通本社077（573）2701

▽比叡山キャンペーンハイク「たそがれ時の松尾坂から浄土院へ」　8月10日(土)小雨決行・雨天中止〈集合〉八瀬駅前午後3時30分～4時〈コース〉八瀬駅前―（松尾坂）―浄刹結界跡の石碑―斧堂跡―峠―林道出合―西塔駐車場―浄土院前―山王院前―陸橋―弁慶水―延暦寺・阿弥陀堂（ゴール）―比叡山ライトアップ根本中堂（約5㌔一般向）参加自由・無料（拝観料等別途）、京阪電鉄ハイキング担当06（6947）3702

▽比良連峰アタック「夫婦滝・白滝谷」　8月25日(日)小雨決行・雨天中止〈集合〉JR志賀駅前9時～10時〈コース〉志賀駅（バス）山麓駅（ゴンドラ）山頂駅・打見山―木戸峠―辻谷―夫婦滝―スベリ石―牛コバ―伊藤新道出合―坊村（バス）出町柳駅（約7㌔中級向）参加自由・参加費大人2200円小人1100円（往復バス、ゴンドラ代）、京阪電鉄ハイキング担当06（6947）3702

比良ロープウェイ

▽ネイチャー・トレッキング「八淵の滝」　7月23日(火)・26日(金)・31日(水)／8月3日(日)雨天中止〈集合〉JR近江高島駅9時〈コース〉近江高島駅（バス）ガリバー青少年旅行村―八淵の滝―オガサカ道―山上駅（ロープウェイ・リフト）山麓駅（バス）比良駅（約3・5㌔一般向、＊八淵の滝の全てを巡る中級コースも設定）電話申込制（1ヶ月前から）定員各120名、参加費2000円（バス・ロープウェイ・リフト代含む）、（申込先）比良ロープウェイ事業課077（596）0516

▽フラワー・ウォッチング「愛くるしいサギソウ」　8月21日(水)・24日(土)・29日(水)雨天中止〈集合〉比良リフト山麓駅10時〈コース〉山麓駅（リフト・ロープウェイ）山上駅―八雲湿原―山上駅（ロープウェイ・リフト）山麓駅（約1・5㌔一般向）定員各50名・電話申込制（1ヶ月前から）参加費2500円（ロープウェイ・リフト代含む）、比良ロープウェイ事業課077（596）0516

神戸電鉄

▽神鉄ハイキング「六甲山上とシュラインロードハイク」　7月7日(日)雨天中止〈集合〉神鉄六甲駅9時15分〈コース〉六甲駅―シュラインロード―行者堂―記念碑台―六甲ケーブル山上駅（約8㌔一般向）参加自由・無料、神鉄観光事業部078（521）0321

▽神鉄ハイキング「石橋花谷と地獄谷西尾根ハイク」　8月11日(日)雨天中止〈集合〉花山駅9時55分〈コース〉花山駅―石橋花谷―ダイヤモンドポイント―水晶山―地獄谷西尾根―大池駅（約8㌔健脚向）参加自由・無料、神鉄観光事業部078（521）0321

□これ以外にも多数の催しがあります。各社の広報も見て下さい。

1）5121

▽比良連峰アタック「楊梅の滝・駅迦岳」　7月14日(日)小雨決行・雨天中止〈集合〉JR北小松駅前9時～10時〈コース〉北小松駅―比良げんき村―楊梅の滝―畑のコバ―涼峠―オトシ―寒風峠―ヤケ山―タンヤマの頭―大石―ヤケオ山―駅迦岳―シャカ岳駅（リフト）山麓駅（バス）比良駅（約8・5㌔健脚向）参加自由・参加費大人900円小人450円（バス・リフト代含む）、京阪電鉄ハイキング担当06（6947）3702

▽こうじゃくMtハイキング「若狭三十三間山」　7月18日(水)雨天中止〈集合〉JR安曇川駅9時〈コース〉安曇川駅（バス）倉見―登山口―夫婦松―風神―三十三間山―風神―夫婦松―登山口―倉見（バス）安曇川駅（約8㌔一般向）電話申込制（1ヶ月前から）参加費4000円（バス代等）、（申込先）江若交通本社077（573）2701

▽モーニングハイク「松尾坂」　7月20日(日)雨天中止〈集合〉八瀬駅8時〈コース〉八瀬駅―グランド―浄刹結界跡―林道分岐―鎮護国家の碑―比叡山頂（ガーデンミュージアム比叡）（約5㌔一般向）参加自由・無料、叡山電鉄鉄道部075（781）5121

▽こうじゃくMtハイク「鯖街道・若狭上根来、百里岳」　8月1日(水)雨天中止〈集合〉JR安曇川駅9時〈コース〉安曇川駅（バス）小入谷―百里新道―シチクレ峠―百里岳―木地山峠―小浜市上根来（バス）安曇川駅（約9㌔健脚向）電話申込制（1ヶ月前から）参加費3000円（バス代等）、（申込先）江若交通本社077（573）2701

▽比叡山キャンペーンハイク「たそがれ時の松尾坂から浄土院へ」　8月10日(土)小雨決行・雨天中止〈集合〉八瀬駅前午後3時30分～4時〈コース〉八瀬駅前―（松尾坂）―浄刹結界跡の石碑―斧堂跡―峠―林道出合―西塔駐車場―浄土院前―山王院前―陸橋―弁慶水―延暦寺・阿弥陀堂（ゴール）―比叡山ライトアップ根本中堂（約5㌔一般向）参加自由・無料（拝観料等別途）、京阪電鉄ハイキング担当06（6947）3702

▽比良連峰アタック「夫婦滝・白滝谷」　8月25日(日)小雨決行・雨天中止〈集合〉JR志賀駅前9時～10時〈コース〉志賀駅（バス）山麓駅（ゴンドラ）山頂駅・打見山―木戸峠―辻谷―夫婦滝―スベリ石―牛コバ―伊藤新道出合―坊村（バス）出町柳駅（約7㌔中級向）参加自由・参加費大人2200円小人1100円（往復バス、ゴンドラ代）、京阪電鉄ハイキング担当06（6947）3702

比良ロープウェイ

▽ネイチャー・トレッキング「八淵の滝」　7月23日(火)・26日(金)・31日(水)／8月3日(日)雨天中止〈集合〉JR近江高島駅9時〈コース〉近江高島駅（バス）ガリバー青少年旅行村―八淵の滝―オガサカ道―山上駅（ロープウェイ・リフト）山麓駅（バス）比良駅（約3・5㌔一般向、＊八淵の滝の全てを巡る中級コースも設定）電話申込制（1ヶ月前から）定員各120名、参加費2000円（バス・ロープウェイ・リフト代含む）、（申込先）比良ロープウェイ事業課077（596）0516

▽フラワー・ウォッチング「愛くるしいサギソウ」　8月21日(水)・24日(土)・29日(水)雨天中止〈集合〉比良リフト山麓駅10時〈コース〉

せせらぎ

題字・小林玻璃三

3月17日に金糞岳に行きました。早春、琵琶湖を囲む滋賀の山々の中で、最後まで雪を残す山として知られています。私は、ほぼ毎年4月上旬に、残雪を楽しみに金糞岳へ登ります。

今年は春の訪れが早く、4月上旬ではもう雪がなくなりそうでしたので、都合がついた3月17日に登ることにしました。

3月中旬ということで、いくら雪解けが早いといっても、途中の林道の雪が溶けているかどうかが心配だったのですが、林道は予想通り各所が雪によって寸断されていました。そこでキャンプ場近くの駐車場に車を止めて片道50分ほどかかる、関西電力の発電所につながる林道を歩くことにしました。

林道を少しでも早く歩こうと考えて、ダブルストックを持って歩いたことが幸いしました。少々横着に歩いても倒れる心配がないので、精神的にも楽でした。

午前8時40分に歩き出し、山頂の一つ手前にある、小朝の頭というピークに12時20分ごろに着きました。4月上旬に歩くと、雪原のあちこちにマンサクの花が見られるのですが、さすがに今年は3月中旬ということもあって、関西電力の発電所から少し急坂を登った所で二枝のみ、マンサクの黄色い花が咲いているのを見ただけでした。

山頂には、午後1時20分ごろに着きました。さすがに雪は、例年登る4月上旬よりは多く残っていました。山頂の「金糞岳」と刻まれた石碑は雪の下にかくれて見ることができませんでした。

天気が良いと、北に白山、北東方面に御嶽山や中央アルプスの峰々、南に琵琶湖に浮かぶ竹生島、その向こうに比良の山々が眺められ、至福の時を過ごせるのですが、この日は残念ながら薄曇りの天気でしたので、はるかに能郷白山が見える程度でした。

帰りに、真っ白な山頂部が最後に見える地点で金糞岳を眺めたとき、来年もまたこの山に来たいと強く思いました。

（大津市　小林　稔）

3月31日、坂本谷を登った。白瀬峠を経由せず鉄塔巡視路をたどったら、稜線直下に雪の斜面があり、ちょっと怖かった。冷川谷の頭を越えて、天狗岩で昼食。藤原山荘へ向かう途中に、今まで見たなかでいちばん密生している福寿草の群落があった。大貝戸道をくだり、坂本谷の駐車地に戻った。（8時間）

4月6日、狗留尊山に登った。神明社からの登路は、尾根上で立木をつかむ急登になった。県境稜線上で、三角草をいくつも見た。六・八・九・十弁の花があった。正午に山頂に着き、先日登った冷川谷の頭を眺めながら昼食。帰りは、登りに比べると全く楽な道を篠立林道へくだり、長楽寺にも立ち寄ってのんびり戻った。（4時間半）

4月14日、鞍掛橋から鈴ヶ岳へ。御池谷で出会った人は、わずかに1人。前に一度、この谷をくだったときよりも荒れていた。ヒルコバからのササが嫌だったが、そこを抜けると、あとは良い道だった。帰りは、鈴北岳の方に少し登り返してからヒルコバへくだった。道のない所を登っていたとき、花を踏まないようにと声をかけられた。踏んではいないつもりだったが、知らない人にこういう注意ができる人は、すごいと素直に思った。この斜面の福寿草も、盛りは過ぎていたが、なかなかよかった。地味なハシリドコロやチャルメルソウの写真を、苦労して撮りながら、またのんびり帰着。もちろん、肘や足は泥だらけになった。（5時間半）

山行短歌十首

参道を行けば思わず幸せの
青い鳥見る古代の磐に
（猪子山にて）

福寿草一面に咲く今だけは
自分一人の花園にいる
（藤原岳天狗岩付近）

篠立の門々飾る花もまた
山路の花も春を喜ぶ
（狗留尊山から篠立）

湧水の清さを見れば思われる
立田の里に群れ飛ぶ螢
（立田小学校）

冬衣脱いで飛び立つ花鳥独り
木五倍子の花の簾を揺らす
（御池谷出合）

緑映す池の畔に咲く上溝桜
実の時に思い巡らす
（油日岳山麓）

稜線が石楠花色に染まる頃
伊勢美濃近江に山は微笑む
（三国岳にて）

虫かりや鄙風散り敷く尾根道で
出会った理も三点確保す
（篠立鞍掛峠近く）

やせ尾根の薄黄瑠璃佇々と
身を乗り出してカメラに収む
（三国・焼尾分岐直下）

山を下り緑の蔭に佇めば
春竜胆の青にひかれる
（熊鷹大神）

（松阪市　薮木伸人）

岡山県児島半島に常山という標高307㍍の、高さも名前も平凡な山がある。しかしその名は「角（つの）の山」が訛ったものと言われ、児島富士とも呼ばれるから、その姿が察せられる。

「秀麗翠峰常山の　いただき常に仰ぎつつ」の一節を校歌とする小学校があるらしい。ここを卒業して40年というのに、今も時にこの歌詞を口ずさみつつ農作業をしているという山麓の農家の主婦の手記を読み、いつかその姿を仰いでみたい、できれば登ってみたいと思っていた。

岡山から瀬戸大橋線・宇野線と乗り継いで30分余、その名の通りの常山駅に下車する。一目で児島富士とわかる山が先刻から車窓に見えていたが、頂上には数本の鉄塔やアンテナが建ち、いかにも目障りだ。とりわけ携

○新ハイ関西サービスチェーン

名峰・二岐登山　小白森―大白森―平子・船渕への縦走縦地　―名でも最寄り駅送迎可（夢子の約）　霧天温泉と内湯

福島・二岐温泉　日観連　大和館

〒962-0621
福島県岩瀬郡天栄村二岐温泉
電　0248-84-2021
F　0248-84-2705

富士登山・富士五湖
東海道自然歩道
（石割山・ハリモミ・鳴林）
三国山の麓
ペンション　コットンテール
〒401-0502
山梨県南都留郡山中湖村平野
電　0555-65-8515

大会議場・研修室・宴会場・ゴルフ場・温泉・ハイキング・スキー・岩風呂あり
JR中央線・山中湖駅下車タクシー10分
バス20分登山口下車後徒歩3時間
山小屋　福ちゃん荘

〒404-0022
山梨県塩山市上萩原23332
電（自宅）0553-33-4639
（山小屋）030-14-79215

尾瀬、平ケ岳探勝と釣りの山小屋
越後三山只見国定公園内
清四郎小屋
ほんものの手打そばと売店は
樹海

〒946-0000　新潟県北魚沼郡湯之谷村藤の巣（奥鋸山）
電　090-2558-0028
090-2579-2502
期間外（11月～4月）は

名峰・二岐登山　小白森―大白森―平子・船渕への縦走縦地　―名でも最寄り駅送迎可（夢子の約）　霧天温泉と内湯

福島・二岐温泉　日観連　大和館

〒962-0621
福島県岩瀬郡天栄村二岐温泉
電　0248-84-2021
F　0248-84-2705

富士登山・富士五湖
東海道自然歩道
（石割山・ハリモミ・鳴林）
三国山の麓
ペンション　コットンテール
〒401-0502
山梨県南都留郡山中湖村平野
電　0555-65-8515

大会議場・研修室・宴会場・ゴルフ場・温泉・ハイキング・スキー・岩風呂あり
JR中央線・山中湖駅下車タクシー10分
バス20分登山口下車後徒歩3時間
山小屋　福ちゃん荘

〒404-0022
山梨県塩山市上萩原23332
電（自宅）0553-33-4639
（山小屋）030-14-79215

尾瀬、平ケ岳探勝と釣りの山小屋
越後三山只見国定公園内
清四郎小屋
ほんものの手打そばと売店は
樹海

〒946-0000　新潟県北魚沼郡湯之谷村藤の巣（奥鋸山）
電　090-2558-0028
090-2579-2502
期間外（11月～4月）は

ハイカーの宿・池の平温泉
ナガサキロッジ
百名山を二つ登れる山小屋
黒沢池ヒュッテ
〒949-2100　新潟県中頸城郡妙高高原町池の平温泉
電　0255-86-2261

休憩昼食入浴も歓迎
10名以上マイクロバスで送迎
箱根仙石原温泉
福島館
〒250-0631　神奈川県足柄下郡箱根町仙石原139
電　0460-4-9041

四季織りなす乗鞍高原のハイク
上高地・乗鞍岳へ　冬はスキー
けやき造りと味の宿・日観連
温泉旅館　けやき山荘
〒390-1500
長野県南安曇郡安曇村乗鞍高原
電　0263-93-2555

さわやか信州
蓼大風呂　山吹の湯
湯田中温泉（穂波）
日野屋旅館
〒381-0400　長野県下高井郡山ノ内町湯田中温泉穂波
電　0269-33-3578

帯電話が広まったこの10年ほどで姿のいい（ということは電波がよく届くのだろう）山の景観が無惨に壊されてきたのは寂しい。

1時間強で登れる山頂には3等三角点があり、眼下に瀬戸内海が広がる。案内板によると戦国時代の城跡らしく、その程度の広さの広場がある。今はその痕跡は全くなく、静かに満開の桜が咲き誇っている。城跡には桜が似合う。春色清和の昼時というのに弁当を広げる花見客が三組というのは平日だからだろう。のんびりと桜の木の下で弁当が旨い。

あまりおもしろみのなかった登り道は使わず、自動車道をくだった。都会のように往来する車がほとんどないから安心して眺めを楽しめる。しかしまあ、なんと見事な桜景色ではないか。いろいろ花の山は見てきたつもりだが、ここ常山の桜は文句なしにそのベスト3に入るだろう。そしてそれ以上に目を見張るのは全山を彩るミツバツツジの群落だ。やや霞を帯びた青い空をバックに萌え出た新緑、桜色の花、それに紅葉のミツバツツジ。4月1日は言うことのない一日だった。（高槻市　紀平龍雄）

山行短歌

2月26日　向倉
向倉深い樹林のその中の
ケヤキの根元節分草が

3月3日　御池岳コロ谷から
くされ雪尻まで潜る急斜面
幼児のように這い這いあえぎ
天空の奥の平の雪原は
無邪気な笑顔雪とたわむれ

3月9日　赤石
天狗堂伊吹霊仙御池岳
白く輝やくこの絶景に

3月10日　雨乞岳
雪は消え清水頭のカヤ原の
けものの道に春の日差しが
春うらら西雨乞の雪原の
そぞろ歩きは和気あいあいと

3月15日　近江カルスト花の里
雪が消え落ち蕗を分けて春の使者
お菜の廻り節分草が
廃村の荒れた畑は福寿草
大群落は黄金の花

3月21日　御池岳
天空の巨大空母の絶景は
ボタン岩から天狗の鼻へ
ボタンブチ強烈疾風吹き上げて
春一番は御池を越えて

3月24日　朽木・経ヶ岳
豆桜菊咲一華蕗の筒
猩々袴に岩梨咲いて

4月7日　霊仙山
カワガラスチッチッチッと鶯現谷
春雨に濡れ渓萌え上がり

4月11日　保月
廃村は猩々袴に岩団扇
豪華に競演ピンクに染めて
（近江八幡市　若野　明）

4月早々、関西のふるさと富士三山に登った。泉州小富士山・播州小富士山（麻生山）・淡路富士（先山）である。

小富士山の名の通り、泉州小富士は260㍍、播州小富士は173㍍と、登山家からは見向きもされないような低山であるが、山頂は台地状になっていて広く、そして360度の展望を楽しめたのは大きい収穫であった。

一方、淡路富士は、頂上（448㍍）が淡路巡礼第一番札所の先光寺に占められ、樹木に囲まれていて眺望こそ無理だったものの、一丁、二丁と丁石をたどりながらの登山が楽しめたし、

標高2000m雲上の温泉
湯の丸高峰自然休養林
ハイキングにXCスキー
高峰温泉
〒384-0000
長野県小諸市高峰高原
電　0267-25-2000

ハイキングに！　スキーに！
志賀高原　石の湯ロッジ
バス　熊の湯線平床下車
電　0269-34-2421
東京本社・東京都新宿区新宿3-20-5（新光第2ビル）
電　03-3341-0211（㈱）スポーツサービス

樹氷高原・八方尾根まで車7分
白馬村内全て送迎します
スノーシュ&歩くスキー開催
大人たちのペンション
白馬・ヴィヴァルディ
〒399-9301
長野県北安曇郡白馬村落倉高原
電話　0261-72-7255
http://www.vivaldi.co.jp/~vivaldi/

塩の道　千国街道
百八十七体「観音原」
ホテル
白馬ブランシェ
〒399-9300
長野県北安曇郡白馬村いわたけ
電　0261-72-4452

境内に入って狛犬ならぬ、めずらしい狛猪にお目にかかることもできた。

富士という名前がつく限り、山頂近くは急登・急下降のミニ登山を経験できる。また、登山の前後は、遠く近くに、富士山型の山容を眺めることができる。何よりもこの季節、山麓には桜や菜の花が美しく咲いていて、そうした花を前景にして富士山容を撮ることができるすばらしさがある。さらに、山中ではミツバツツジが登山道を鮮やかに彩ってくれるのである。鳥たちの鳴き声もすばらしい。ホー！ホケキョ！　では家内にだまされる一幕もあったが、その後は二鶯（？）の共演を楽しんだりした。

淡路島では、阪神淡路大震災にて残された野島断層を見たし、くにうみ神話で有名な伊非諾神宮も訪ねた。神話によれば、海中の土を採った矛から滴る雫によって一番先にできた山が先山で、そこが日本の発祥地ということにもなる。

これで『ふるさと富士登山ガイド「関西周辺」』（山と渓谷社）に載せられている52山の中、32山を登ったことになる。

（枚方市　東谷　宏）

4月13日、2人で吉野へ。駅からバスを乗り継いで上千本で下車、金峯神社を経て西行庵へのコースを選んだ。

彼女とは30余年前の会社の同期で、お互いに結婚して今は鈴鹿と生駒に住んでいる。会うのは25年ぶり。今年の年賀状に「貴女に一度会いたいものです」の添え書きにすぐのって、一回目は2人の真ん中あたりでと、近鉄八木駅で会い大和三山を巡った。

20数年の隔たりなど少しも感じることなく昔のままの2人で、早春の大和路を一日中笑顔で歩いた。そのとき彼女が吉野の桜を見たいと言うので、今日の約束ができたというわけです。

今までほとんど一人で歩いていた私ですが、何日も前からこの日が待ち遠しくて、同じ感動を共有できる友との山歩きが、こんなにも楽しいものかと改めて実感しました。

西行庵の山桜は満開で私たちを迎えてくれ、のんびり昼食タイムをとっていると四十雀がすぐ足もとまで降りてきて、小さな頭をクルクルと忙しそうに動かせていました。時折吹く風で花びらがゆるやかに舞い上がり、まるで夢のなか。

恵まれたお天気に感謝しながら上・中・下千本の葉桜の道をゆっくりとくだり帰途についた。

来年は中千本の桜のトンネルの下を歩こうと約束をして。

旧姓を呼び合ふて　今　花の中
（生駒市　井上久子）

山行短歌

2月21日　北摂川久保渓谷
美女谷の水辺の眠り姫をさがせ
イヌブナ林の森の臥し所に

2月21日　水無瀬渓谷乙女の滝
誰ひとり振り返りもせぬ細き滝
目とじれば浮かびくる面影よ

3月3日　播州雪彦山
岩場めぐりくるまで待ってくれ
青きテリオス四駆の馭者を

3月17日　奈良音羽三山
淑やかな深山かたばみの子守歌
母の胸に抱かれた日のように

3月24日　鈴鹿藤原岳

八ヶ岳南北縦走の中心地
59年秋新館増築完成全館個室
木の香匂う新浴室誕生次豊富
オーレン小屋
1泊2食付き　6000円
〒391-0213
茅野市豊平2720　小平勇夫
電　0266-72-1279

北八ヶ岳の登山基地、冬はスキー
JR茅野駅・北八ヶ岳登山口まで送迎します
蓼科高原
プチホテル　カナール
〒391-0301
茅野市北山蓼科高原笹丸平5513の1
電　0266-67-2258

日本百名山の宿
信州戸隠山
森の宿めるへん
高妻山・黒姫山登山口まで送迎
クロカン・コースご案内
〒381-4100
長野県戸隠村越水ヶ原
電　026-254-2081

日本唯一の女人禁制の山「大峯山」（百名山）の登山口
栂村ヶ丘女人コースもあり
温泉・名水の里
旅館　紀の国屋甚八
1泊2食付　7,000円から
〒638-0431
奈良県吉野郡天川村洞川
電　07476-4-0309

雪とりの跡の消いとわずに登れ
　春さたりし無垢の日々求めて
3月28日　播磨雪彦山
日出せし岩峰まだ遠く道は無く
　ロープを結び財登の出離に
4月2日　京都人文字山
御陵より花活南禅水へ花びらも
　蹴鞠の見も流されてゆく
4月11日　鈴鹿鎌原岳
カレンフィールに福寿草群れて
　雪解かし春を呼ぶ女神たち
4月16日　六甲奥地獄谷
水辺の花よ早い目浄者のため
　コンブのように谷を照らせよ
4月19日　六甲石楠花谷
道の辺にクリン積まれた林ぬけ
　谷沿い行きて本来見つけよう
（吹田市　木村太郎）

娘さんたち（昔の）と前々からの約束で、愛宕山のクリンソウや群生地（本誌91号11絵中川氏撮影地）へ5月9日に行ってきました。

娘さんたちの中に昭和一桁生まれのちかれられ、今日のコースは無理で途中でリタイヤされるのではないかと心配しながらの山行でした。

清瀬バス停から群生地まで2時間30分の行程でしたが、何なくクリアし、お花を満喫。帰りは表参道七合目よりJR保津峡駅へ南西尾根コースを下山しました。急な下り坂をストックも使わず、6時間30分の行程を余裕をもって終わりました。

帰りの車中で娘さんたちの会話「これで自信がついたわね。明日はプール、明後日は山行けそうね」

さすが、今日の山行は娘さんたちのパワーに圧倒され、来年は苔見谷の自生地のクリンソウを見に行く約束をさせられ、女性の強さに脱帽した一日でした。

（宇治市　中村英雄）

以前、本誌36号（97年9・10月）で、財団法人東海財団が発刊した「中部の山々」という小冊子を紹介しました。

この小冊子は、登山のガイドブックではありませんが、山の自然を観察するための入門書として、中部の山々の自然の様子をまとめたもので、長野・岐阜・三重・愛知・静岡各県の山岳のうち、3000m級の高山から1000m級の低山までの山を取り上げていました。非売品のため一般書店での取り扱いはなく、直接、東海財団へ申し込むしかなかったのですが、予想以上の好評を博し、財団は増刷して対応したほどでした。

あれからすでに4年を経過し、予定よりかなり遅れてしまいましたが、今春、その続編として「中部の山々・その2」が発刊されました。スタイルや内容は同じで、岐阜・三重・愛知・滋賀・富山・石川・福井・静岡・長野・山梨各県の主要山岳を取り上げています。

山を歩きながら山の自然にも目を向け、自然を学び楽しみたいという方は、是非入手されるようおすすめします。

送料240円分の切手を同封し、住所、氏名、電話番号を明記の上、〒460-8660名古屋市中区錦3-21-24、UFJ銀行内、財団法人東海財団「中部の山々・その2」係（☎代表052〈211〉1111）へお申し込みください。一人一冊と限定されています。

ただ、ここで紹介する頃には、ひょっとすると予定配布数が完了しているかもしれません。その場合には、あしからず。

（各務原市　鷲見守康）

1等三角点のある阿蘇・烏帽子岳（1337・2m）から中岳（1506m）・高岳（15

九州の最高峰・日本百名山
宮之浦岳に一番近い宿
屋久島安房登山口
屋久島グリーンホテル
〒891-4311
鹿児島県熊毛郡屋久町安房
電　09974-6-3021

御在所登山に
愛知川渓谷沢歩きに
山好き仲間の集う宿
朝明渓谷
山小屋　朝明茶屋
〒510-1251
三重県三重郡菰野町千草
電　0593-93-1789

那岐山山麓の寛ぎに百名山の大山
二百名山の氷ノ山・上齋山などあり。
三百名山　那岐山のふもと
岡山県　那岐山荘
〒708-1307
岡山県勝田郡奈義町高円
電　0868-36-4154

92・1m）と歩いた。引き続き、この熊本から人分にわたる久山群の「阿蘇くじゅう国立公園」内の標高1000m以上の山から10峰あるうちの3峰を歩いた。

「くじゅう」が平仮名なのは、この山域人群山とも重山の二つの峰から名付けられ、この公園内に「九重町」「くじゅうまち」と「久住町」「くじゅうまち」がある。さらにややこしいことに二つのさかいめ、広い盤に豊後岡藩しるされ、中川藩入夫の老眼さとしても重山公平除巨大さと、肥後熊本藩ケ四方石・細川中将の入住山域豊後かった。

でいたが国立公園の名称は気を風流ず、平仮名にしたのは本当に「美浜」の選択だったのにちがいない。現在では一般的には「九重」を山群の総称として、「久住」をピークの名・もおの1峰の山名に使い分けている。ややこしくなったのには、まことにわかりづらい。

秋深い峰から歩かっき、各後山（しろうさん）からミキヤマ（ゆきやの書かれてきると病名に悪あ辰）さらに行くと星生山・磯黄岳が見えてくる。現役の火山は空気をブルンブルン震わせ白い水蒸気をシューシュー吐き出す。風向きが変わり噴煙がこちらに向かってくると自然と早足になる。久住山1等三角点到着、阿蘇山を見下ろすのは絶景だ。稲星山（1774m）から九州本土最高峰の中岳（1791m）を巡り、坊ヶツルにくだる。九州自然道を少し登り、長者原に出て、やまなみハイウェーをヒッチハイクで牧ノ戸峠に車を取りに行った。

翌朝、朝飯前に峠から黒岩山（1502・6m）に登り360度の展望を楽しむ。山頂にはマンサクが何株も咲いていたが、残花で匂いはあまりしなかった。マンサクは子孫を残すために早春に咲き、一ミツバチではなく、ワンシンク落としてハエに受粉させるため、魚の腐ったようなゆきいやな匂いがする」と図鑑に書いてあるが、それではマンサクに失礼して気の毒だ。小生は花の形が好きで、匂いもたまらなく好きで毎年、会って匂うのを楽しみにしている。

下山してから缶ビールで遅い朝食をとり、竹田岡城を観光して帰路についた。

（向日市　湯浅康夫）

先日、1等三角点のことを調べていて、奥美濃にはおもしろい名前の山が多いのに気がつきました。

伊吹山東の「タンボ」・川浦渓谷の奥にある「洞の天井」・荘川源流の「オサンババ」（オサンババの語源は兎ヶ馬場らしい）・伊吹山北の「ブンゲン」・土蔵岳北の「猫ヶ洞」と「大ダワ」・板取村の奥にある「ゴンニャク」等である。

いずれも三角点はあるが、「タンボ」のみ1等三角点です。

鈴鹿百山の後はいろいろな歩き方を模索していますが、展望の良い1等三角点の山々を訪れるのも一つの方法かなと思いますので、小生も行ったことのない山へ、少数の方と出かけましょうか。

（南濃町　山田明男）

兵庫県の南西部に五町を束ねた宍粟郡がある。この地域は古くから森林資源で生計を立てていたが、現在の農林政策の影響で従事者が激減してしまった。

山間の農地は放棄され、山林は植林をしたが中間の手入れがないので良材が生産されないため、なお放置されている。このようなことで町全体の活気が失われ、若者は町を離れ入口の減少に歯止めがかかっていない。

財団法人「しそう森林王国」を設立し、森を生かした再生を図ろうとしているが課題は多い。

小生、この地域がフィールドの一つなので機会があれば提言し、気持ちのよい山地を目指している。その中の一つに、一宮町千町地区にミニ森林王国の拠点を創り、山全体をだれでもが楽しめる遊び場として、自然に近いフィールドを現在つくっている。エリア近くには、段ヶ峰・千町ヶ峰・笠杉山・大段山など900m以上の山が手の内にわんさかとある。簡易宿泊棟を拠点にすれば、ピークハンターも楽しめると思う。夏には完成するので、いつもの調子で楽しい語らいの夜を考えたいと思っている。（姫路市　須磨岡　穣）

山行計画
（7・8月）
新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申込み先に申し込んでください。「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。AXでの申し込みはお断りします。「電話・F

山行申し込み後参加できなくなった場合はすぐ係に連絡してください。

体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円（夜行日帰りの場合は2日になり200円）を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。（安田火災海上保険会社と契約）

死亡・後遺障害保険金額	1000万円
入院保険金 日額	5000円
通院保険金 日額	2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登はんを目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合（詳細は係まで）

（記入例）

（往復ハガキを使用）

山行き申込み書

山行名（正確に記入すること）

期日

住所 〒

氏名

会員番号
（会員でない方は会員外と記入）

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
（山行中の連絡先を記入）

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所氏名に「様」までを必ず記入してください。

自然観察山行93
越美・金草岳（一般向き）

期 日 7月6日(日) 日帰り
集 合 JR大垣駅8時40分
コース 大垣駅（バス）冠峠—松尾峠—白倉岳—金草岳—白倉岳—松尾峠—ソバコマタ林道—林道入口（バス）大垣駅（解散19時過ぎ）
費 用 約3500円（大垣駅からバス代等）
地 図 2万5千＝宅良・冠山
係 ◎鷲見寺康
申込み 〒504—0828 各務原市蘇原村南町1の19の5 鷲見寺康まで
＊定員17名

奥美濃最奥の山。冠山の西にたおやかな稜線を描く金草岳を歩きます。小雨決行

週末ハイク41
大峰・五番関から吉野山（一般向き）

期 日 7月6日(土) 日帰り
集 合 近鉄下市口駅9時15分
コース 下市口駅（タクシー）五番関—大天井岳—百丁茶屋跡—足摺の宿—四寸岩山—青根ヶ峰—大和高城山—金剛山—中高城山—神福山—行者杉—南海紀見峰駅（解散18時頃）
費 用 約900円（大阪から）
地 図 昭文社＝「高城山・二上山」「金剛山・葛城山」
係 ◎西上利和
申込み 〒610—0121 城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで
＊定員20名（会員に限る）

河内平野を望みながらの縦走の醍醐味を楽しみます。ロングコースになります。間食も持参。雨天中止

吉野・四寸岩山（一般向き）

期 日 7月9日(水) 日帰り
集 合 近鉄大和上市駅8時50分
コース 大和上市駅（バスまたはタクシー）川上村役場前—高原・福源寺—高原山—四寸岩山—吉野奥駈道—青根ヶ峰—金峯神社—水分神社—吉野駅（解散16時00分頃）
費 用 交通費各自
地 図 2万5千＝新子・洞川
昭文社＝「大峰山脈」

山行例会の実施について

山行例会は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込んでください。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要もあります。また山ではいかなる事態が発生するかも。緊急連絡先など、記載すべき事項はもれなくご記入ください。

申し込みの返信案内は細目が決まり次第、山行日の10日前頃からします。早くに申し込まれた方はそれまでお待ちください。

定員のある計画は先着順に受け付けます。

記載のグレードは、常日頃山歩きに親しんでおられることを前提にしています。

（初心者向）やさしいコース
（初級向）どなたでも歩けます
（一般向）ハイキングの標準コース
（中級向）かなり経験者のコース
（やや健脚向）・（健脚向）は、危険な所があり、キツイ登りや下りが長く続くコースと、ご理解ください。

△

鈴鹿を歩く147
元越谷（沢歩き健脚向き）

期 日 7月7日(日) 日帰り
集 合 国道477号線元越谷林道入口手前広場8時30分
コース 広場—元越谷林道—元越谷—仏谷—左俣—大岩—仏峰—猪兵谷林道—広場（解散）
装 備 渓流シューズか地下タビ・ワラジ必携
費 用 交通費各自（＊沢歩き山行のため保険対象外、救援対策費50円）

山—青根ヶ峰—高城山—蔵王堂—吉野駅（解散17時30分頃）
費 用 約3500円（タクシー代等）
地 図 昭文社＝「大峰山系」
係 ◎狩野東彦 ○加藤元彦
申込み 〒610—0121 城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで
＊定員28名（6月29日まで）

大峰奥駈の前衛を女人結界の五番関から大天井岳・四寸岩山を越えて吉野へと歩きます。小雨決行

地 図 昭文社＝「御在所・鎌ヶ岳」
係 ◎宮野 明 ○山田景三
申込み 〒610—0121 城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

毎年恒例の夏の元越谷の沢歩きです。雨天中止

河内・一徳防山（一般向き）

期 日 7月7日(日) 日帰り
集 合 近鉄名古屋駅地下6時25分／近鉄・南海河内長野駅南出口10時20分
コース 河内長野駅（タクシー）中日野—大ザオ道分岐—塩倉山—見晴岩—一徳防山—編笠山—山湯寺—神納（バス）河内長野駅（解散）
費 用 約6000円（名古屋から）2万5千＝岩湯山
地 図 ◎小出良春
係 〒610—0121 城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで
申込み

ちょっぴりスリルのある岩尾根を歩き、古刹岩湯寺を訪ねます。雨天中止

近畿百名山に登る（第40回）
伊勢・獅子ヶ岳（一般向き）

期 日 7月7日(日) 日帰り
集 合 近鉄大和八木駅北口広場8時00分
コース 八木駅（バス）玉城（バス）小森ルート・ルネッサンスの森—獅子ヶ岳—猿谷ルート—日の出の森（バス）玉城弘法温泉（入浴・バス）八木駅（解散18時30分頃）
費 用 約4500円（バス代）
地 図 2万5千＝駒出
係 ◎村田智俊 ○吳氏裕美
申込み 〒610—0121 城陽市寺田大畔10の10 村田智俊まで
＊定員23名（会員に限る）

暑い中、省エネルートの獅子ヶ岳登山（歩行3時間）。帰路汗を流します。小雨決行

ダイトレ2
葛城山から紀見峠（健脚向き）

期 日 7月8日(月) 日帰り
集 合 近鉄御所駅8時10分
コース 御所駅（バス）ロープウェイ前—大和高城山—金剛山—中高城山—神福山—行者杉—南海紀見峠駅（解散18時頃）
費 用 約900円（大阪から）
地 図 昭文社＝「高城山・二上山」「金剛山・葛城山」
係 ◎西上利和
申込み 〒610—0121 城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで
＊定員20名（会員に限る）

河内平野を望みながらの縦走の醍醐味を楽しみます。ロングコースになります。間食も持参。雨天中止

吉野・四寸岩山（一般向き）

期 日 7月9日(水) 日帰り
集 合 近鉄大和上市駅8時50分
コース 大和上市駅（バスまたはタクシー）川上村役場前—高原・福源寺—高原山—四寸岩山—吉野奥駈道—青根ヶ峰—金峯神社—水分神社—吉野駅（解散16時00分頃）
費 用 交通費各自
地 図 2万5千＝新子・洞川
昭文社＝「大峰山脈」

係　◎亀本廣治○折川和佳子
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで

吉野奥駈道の途中にある四寸岩山へ川上村高原から登り、奥駈道を経て吉野山にくだります。雨天中止

鈴鹿・那須ヶ原山から油日岳（一般向き）

期　日　7月14日(日)　日帰り
集　合　JR名古屋駅中央改札口7時25分／JR関西線関駅9時15分
コース　関駅（タクシー）坂下峠—唐木山—三ツ頭山—那須ヶ原山—三国岳—油日岳—柘植駅（解散）
費　用　約3500円（名古屋から）
地　図　2万5千＝鈴鹿峠
係　◎小出良春
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで

鈴鹿南部の縦走です。静かな山歩きができると思います。雨天中止

平日ふれあいハイク33
比良・奥の深谷から堂満岳（一般向き）

期　日　7月18日(水)　日帰り
集　合　京阪出町柳駅／京都バスのりば7時35分
コース　出町柳駅（バス）坊村—牛コバ—奥の深谷—大橋小屋—金糞峠—堂満岳—ノタノホリ—イン谷口（バス）比良駅（解散17時15分頃）
費　用　約2200円
地　図　昭文社＝「比良山系」
係　◎寺井恒夫　○川上久堅
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで

木陰の多い谷に沿って奥の深谷をつめ、金糞峠から堂満岳を越えてくだります。雨天中止

✓自然観察山行94
南アルプス
荒川三山と赤石岳（健脚向き）

期　日　7月19日(金)～22日(月)
前夜発2泊3日
集　合　(19日)　JR岐阜駅23時00分
コース　(19日)　岐阜駅（バス）(20日)（バス）畑薙ロッジ（朝食・バス）畑薙第一ダム（リムジンバス）椹島ロッジ—千枚小屋（泊）
(21日)　千枚小屋—千枚岳—悪沢岳—荒川岳—赤石岳—赤石小屋（泊）
(22日)　赤石小屋—椹島ロッジ（リムジンバス）畑薙第一ダム（バス）赤石温泉（浴食・バス）岐阜駅（解散）
費　用　約31000円（岐阜駅からバス・宿泊・資料代等）
地　図　昭文社＝「塩見・赤石・聖」
係　◎鷲見守康　○狩野東彦
○山本宣治
申込み　〒504－0828
各務原市蘇原村南町1の19の5　鷲見守康まで
＊定員20名（7月1日まで）

南アルプスはやっぱりカレーか？　南部の3000㍍峰を踏破し、お花畑を楽しみながら、カレーの食べ歩き（？）です。雨天決行

兵庫丹波・三尾山から夏栗山（一般向き）

期　日　7月21日(日)　日帰り
集　合　JR名古屋駅中央改札口6時15分／JR福知山線黒井駅11時10分
コース　黒井駅（バスまたはタクシー）三尾山登山口—高架下登山口—鞍部—東峰—西峰—三尾山本峰—佐仲峠—黒頭峰—夏栗山—オートキャンプ場—宮田（タクシー）篠山口駅（電車）大阪駅（解散18時頃）
費　用　約3500円（資春18きっぷ使用、名古屋から）
地　図　2万5千＝宮田
係　◎小出良春
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで

西多紀アルプスの主峰三尾山は、古くは山城があった山で人気がある。黒頭峰・夏栗山は快適な山道が続きます。雨天中止

△鈴鹿を歩く148
元越谷・左俣（沢歩き健脚向き）

期　日　7月21日(日)　日帰り

集　合　国道477号線元越谷林道入口手前広場8時30分
コース　広場—元越谷林道—元越谷—左俣—尾根—P856㍍—仙ノ谷出合—元越谷林道—広場（解散）
装　備　渓流シューズか地下タビ・ワラジ必携
費　用　交通費各自（＊沢歩き山行のため保険対象外、救援対策費50円）
地　図　昭文社＝「御在所・鎌ヶ岳」
係　◎岩野　明　○山田晃三
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

元越谷の左俣を登り、仙ノ谷の源頭から P856㍍、仙ノ谷分岐に続く尾根をくだる秘境の新ルートです。雨天中止

中国自然歩道
因但国境・芦津吉川コース1
尾根ルート　（一般向き）

期　日　7月21日(日)　日帰り
集　合　JR西明石駅西口改札付近7時00分
コース　西明石駅（バス）智頭・若桜越—狩谷山—芦津吉川越—ヒレジ谷—吉川（バス）波賀温泉（入浴・バス）西明石駅（解散19時頃）
費　用　約4500円（バス・入浴代等）
地　図　2万5千＝岩屋堂・西河内
係　◎古賀慶二
申込み　〒675－0112
加古川市平岡町山之上684の33・17A403
＊定員20名（会員に限る）

沖ノ山材木遺伝資源保存林がある若桜側のほんの入口付近を訪ねます。1000㍍を越える尾根歩きです。雨天中止

鈴鹿百山32
雲母峰・鎌ヶ岳（健脚向き）

期　日　7月21日(日)　日帰り
集　合　近鉄湯の山温泉駅9時25分
コース　湯の山温泉駅（車）宮妻峡駐車場—カズラ谷—雲母分岐—岳峠—鎌ヶ岳—雲母分岐—白ハゲ分岐—雲母峰—尾根—宮妻峡（車）湯の山温泉駅（解散17時頃）
費　用　交通費各自（車代500円）
地　図　2万5千＝御在所山
係　◎山田明男　○高原芳彦
申込み　〒503－0535
海津郡南濃町松山624の19
山田明男まで
＊定員20名
＊マイカーの方はその旨ご記入ください。

カズラ谷から鎌ヶ岳へ登り、雲母峰まで尾根を歩きます。雨天中止

平日水曜ハイク54
比良
雄松山荘道から釈迦岳・楊梅滝（やや健脚向き）

期　日　7月24日(水)　日帰り
集　合　JR京都駅湖西線7時37分発に乗車
コース　京都駅（電車）近江舞子駅—雄松山荘道—大津ワンゲル道—釈迦岳—ヤケオ山—ヤケ山—涼峠—楊梅滝—北小松駅（解散16時頃）
費　用　約1400円（京都から）
地　図　昭文社＝「比良山系」
係　◎湯浅次男　○東山澄夫
申込み　〒569－1133
高槻市川西町1の18の20
湯浅次男まで

しっかり距離があります。暑さに負けずに山を楽しみましょう。雨天中止

ファミリーハイク13
六甲・裏地獄谷から記念碑台（一般向き）

期　日　7月25日(水)　日帰り
集　合　神戸電鉄大池駅9時30分
コース　大池駅—地獄谷道—ノースロード—記念碑台—神戸GC—天狗岩—南尾根—高森台（バス）JR摂津本山駅・阪急岡本駅
費　用　約1500円（梅田駅起点）
地　図　昭文社＝「六甲・摩耶・有馬」
係　◎木村太郎　○中村友昭
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで

大小の滝を見て清流眩しい谷道を歩く。甲南市街へ短路の天狗岩南尾根を爽快にくだる。雨天中止

京都北山歩き103
ホサビ山から平屋富士
（一般向き）
期　日　7月28日(日)　日帰り
集　合　JR京都駅八条口臨時バスのりば8時00分
コース　京都駅（バス）安曲―野添谷林道―谷谷林道終点―峠―ホサビ山―分岐ピーク―平屋富士―P467―安曲（バス）京都駅（解散18時頃）
費　用　約3000円（バス代等）
地　図　昭文社＝「京都北山2」
係　◎中西信行
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
展望のよい尾根道を歩きます。小雨決行

福井・木ノ芽峠から鉢伏山
（一般向き）
期　日　7月28日(日)　日帰り
集　合　JR名古屋駅中央改札口　7時30分／JR米原駅北陸線9時05分発に乗車
コース　米原駅（電車）敦賀駅（タクシー）新保―木ノ芽峠―鉢伏山―笠取峠―二ツ屋―南今庄駅（電車）米原駅（解散16時22分）
費　用　約3200円（京都18きっぷ使用、名古屋から）
地　図　2万5千＝板取
係　◎小山良春
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
紫式部も越えた石畳の木ノ芽峠から、好展望の鉢伏山を歩きます。雨天中止

比良を歩く13
鵜川左股から滝山・トビ岩
（一般向き）
期　日　7月28日(日)　日帰り
集　合　JR北小松駅9時00分
コース　北小松駅―鵜川出合―鵜川左股―滝山―トビ岩―北小松駅（解散16時30分頃）
費　用　約1300円（京都から）
地　図　2万5千＝北小松
昭文社＝「比良山系」
係　◎秦　康夫
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
夏なお涼しい鵜川左股の沢筋歩きと、湖西線からよく見えるトビ岩からの眺望を楽しみます（本誌48号参照）。雨天中止

北山ちょっと歩き35
桃山から大文字山（一般向き）
期　日　7月31日(水)　日帰り
集　合　JR京都駅正面JRバスのりば8時00分（10分発に乗車）
コース　京都駅（バス）槙ノ尾―福ヶ谷―沢池―吉兆山―桃山―原谷―大文字山―左大文字―金閣寺前（解散15時頃）
費　用　約500円（京都から）
地　図　昭文社＝「京都北山1」
係　◎真山繁三
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
緑陰に涼を求め、沢池で水と戯れ、里山をゆっくり歩きます。左大文字火床から京の街が一望できます。小雨決行

自然観察山行95
湖北・伊吹山（一般向き）
期　日　8月3日(日)　日帰り
集　合　JR近江長岡駅8時15分
コース　近江長岡駅（タクシーまたはバス）ゴンドラのりば（ゴンドラ）伊吹山三合目―伊吹山（往復コース）
費　用　約3500円（近江長岡駅からタクシー・ゴンドラ代等）
地　図　昭文社＝「霊仙・伊吹・藤原」
係　◎鷲見守康
申込み　〒504―0828　各務原市蘇原村南町1の19の5　鷲見守康まで
夏の花を訪ね、炎暑を覚悟で登ります。小雨決行

鈴鹿を歩く149（新企画）
神崎川・茶屋川沢下り
（沢下り健脚向き）
期　日　8月4日(日)　日帰り
集　合　杠葉尾神崎橋広場9時00分
コース　広場（車）神崎川林道終点―神崎川―取水口―林道（車）茶屋川林道焼野―茶屋川下の鹿―茶屋川林道（解散）

装　備　渓流シューズか地下タビ・ワラジ・渓輪またはライフジャケット必携
費　用　交通費文台（＊沢歩き山行のため保険対象外、救援対策費50円）
地　図　昭文社＝「御在所・鈴ヶ岳」「霊仙・伊吹・藤原」
係　◎宮野　明　○山田景三
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊定員20名
＊マイカー山行

神崎川や茶屋川の下の滝下の淵や瀬、ナメ滝を渓輪につかまり、ラッコ状態でアカブチと流れてくだります。渓流満点。雨天中止

六甲・水無山から岩倉山
（一般向き）
期　日　8月4日(日)　日帰り
集　合　JR名古屋駅中央改札口　6時15分／JR京都駅9時50分
コース　阪急宝塚駅（バス）船坂橋―船坂谷―山上ノ滝―東六甲縦走路―水無山―大平山―岩倉山―塩尻寺―宝塚駅（解散16時頃）
費　用　約2650円（京都18きっぷ使用、名古屋から）
地　図　ゼンリン＝「六甲・摩耶」
係　◎小山良春
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
船坂谷を登って行くと、周囲絶壁のなかに小じんまりした山上ノ滝があります。谷はザイルもあり、安全に歩けます。雨天中止

比良を歩く14
八淵の滝めぐり（中級向き）
期　日　8月4日(日)　日帰り
集　合　JR近江高島駅8時30分
コース　近江高島駅（バス）ガリバー旅行村―鵜川林道出合―魚止の滝―大摺鉢―貴船の滝―オガサカ道への分岐―八雲ヶ原ゲレンデ―カラ岳―リフトシャカ岳駅―リフト山麓駅（バス）比良駅（解散16時30分頃）
費　用　約2600円（京都から）
地　図　2万5千＝北小松・比良山
昭文社＝「比良山系」
係　◎秦　康夫
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
魚止の滝から始めて、陰子ヶ淵・唐戸の滝・大摺鉢・小摺鉢・屏風ヶ淵・貴船の滝・七淵返しの滝、全部探訪したいと思います（本誌54号参照）。雨天中止

近畿百名山に登る（第41回）
京都北山・峰床山（一般向き）
期　日　8月4日(日)　日帰り
集　合　JR堅田駅8時40分
コース　堅田駅（バス）坊村―鎌倉山―オグロ坂峠―峰床山―依坂峠―交流の森展望台―交流の森センター（入浴・バス）出街柳駅（解散）
費　用　約4000円（交通費）
地　図　昭文社＝「京都北山2」
係　◎村田智俊　○真比裕美
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　村田智俊まで
鎌倉山からブナ林を歩いて峰床山へ。下山後、交流の森センターで汗を流します。小雨決行

ファミリーハイク14
四国・剣山（一般向き）
期　日　8月8日(木)　日帰り
集　合　新大阪駅一階正面口観光バスのりば6時50分
コース　新大阪駅（バス）見ノ越―西島―大剣神社―剣山―一ノ森―両剣神社―見ノ越（バス）新大阪駅
費　用　約5500円（バス代等）
地　図　昭文社＝「四国剣山」
係　◎木村太郎　○中村友昭
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊定員26名（会員に限る）
宮尾登美子の小説「天涯の花」に描かれた名花キレンゲショウマを求め、百名山の剣山に登る。雨天決行

静岡・高ドッキョー
（中級向き）
期　日　8月11日(日)　日帰り
集　合　JR名古屋駅中央改札口　7時10分
コース　名古屋駅（電車）興津駅（タクシー）坂井沢―樽峠―高ドッキョー―徳間峠―大平（バス）興津駅

（電車）名古屋駅（解散19時過ぎ）
費　用　約4800円（青春18きっぷ使用、名古屋から）
地　図　2万5千＝篠井山・和田山
係　◎小出良春
申込み　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
静岡・山梨環境を歩いて高ドッキョーに行くと富士山が見える。
雨天中止

北鎌・鎌倉峡から百丈岩
（中級向き）
期　日　8月13日(火)　日帰り
集　合　JR名古屋駅中央改札口6時15分／JR福知山線道場駅10時10分
コース　道場駅―平田配水場―鎌倉峡―百丈河原―百丈岩―道場駅（解散15時頃）
費　用　約3300円（青春18きっぷ使用、名古屋から）
地　図　2万5千＝武川尼・三田・宝塚
係　◎小出良春
申込み　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
渓谷の美しさで知られる鎌倉峡、ロッククライミングの練習場の百丈岩を歩きます。雨天中止

中国山地の山々
道後山・比婆山・三瓶山
（一般向き）
期　日　8月14日(水)～16日(金)
2泊3日
集　合　（14日）JR新大阪駅一階正面口7時30分
コース　（14日）新大阪駅（バス・中国道）東城（バス）月見ヶ丘―道後山―月見ヶ丘（バス）吾妻山休暇村（泊）
（15日）休暇村―吾妻山―烏帽子山―比婆山御陵―立烏帽子山―六ノ原（バス）出雲湯村温泉清風荘（泊）
（16日）清風荘（バス）青年の家前―男三瓶山―女三瓶山―室の内池―孫三瓶山―三瓶噴泉（入浴・休憩）後・バス）三次（バス・中国道）大阪駅（解散20時頃）
費　用　約32000円（バス・宿泊代等）
地　図　2万5千＝道後山・比婆山・三瓶山東部・三瓶山西部
係　◎村田智俊　○安倉正勝　○呉比裕美
申込み　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
村田智俊まで
＊定員22名（会員に限る）
中国山地中央にそびえる三山と温泉の山旅です。雨天決行

三重・七洞岳（一般向き）
期　日　8月15日(木)　日帰り
集　合　JR名古屋駅中央改札口7時00分／JR多気駅9時20分（松阪駅9時05分発）
コース　多気駅（電車）栃原駅（タクシー）野原新田登山口―展望岩―七洞岳―藤（タクシー）栃原駅（電車）松阪駅（解散17時18分）
費　用　約3700円（青春18きっぷ使用、名古屋から）
地　図　2万5千＝脇出・伊勢佐原
係　◎小出良春
申込み　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
1等三角点の山で、山頂の展望は申し分なし、藤にくだる登山道も快適な道です。雨天中止

✓
自然観察山行96
後立山連峰縦走
白馬三山と唐松岳（健脚向き）
期　日　8月15日(木)～18日(日)
前夜発2泊3日
集　合　（15日）JR岐阜駅23時00分
コース　（15日）岐阜駅（バス）（16日）（バス）猿倉荘（朝食）―白馬尻―白馬岳―村営第上宿舎（泊）
（17日）村営第上宿舎―杓子岳―鑓ヶ岳―不帰ノ剱―唐松岳―頂上山荘（泊）
（18日）頂上山荘―八方池―池山荘（ゴンドラ・リフト）八方駅（バス）大町市（入浴・バス）穂高町（昼食・バス）岐阜駅（解散）
費　用　約40000円（岐阜駅からバス・宿泊・資料代等）
地　図　昭文社＝「白馬岳」
係　◎鷲見守康　○寶野東彦
申込み　〒504―0828
各務原市蘇原村南町1の19の5　鷲見守康まで
＊定員20名（7月27日まで）
高山植物の宝庫の白馬岳と八方尾根、不帰の剱の第二級の岩稜帯など、花とスリルに富む縦走路。雨天決行（コース変更あり）

丹生・金剛童子山から丹生山
（一般向き）
期　日　8月17日(日)　日帰り
集　合　JR名古屋駅中央改札口6時15分／JR三ノ宮駅中央改札口9時40分／神鉄箕谷駅10時15分
コース　箕谷駅―柏尾谷―金剛童子山―花折山―梵子ヶ墓山―帝釈山―丹生山―丹生神社前（バス）箕谷駅（電車）三ノ宮駅
費　用　約3800円（青春18きっぷ使用、名古屋から）
地　図　2万5千＝有馬・淡河
係　◎小出良春
申込み　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
史蹟の残る丹生・帝釈山系の縦走です。雨天中止

鈴鹿を歩く150（特別企画）
神崎川源頭から取水口まで
（沢下り健脚向き）
期　日　8月18日(日)　日帰り
集　合　杠葉尾神崎橋広場7時30分
コース　広場（車）取水口上広場置き車（車）武平峠広場―茨谷―沢谷源頭―大瀞―天狗滝―取水口―林道（車）武平峠広場（解散）
装　備　渓流シューズか地下タビ・ワラジ・浮輪またはライフジャケット
費　用　交通費各自（＊沢歩き山行のため保険対象外、救援対策費50円）
地　図　昭文社＝「御在所・鎌ヶ岳」
係　◎小出良春
申込み　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊定員20名
＊マイカー―山行
神崎川源頭から取水口まで通してくだります（本誌76頁参照）。雨天中止

○
鈴鹿百山33
岳・旭山・東山・キトラ
（健脚向き）
期　日　8月18日(日)　日帰り
集　合　三岐鉄道大安駅8時15分（＊京都・大阪方面のマイカーの方は、杠葉尾のひろせ酒店前9時15分）
コース　大安駅（車）杠葉尾―岳―鉄塔高視察経由（尾根道）―旭山―東山―キトラ―政所―杠葉尾（車）三岐鉄道大安駅（解散17時頃）
費　用　交通費各自（車代1000円）
地　図　2万5千＝竜ヶ岳
係　◎山田明男　○高原芳彦
申込み　〒503―0535
海津郡南濃町松山624の19
山田明男まで
＊定員20名
＊マイカーの方はその旨ご記入ください
御池岳から南に繋がる長い尾根の南部地域を歩きます。雨天中止

平日水曜ハイク55
京都北山
衣懸峠からソトバ山・廃村八丁
（一般向き）
期　日　8月21日(水)　日帰り
集　合　京阪出町柳駅京都バスのりば7時50分発乗車
コース　出町柳駅（バス）菅原町―衣懸峠―ソトバ峠―ソトバ山―廃村八丁―刑部滝―ダンノ峠―菅原町（バス）北大路駅（解散19時頃）
費　用　約2000円（バス代）
地　図　昭文社＝「京都北山2」
係　◎湯浅次男　○東山澄夫
申込み　〒569―1133
高槻市川西町1の18の20
湯浅次男まで
残暑も渓谷の涼しさに吹き飛ぶでしょう。雨天中止

奥播磨・天滝（初級向き）
期　日　8月25日(日)　日帰り
集　合　JR西明石駅西口改札付近8時00分
コース　西明石駅（バス）天滝公園―天滝―杉ヶ沢高原―天滝公園（バス）若杉温泉（入浴・バス）西明石

駅（解散18時頃）
費　用　約4500円（バス・入浴代等）
地　図　2万5千＝関宮・大屋市場
係
申込み　〒675－0112
加古川市平岡町山之上681の33・17A403
古賀慶二まで
・定員20名（会員に限る）
涼を求ねて名湯・天滝を訪ねます。雨天中止

近畿百名山を歩く（第42回）
比良・武奈ヶ岳（中級向き）
期　日　8月25日（日）日帰り
集　合　京阪出町柳駅京都バスのりば7時40分
コース　出町柳駅（バス）静川－北西稜－武奈ヶ岳－コヤマノ岳－中峠－金毘羅－南比良峠－荒川峠－大堂－中谷出合－志賀駅（解散17時30分頃）
費　用　約4000円（交通費）
地　図　昭文社＝「比良山系」
係　◎村田智俊　○安倉正勝　○浜比裕美
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
村田智俊まで
広葉樹の自然林のなか、北西稜をつめて武奈ヶ岳へ登ります。急登あり。雨天中止

福井・槍山（一般向き）
期　日　8月25日（日）日帰り
集　合　JR名古屋駅中央改札口7時30分／米原駅北陸線9時15分発に乗車
コース　米原駅（電車）湯尾駅（タクシー）往還公園－駒返し－槍山－西藤殿跡－文殊堂－湯尾駅（電車）米原駅（解散16時25分）
費　用　約3000円（香美18きっぷ使用、名古屋から）
地　図　2万5千＝今庄
係　◎小出良春
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
南北朝時代には山城があったという山です。雨天中止

北山ちょっと歩き36
西山・善峰寺から山崎（一般向き）
期　日　8月27日（水）日帰り
集　合　阪急東向日駅バスのりば9時00分
コース　東向日駅（バス）小塩－善峰寺前－樫谷観音寺－愛宕寺－サントリー蒸留所（見学・解散16時頃）
費　用　約1200円（会員から）
地　図　昭文社＝「京都西山」
係　◎浜山繁三
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
3月中止になったコースを歩きます。暑さ対策をしっかりと。小雨決行

自然観察山行97
越美・能郷白山（一般向き）
期　日　8月31日（日）日帰り
集　合　JR大垣駅8時40分
コース　大垣駅（バス）温見峠－能郷白山－温見峠（バス）大垣駅（解散18時過ぎ）
費　用　約3500円（大垣駅からバス代等）
地　図　2万5千＝能郷白山
係　◎鷲見守康
申込み　〒504－0828
各務原市蘇原村南町1の19の5　鷲見守康まで
・定員30名
奥美濃の名峰、二百名山の能郷白山に温見峠から短時間で登ります。小雨決行

特別山行

ホテル泊で行くネパール
赤いそばの花と高山植物を見に
期　日　9月14日（土）～22日（日）
8泊9日間
集　合　関西空港9時45分（予定）
コース　関空＝バンコック（泊）＝カトマンズ（泊）＝ポカラ（泊）＝ジョムソン（2泊）＝カトマンズ（2泊）＝バンコック（泊）＝関空
費　用　約33万円
申込み　〒186－0003
国立市富士見台3の8の13の203　野瀬和紀まで
全泊ホテル泊でヒマラヤの赤いそばの花を見に行きます。バンコックで成田からの東部新ハイメンバーと合流します。別紙案内あり、普通ハガキで請求ください。

山行報告
（3・4月号）
新ハイキングクラブ関西

北摂・大船山から羽束山
3月3日（日）晴れ
JR三田駅集合10・05～15（バス）十倉10・45－カナディアン大阪道11・25－町石道峠11・35－大船山11・50（昼食）12・35－赤谷峠12・47－木谷14・03－さくらう山14・57－羽束山15・30～45－桑下16・10（タクシー）三田駅16・30（解散）
大船山への登山道は整備されていて安心して歩けたが、峠からは急登だった。木谷に出て、峠からさんしょう山の三角点を見に行った。羽束山の神社では時間が遅く、だれもいなかった。
（参加者）小田洞子　若林文夫　木村　豊　山根公美　前田喜久子　森　瑞代　保田　正　名倉マサ子　藤本桂吉　青木一雄　中尾美智子　多賀久子　平田義男　森実淳美子　大和　紘　森本　勝　森本浩子　馬籠忠男　藤崎洸右　藤本英樹　上田久子　美村孝治　鈴木恵美子　鷲尾健治　中谷義多　市来ミヤ子　森　晴代　眞田久子　森澤照子　○宮下淳一　（吉野博久）
◎小出良春　（計22名）

御池岳で雪と遊ぶ4
3月3日（日）晴れ
JR関ヶ原駅8・20／三岐鉄道貴生駅8・35集合（車）コグルミ谷入口9・00～18－長命水10・00－根場尾根10・30－幻池10・50－真の谷丸山分岐11・10－丸山11・50－天狗の鼻12・00（昼食）13・00－東池－黒のドリーネ－1139.4－岩峰東14・00－真の谷14・25～45－ヤタクリ峠15・30－長命水16・00－コグルミ谷入口16・30（車）関ヶ原駅17・25（解散）
ドリーネまで雪に遊び、登山の近くに小屋でアイスシャーベットをつくって食べた。見晴らしは最高によくて、白山から鈴鹿山脈まで真っ白に見えた。
（参加者）原　文子　梶木美恵子　南　寛子　冬田陽子　武村千鶴　平塚明美　湯浅泰夫　加納田紀子　小松志郎　本間　隆　伊藤　貞　蓮井洋子　木下朝子　伊藤春久男　吉村　聡　小林　稔　今井みさ子　小林　桂　今井武司　的場たか子　山村義男　松本浩三　伊藤恵美子　鈴木　浩　鈴木友子　宮路ちへ子　松岡鳳昭　太石登美　栗本敏夫　奥野民憲　井上　光　葛原安子　宮田博子　段下由子　鳥居信吾　○高橋芳彦　◎山田明男（計32名）

奈良・矢田丘陵
（地図読み山行50）
3月3日（日）晴れ
近鉄富雄駅集合9・20～30（バス）霊山寺9・40～52－迫分梅林10・00～23－こどもの広場10・45－貯水池11・45（昼食）12・45－国見台13・15～25－松尾山13・35～40－松尾寺13・55～14・00－白石畑14・20－三田14・55～15・10－近鉄平群駅15・40（解散）
迫分梅林は紅・白とも満開で、梅園たちの香りに包まれていた。早春の陽気のなか、地形図とコンパスの使い方を学習した。
（参加者）春田芳樹　津山敬子　広瀬利明　西田隆子　山本良子　森重光雄　久保勝子　佐々木敏明　岡本修子　上野幸子　徳永加代子　白肥宗義　東山俊夫　田中三恵子　澤田雄之　北川良子　山下幸太郎　前田幸子　○中村　登
◎塚元一彦　（計20名）

室生・古光山
（近畿百名山に登る35回）
3月3日（日）晴れ
近鉄名張駅集合8・30～40（バス）曽爾高原9・30－長尾峠10・20－後古光山11・00－フカタワ11・30～40－古光山12・00（昼食）13・00－南峰13・15－大峠13・45～14・00－曽爾村役場14・50～15・00（バス）名張駅16・00（解散）
ロープを伝っての急登、急下降のスリルを楽しんで古光山を縦走した。山頂からの展望にも恵まれ、山座同定に忙しい。南峰から大峠まではジグザグの新しい道が整備されていた。
（参加者）川田洋子　宍戸喜久江　岩田育士　永島律子　入江武史　塩筑香織　辻村幸裕　荻野美紀恵　岡田豊治　谷川俊一　安田文美江　遠藤　率　中島　隆　仲村久美子　加藤元彦　植木敏子　中嶋日出男　福隅　章　小谷和子　砂原恵美子　中村和江　田中博子　安倉正勝　三井紘一　松村雅子　秋田輪師　吉岡孝次　中村静香　長尾一合　黒河内東洋明　岩鶴健司　竹田善英　山高義治　山高多恵子

角田一江　上山正二　中西信行
○真長静美　◎石田智俊（計39名）

美濃・天狗ヶ城（白鬚嶽・山石183）

3月9日(日)　晴れ
JR大垣駅集合8・40～50（バス）美山町貴船神社登山口10・00～10—天狗ヶ城11・45—松尾山（三角点）12・10（昼食）13・10—天狗ヶ城—登山口15・10（バス）谷汲観音16・10（入浴）16・45（バス）大垣駅19・35（解散）

残雪はほとんどなく、山は春へとかけ足。車窓や舟伏山、高賀三山などの残雪の山容を背景に、ダンコウバイやアセビの蕾が咲いていた。

（参加者）橋本芳雄　上田久子
大角良子　岡田　昇　加納由紀子
柿方由子　田島勝美　木村　豊
栗栖恵吉　栗栖君子　宍戸喜久江
高津智美　小谷初子　砂原重美子
塩尻直織　鷹巣　邦　鮫本吉巳子
中井幸子　藤本桂吉　松土美代子
堀田輝子　前田悌子　三月千鶴子
三月弘一　森　昌好　安田文美江
森本淳子　山本宣治　荻野美紀恵
○宮野東彦　○鷲見宗康（計19名）

南勢・姫越山（三重の山61）

3月9日(日)　晴れ
薄原神宮駐車場集合8・30（車）紀勢町錦港9・25—展望台10・00—姫塚10・50—姫越山11・05（昼食）12・00—芦浜13・05—境界広場13・50—分岐14・20—展望台（見張櫓跡など）—福羅公園15・40—錦港16・00（解散）

姫越山の山頂からも芦浜からもいい景色が堪能できたが、最もすばらしかったのはオプションコースの黒島展望台への道（最高整備）。絶壁から見る海と島々の景色は印象的であきず、時間が過ぎるのを忘れて眺めた。

（参加者）森　晴代　永戸鉄治
田尾　肇　田尾玲子　原　文子
平　龍一　平　幸子　新町幸夫
○稲垣逸夫　◎尾崎英五（計10名）

生駒・交野山

3月10日(日)　晴れ
JR津田駅集合10・10～15—源氏ノ滝10・40—交野山11・20～30—旗振山11・50—野外活動センター12・05（昼食）12・57—くろんど園地入口—くろんど池13・47～14・12—月ノ輪滝14・45—京阪私市駅15・07（解散）

源氏ノ滝では行の準備中で滝の眺望を清神していた。交野山では巨岩の上から眺望を見回したが、天気がよすぎてかすんでいる。くろんど園地でも大勢の人が楽しんでいて、だれでも歩ける山があってうらやましいと思った。

（参加者）岩田育士　谷川俊一
大和　紘　杉田尋子　長尾一令
岩鶴健司　平田義男　前田喜久子
堀田民夫　中村英雄　中嶋日出男
山口喜弘　朽名生右　渡辺美代子
入江武史　米谷建治　古部信廣
森澤照子　和田直樹　○宮下淳一
○瀧尾健治　◎小出良春（計22名）

残雪の雨乞岳（鈴鹿を歩く138）

3月10日(日)　晴れ
かもしか荘集合8・25（車）清水平谷林道広場8・50—P835右9・45—草原10・10—清水の頭10・40—南雨乞岳11・15—雨乞岳11・35（昼食後東雨乞岳と西雨乞岳往復）12・50—シャクナゲ尾根取付13・15—林道14・45—広場15・05（解散）

暖冬で雪はほとんど消えていた。カヤ原からは展望も開け、楽しみながら雨乞岳へ。西雨乞岳までのんびり散策し、大景観に満足。下りのシャクナゲ尾根取付で間違ったが、冬枯れの秘境の尾根を快適にくだり、大満足の一日だった。

（参加者）後藤康幸　池田繁美
小林　稔　谷　久雄　栗本敏夫
神野孝允　武村千鶴　奥野太一郎
原　光一　原　幸子　武藤由美子
小林　桂　金谷　昭　加納由紀子
池田隆一　永戸鉄治　伊藤喜久男
杉山恵久　磯部　純　石田眞由美
吉條孝次　湯浅康夫　湯浅みや子
谷　守　石原君子　大石将美
加藤国計　小松志信　樫田勝利
炭田明美　松田輝子　吉村　昭
○山田景三　◎岩野　明（計34名）

紀泉・岩湧山（平日ふれあいハイク31）

3月12日(火)　晴れ
南海天見駅9・00—ダイトレ合流地点10・10～20—三合目10・45～50—五ツ辻11・30—岩湧山12・05（昼食）13・00—三合目14・20～30—根古谷越ヶ滝14・55～15・00—紀見峠駅15・30（解散）

4月上旬の暖かさとなり、好天の一日でした。金剛・葛城山などが見え、岩湧山からは360度の展望がありました。秋のススキの

よきはすばらしいだろう。

（参加者）木村　豊　南　ミヤ子
木下朝子　宮生幸子　石井豊美子
山縣勝美　高木　晋　前川和信子
馬場　雅　榊　耀司　榊　美栄子
堀本金　妹尾一正　砂原重美子
白鳥宗子　永富律子　中尾美智子
今村　浩　杉田尋子　○川上久堅
◎宇川恒夫（計23名）

西山めぐり1

清滝から松尾山・上桂（平日水曜ハイク50）

3月13日(水)　晴れ
清滝バス停集合8・30～40—金鈴橋9・02—亀石橋—トロッコ保津峡駅9・47—舟史道—嵐山中之島12・04（昼食）13・15—松尾山頂14・25～15・00—疎水上桂駅15・30（解散）

保津峡下りの舟と子を振りあいながら、舟路を元気に歩いた。

（参加者）柳野欽也　小林伊佐子
飯田愛子　木下朝子　曽根ひろ子
西村誠一　吉森孝次　野々山明美
中野博文　長尾一令　中上紀代子
中村英雄　金谷　昭　瀬戸内神子
岩鶴豊子　本間繁子　千桑千枝子
栗栖君子　舟岡　武　光川二美子
谷　守　浜山繁三　東山澄夫
小山晴美　貫田久子　仲谷礼司
石原君子　安良陽子　岡田里子
松尾一郎　風見瑞子　宮村孝次郎
松田輝子　細井和子　山本千鶴子
上田久子　竹田善美　前田政雄
美村孝治　諏訪慈子　岩本彩子
岩本健二　白根清子　砂原重美子
○青木一雄　◎湯浅次男（計35名）

静岡・薩埵山から高尾山

3月17日(日)　晴れ
JR名古屋駅集合7・10～20（電車）藤枝駅9・39～50（タクシー）檜峠10・28—薩埵山11・16—地蔵堂11・50—笠張山12・37（昼食）13・10—高尾山13・41—中里14・55～15・15（タクシー）藤枝駅15・50（電車）名古屋駅18・08（解散）

静岡らしい茶畑のなかを檜峠までタクシーで行く。峠は藤枝・島田両市の境にあった。芽吹きの木立を吹き抜ける風が気持ちよく、山頂に登ると低山にしてはかなりくだるという、変化にあふれたコースだった。

（参加者）藤崎洗右　宍戸喜久江
森　晴代　水谷陽子　岡本美千子
渡辺美代子　森　美香子
○藤本桂吉　◎小出良春（計9名）

播州・七種山ハート1

3月17日(日)　晴れ
JR姫路駅集合9・10～29（電車）福崎駅9・50（バス）野外センター10・10～25—尾根10・50—クサリ場11・14—七種槍手前12・30（昼食）13・05—七種槍13・10—小滝林道分岐13・52—P552右14・25—薬師分岐14・44—七種山15・00～15—神社15・42～16・04—野外活動センター16・40（バス）福崎駅17・00～05（電車）姫路駅17・28（解散）

岩場の通過、急登と比較的厳しい縦走でリタイヤを心配したが、皆さんのご協力で全員無事に下山できた。

（参加者）竹田義美　岡田恵美子
木村　豊　森本幹雄　宮村孝次郎
緒方由子　宮下淳一　松上美代子
秋田楠師　岡田豊治　中尾美智子
田中　明　小田潤子　光川二美子
吉條孝次　保田　正　前田喜久子
大和　紘　森　瑞代　栗栖崇吉
栗栖君子　小谷和子　多賀久子
山本武臣　山本令子　角田一江
塩尻香織　森本　勝　森本淳子
長沢佐美　土井明夫　土井あつ子
川島勝美　馬籠忠男　森実喜美子
宮本真幸　宮本悦子　河本美千子
原　雅子　中川光郎　中嶋日出男
東山澄夫　松村雅子　加藤元彦
磯野重治　中川節子　青木一雄
高木忠夫　兼貞　力　○岡田　昇
○中西信行　○稲岡　茂
◎吉賀慶一（計53名）

奈良・音羽三山

3月18日(日)　くもり時々晴れ
近鉄桜井駅南口集合9・40～45（バス）下居10・00—音羽山観音寺10・50～11・00—音羽山11・40—経ヶ塚山12・00（昼食）12・30—熊ヶ岳13・00—大峠13・35～55—針道—不動滝14・30～15・18（バス）桜井駅南口15・45（解散）

音羽山までの登りはきつかったが、爽やかな汗をかき、曇り空から時々のぞく陽光を浴びながら春山を楽しんだ。

（参加者）砂津達雄　小林伊佐子
市野博文　杉田尋子　石倉眞佐子
長尾一令　白鳥忠宗子　中村恵美子
速水　保　菊地桂子　並木薫子
安良陽子　石原君子　楞田隆子
松田輝子　鵜尾健治　妹尾一正
森澤照子　藤井益子　木村太郎
○中村英雄　◎西上利和（計22名）

残雪の御池岳・奥の平

（参加者）小田潤子　田中三恵子
福嶋　章　森　環代　野間超夫
大和　紘　宮本真幸　田所真里子
秋田禎治　河崎蛟子　今村　真
山本武臣　鈴鹿利明　鈴鹿ろよ子
小山　輝　土井明夫　井上喜美子
三宅　明　土井あつ子　鈴鹿ろよ子
古賀隆一　小林優子　土井あつ子
原　雅子　三輪浩子　美村孝治
松本忠雄　加米昌子　萬代　猛
八木四郎　兼田幸子　岩城豊子
住田源隆　尾上大輔　岡田恵美子
○岡田　昇　◎須藤岡　楓　今津省司
（計37名）

寒風峠から滝山・岩阿沙利山

（比良を歩く9）

3月24日(日)　くもり時々雪・アラレ

JR近江高島駅集合8・55～58（バス）鹿ヶ瀬道9・15～30―寒風峠9・50―寒風峠10・40～45―滝山11・05～20―岩阿沙利山12・00（昼食）12・40―オーム岩13・20～30―岩山展望台14・10～20―音羽14・58―近江高島駅15・20（解散）

寒風峠への登りで降り出したミゾレがアラレに変わり、やがて小雪が舞い始めた。稜線ではアラレと雪が交互に落ちてきたが、幸いにも、ほとんどの時間は、ミゾレ・アラレ・小雪の中を歩くことになった。

（参加者）森本　勝　森本浩子　深坂　豊　深坂昌子　谷　ヤ　森脇昌義　鈴野　徹　鈴野まや　宮崎　明　石田義也　鈴鹿義雄

鈴鹿・釈迦山

3月21日(日)　くもり、時々

JR近江八幡駅集合9・45～50（タクシー）大鳥居10―高宗の滝11・40―釈迦山11・42（昼食）12・15―金輪寺15・25～30―宮川神社14・02―宮川14・20（バス）鈴鹿駅15・15（解散）

鈴鹿・釈迦山

3月21日(日)　くもり、時々

JR近江八幡駅集合9・45～50―登山口10・20―中の神社10・40―金輪寺11・00―釈迦山11・42（昼食）12・15―宮川神社14・02―宮川14・20（バス）鈴鹿駅15・15（解散）

鈴鹿・釈迦山

3月21日(日)　晴れ

JR近江八幡駅集合9・30～40―登山口10・00―中の神社10・40―金輪寺11・00―釈迦山11・42（昼食）12・15―宮川神社14・02―宮川14・20（バス）鈴鹿駅15・15（解散）

鈴鹿・釈迦山

3月21日(日)　晴れ

JR近江八幡駅集合9・30～40―登山口10・00―鈴鹿山10・25～35―社会教育神社センター10・55―本願寺11・10―天の岩戸神社11・50―天の岩戸山神社12・05―天の岩戸山12・15（昼食）13・00―万願の森公園13・10～20―月の誕生石13・35―鈴鹿峠多賀神社（笑沢の宮の神社）13・45―鈴鹿峠14・00―五味公園14・25―五味山14・40―弘法の井14・55―近鉄八木駅15・15（解散）

鈴鹿山脈の中央部には、まだ雪が残っていた。雪の中を歩くのは、初めてのことだった。

（参加者）山田明男　鈴木美智子　鈴鹿義四　山田義三　鈴鹿　誠　鈴木　勝　鈴木浩子　谷　ヤ　鈴鹿義雄　鈴鹿義雄

鈴鹿・釈迦山

3月21日(日)　くもり時々晴れ

JR近江八幡駅集合9・30～40―登山口10・00―中の神社10・40―金輪寺11・00―釈迦山11・42（昼食）12・15―金輪寺15・25～30―宮川神社14・02―宮川14・20（バス）鈴鹿駅15・15（解散）

鈴鹿・釈迦山

3月21日(日)　晴れ

JR近江八幡駅集合9・30～40―登山口10・00―中の神社10・40―金輪寺11・00―釈迦山11・42（昼食）12・15―金輪寺15・25～30―宮川神社14・02―宮川14・20（バス）鈴鹿駅15・15（解散）

（参加者）山田明男　鈴木美智子　鈴鹿義四　山田義三　鈴鹿　誠　鈴木　勝　鈴木浩子　谷　ヤ　鈴鹿義雄　鈴鹿義雄

◎霊峰探訪　（計15名）

大和路ハイク・大和三山を歩く

3月28日(日)　晴れ

近鉄橿原神宮前駅集合9・30～40―橿原神宮9・50～55―若桜公園登山口10・00―畝傍山10・25～35―社会教育神社センター10・55―本願寺11・10―天の岩戸神社11・50―天の岩戸山神社12・05―天の岩戸山12・15（昼食）13・00―万願の森公園13・10～20―月の誕生石13・35―鈴鹿峠多賀神社（笑沢の宮の神社）13・45―鈴鹿峠14・00―五味公園14・25―五味山14・40―弘法の井14・55―近鉄八木駅15・15（解散）

暖かい春の一日。桜・雪柳・木蓮等の木の花、タンポポ・すみれ・ヒメジョオン・ナズナ等の草花が咲き誇れ、天たて木には残っている田園風景を眺めながら、のんびりと大和路を七つ巡りしてきた。

（参加者）村松義郎　吉本美保子　きれ巻子　河上大琴　山本千鶴子　大谷紀子　弁護　武　木村千代子　菱田キヨ　兼田二江　宮崎自夏　近藤公子　高木　雅　きせ井悦天　近藤公子　田中孝雄　吉川裕子

○前川和佳子　◎亀本廣治　（計18名）

西山・善峰寺から山崎

（北山ちょっと歩き31）

3月27日(水)　◎長山繁三

＊雨天のため中止しました。

播州・雲彦山

（ファミリーハイク9）

3月28日(水)　晴れ

JR新大阪駅集合7・30（バス）坂根登山口10・10―行者堂10・40―出雲岩11・10―大天井岳12・00（昼食）12・30―三辻山13・10―鉢ヶ山13・40～50―虹ヶ滝14・50―登山口15・30（バス・雲彦温泉入浴）姫山台駅19・20（解散）

大天井岳の岩峰には陽光が満ち溢れていた。鉢立山から北西部の山々が展望できた。雪解け水を集めた渓流を力強いに徒渉し、童心に戻り楽しく下山した。

（参加者）村上芳子　金藤千恵子
本間昭恵　梅津真茂　中澤ちず子
匹田豊治　湯浅次男　千葉千枝子
青木一雄　原　文子　成川みさお
東山登夫　舞田久子　光川二美子
中山峰雄　石原君子　田所真里子
白鳥幸子　中川光郎　加納田好子

小松志信　森　瑛代　河本美千子
妹尾一正　秋葉正人　○中村友昭
◎木村太郎　（計27名）

伊豆山稜線歩道縦走
（自然観察山行84）

3月29日㈮～31日㈰
前夜発―泊2日
（29日　雨）JR岐阜駅集合23・00～10（バス）
（30日　晴れ）（バス）天城湯ヶ島道の駅5・20（朝食）6・00（バス）天城峠バス停6・10―旧天城トンネル6・30―天城峠6・50―旧天城峠8・20―三蓋山9・20～30―猫越岳10・40―ナベ石（二股峠）11・30（昼食）12・15―風早峠12・45―宇久須峠13・00―魂ノ山13・40―棚場山15・30―船原峠16・00～20（バス）土肥温泉17・00（泊）
（31日　晴れ）土肥温泉7・00（バス）船原峠7・40―西伊豆スカイライン土肥駐車場8・20～30―伽藍山8・40～9・00―吉祥山9・15―達磨山9・35～10・00―金冠山11・00―だるま高原レストハウス11・25～40（バス）修善寺温泉12・00（入浴・昼食）13・00（バス）岐阜駅18・30（解散）

前夜の風雨もやみ、2日間とも青空。天城峠から35キロ余り、ブナの原生林、アセビとイヌツゲの原生林、富士山と太平洋の展望台を越え、金冠山まで歩き通しました。

（参加者）石田賢二　相原悠紀子
稀万由子　川島勝美　石倉真佐子
木下朝子　小林　桂　荻野美紀恵
冨田満子　仲谷礼司　川上香代子
前田悦子　松尾麗子　船越みよ子
三浦弘幸　大和　紘　船本裕巳子
村井寿和　森本淳子　松上美代子
三浦　勝　三浦真左子
宮路ちへ子　○狩野東彦　（計25名）
◎鷲見守康

六甲・水晶山から長峰山

3月31日㈰　晴れ一時雨
神鉄大池駅集合10・40～47―地獄谷西尾根11・10―水晶山12・22―ダイヤモンドポイント12・30（昼食）13・10―三国岩13・22―三国池13・31―仏谷峠13・52―長峰山14・30―阪急六甲駅15・50―JR六甲道駅16・00（解散）
西尾根は枯れ木の時期で展望がよかった。ダイヤモンドポイントまで行くが人に会わなかった。長峰山からは山桜とヤマツバキの咲く道を下山した。

（参加者）保田　正　中嶋日出男
荒井寛子　前田栄三　土井あつ子
塩尻香織　藤崎洸右　辻村幸裕
森澤照子　中村英雄　原　雅子
朽名生右　磯野重治　中島　隆
小谷和子　上田久子　島田京子
岩鶴健司　白鳥忠孝　前田喜久子
國本英樹　炭田明美　野里マツ代
辻　行子　白根清子　加納由紀子
角田一江　牧　和夫　○宮下淳一
○福隅　章　◎小出良春　（計31名）

高畑山・陣尾山・丸山
（鈴鹿百山27）

3月31日㈰　晴れのち一時雨
JR米原駅8・30／三岐西野尻駅8・30各集合（車）霜ヶ原分岐9・10～20―高畑山10・00―陣尾山南鉄塔10・50―四手峠11・07―陣尾山11・21―陣屋11・50（昼食）12・50―丸山13・10―十二相神社14・05～15―霜ヶ原分岐14・35（車）彦根駅14・55（解散）
午前中は晴れて花も多く咲き（約50種）、途中でギフチョウが飛んでいたのには驚いた。鈴鹿の山中では40数年振りの確認となった。

（参加者）原　文子　猪狩美枝子
岩田育士　木村　豊　小嶋野里子
宮嶋美智　尾崎光子　宗戸喜久江
竹田善美　多田陽子　瀬戸内伸子
中尾和子　吉村　昭　伊藤恵美子
栗橋崇雪　栗橋君子　山野志保江
丹下由子　西尾俊弥　西尾裕子
栗本敏夫　中川光郎　吉藤孝次
若林文夫　山縣勝美　西内正弘
山村恭男　鳥居信吾　坂井田良男
○高原芳彦　◎山田明男（計31名）
＊右記山行への申し込み者が多く、溢れた方を中心に、前日30日㈫に特別例会として、高室山から鍋尻山を歩いた。参加者18名。

甲府・蜂城山と茅ヶ岳

4月6日㈯～7日㈰　1泊2日
（6日　晴れ）JR大津駅集合8・15～30（バス）蜂城山登山口14・30―蜂城山15・30―登山口16・30（バス）宿（泊）
（7日　くもり）宿（バス）茅ヶ岳登山口8・00―茅ヶ岳10・25～50―金ヶ岳11・50～12・00―東光13・30（バス）大津駅19・30（解散）
蜂城山の里は桃も桜も満開で桃源郷を満喫した。茅ヶ岳はガスで展望なかったが、急登・急降下、岩場と変化に富んだコースをカラ

マツの芽吹きやアブラチャンの花を眺め、疲れしらずでのんびり歩いた。

（参加者）佐野信江　緒方由子
田中　茂　木村光江　小田潤子
三井紘一　松尾麗子　田中まや子
平畝英子　小林　桂　田中三恵子
岡　菊江　兼田幸子　岡田恵美子
齊藤妙子　若松朝子　武部芙美子
野口　修　岩城豊子　木下照子
入江武史　石浜愉子　○岡田　昇
◎妻鹿弘子　（計24名）

奈良・春日奥山原始林と滝坂道
（週末ハイク39）

4月6日㈯　晴れのちくもり
近鉄奈良駅集合9・10～15―春日大社9・45～50―若草山10・35～55―鶯の滝11・30～40―鷲峰山11・45（昼食）12・50―芳山13・40～50―石切峰14・10～30―地獄谷石窟仏14・55―春日山石窟仏15・20～30―首切地蔵15・35～40―春日大社16・40（解散）
春日山原始林の遊歩道から八重桜が満開の若草山へ。山頂からは春がすみのかかった生駒山から金剛山の山並を見渡した。午後はオプションとして芳山の三角点を経由して、石畳の滝坂道を歩いた。

（参加者）吉植　清　萩野美紀恵
岩田育士　船越利明　船越みよ子
吉野　房　土井明夫　土井あつ子
吉本真子　宮下淳一　光川二美子
徳田暢子　秋田楠師　木村千代子
本間黎子　青木一雄　千葉千枝子
山縣勝美　眞田久子　船本裕巳子
高木　晋　松下和子　松下　巌
宮本真幸　長尾節子　辻　行子
舟岡　武　白根清子　宮村孝次郎
山本京子　菅生幸子　吉本泰之
橋坂栄二　○加藤元彦
◎狩野東彦　（計35名）

冷川岳・藤原岳（鈴鹿百山28）

4月7日㈰　くもり一時雨
JR関ヶ原駅8・20／三岐西野尻駅8・35各集合（車）コグルミ谷入口9・05～10―長命水9・40―カタクリ峠10・10―冷川岳10・50―白瀬峠11・00―藤原岳二角点11・20―藤原岳最高点天狗岩11・50（昼食）12・30―藤原岳二角点12・50―白瀬峠13・10―真の谷テント場13・25―カタクリ峠13・55―長命水14・20―コグルミ谷入口14・45（車）関ヶ原駅15・40（解散）
昨夜からの雨を心配して多くの方が参加をやめられ、19人の行動しやすい人数で歩いた。日当てのフクジュソウはまだ多くの花が見られたが、早春の花はこれからだろう。

（参加者）木村　豊　猪狩美枝子
吉藤孝次　仲谷礼司　本間　隆
吉村　昭　中川光郎　太田勝子
西村文男　伊藤　直　伊藤恵美子
鈴木　浩　鈴木友子　山野志保江
池田隆一　井上　光　春見重美
○高原芳彦　◎山田明男（計19名）

西南稜から
武奈ヶ岳・コヤマノ岳
（比良を歩く10）

4月7日㈰　くもり
JR堅田駅集合8・40（タクシー）坊村9・05～20―御殿山11・30―武奈ヶ岳12・10（昼食）12・45―コヤマノ岳13・05―中峰13・20―金糞峠14・07―青ガレ下14・40―大山口15・15―イン谷口15・35―比良駅16・10（解散）
午前60％・午後10％の降水確率で昼過ぎからの晴天を期待したが、一日中雲の中の散歩だった。その代わり山はこのうえなく静寂で、休日には喧噪を極める武奈ヶ岳の山頂にも人影はなく、間こえるのは鳥の声のみ。のんびりペースで歩いたが、予定時間通りに下山できた。

（参加者）谷川俊一　馬籠中男
三上神夫　三上泰子　橋本賢二郎
若林文夫　中島　隆　大東　哲
岩鶴健司　武部　剛　中村佳津子
松井明忠　多賀久子　松村雅子
角田一江　小谷和子　塩尻香織
○宮下淳一　◎秦　康夫（計19名）

北摂
大峰山から中山最高峰

4月7日㈰　晴れ
JR武田尾駅集合10・05～10―廃線トンネル10・25―大峰山10・55（昼食）12・30―長尾谷ダム13・17―中山最高峰14・03～10―夫婦岩15・05―中山寺15・33―阪急中山駅15・40―JR中山寺駅15・50（解散）
桜とツツジの続く道を登ると大峰山だった。ハイカーは中山最高峰から来る人ばかりだった。静かな山歩きとはいかなかったが、人気コースの山というのは理解できた。

（参加者）大和　紘　柳川常雄
荒木光雄　山下恒三　森実喜美子
朽名生右　中村友昭　岡本美千子
杉田尋子　森田和子　渡辺美代子
渕谷節枝　本落孝夫　中尾美智子

米谷建治　山根弘美　○保田　正
◎小山良春　（計18名）

花の霊仙山西南尾根

（鈴鹿を歩く140）

4月7日(日)　小雨時々くもり
寺院伯集合8・30—奥ノ院見9・05—林道11・00—岩ノ峰12・00（昼食）12・50—最高峰13・00—霊仙山13・20—南霊池花園14・15—近江展望台14・35—笹峰15・20—行者ノ森15・50—あけん原16・40（解散）

雨に濡れた芽吹き始めた権現谷の花々を楽しみ、行者谷から岩ノ峰に突き上げるとイワナシやイワウチワの花が続いた。山頂は深い霧、霊仙山から南霊池の花園へと福寿草の花を楽しむ。下山はスハマソウ・ヒトリシズカ・カタクリ等の花を愛でながら、あけん原におりた。

（参加者）後藤庚幸　池田繁美
栗本敏夫　原　光一　原　幸子
谷　久雄　永戸鉄治　網木美恵子
谷　守　梶原泰彦　加納由紀子
武村千鶴　小松志信　伊藤喜久男
小田妙子　湯浅庚夫　○山田景三
◎吉野　明　（計18名）

敦賀・三内山

4月9日(日)　くもり
JR敦賀駅集合9・30（車）縄間登山口10・00—三内山11・30（昼食）12・30—登山口14・45（車）敦賀駅15・00（解散）

雨の予報で20名のところ6名で登った。縄間から関西電力の巡視路を伝う。炭焼き釜が四箇所あり、バイカオーレンやイワナシの花、タムシバはもう遅く、葉が出後のようであった。山頂からも濃い黄砂で遠望はきかなかった。途中、シュンランやカンアオイなどを見つけ春を満喫した。

（参加者）木下朝子　森本淳子
栗栖君子　谷　守　吉岡美津香
◎高島伸浩　（計6名）

鈴鹿・藤原岳

（ファミリーハイク10）

4月11日(木)　くもり
新大阪駅集合7・00（バス）登山口駐車場9・40—聖宝寺10・10—八合目11・45（昼食）12・25—藤原山荘13・05—藤原苗展望台13・35～45—藤原山荘14・00—八合目14・30—大貝戸道四合目15・05—神武神社15・45—登山口駐車場16・00（バス）桃山台駅19・00（解散）

藤原岳は評判どおりの花の山であった。フクジュソウを始め、数え切れない花々が春本番を告げていた。藤原苗展望台からは春霞りで遠くが望めなかった。

（参加者）村上嘉子　吉川正子
本間昭恵　梅津直茂　金森千恵子
柏木峯子　湯浅次男　千葉千枝子
東山澄夫　吉森孝次　中澤ちず子
清川英三　清田陽子　中尾美智子
塩尻香織　角田一江　成川みさお
小谷和子　筧田久子　栗栖君子
木下朝子　西村耕一　頼　喜代子
秋葉正人　中山峰雄　○中村太昭
◎木村太郎　（計22名）

美濃・妙法ヶ岳

（自然観察山行35）

4月13日(土)　晴れのちくもり一時雨
JR大垣駅集合8・40～50（バス）谷汲駐車場9・30—華厳寺9・50—妙法ヶ岳11・15—鉄塔11・25（昼食）12・25—P606右13・20—シャクナゲ平13・45—横蔵寺境内14・40—横蔵寺大駐車場15・00（バス）谷汲温泉15・15（入浴）16・00（バス）大垣駅17・00（解散）

心配した天気も大崩れせず、美濃の二つの古刹を結ぶ東海自然歩道を縦走し、今年初めてのカタクリやギフチョウなどの春の妖精に出会いました。

（参加者）安斎　洋　石田高教
稲本芳雄　岩田育士　荻野美紀恵
岡田直規　木下朝子　小林　桂
佐野信江　鷹巣　邦　鞆越みよ子
徳田輝子　島岩信吾　鞆本裕巳子
夏山春子　深坂　寛　深坂昌子
細野欽也　堀田輝子　松土美代子
三井紘一　三浦　勝　三浦真左子
宮本悦子　宮路雲香子
森本真幸　森本淳子　山本吉治
○貴野東彦　◎鷲見守康（計23名）

三重・矢頭山

4月14日(日)　晴れ
近鉄川合高岡駅集合9・30～54（バス）室ノ口10・20—中宮公園11・20—大日往展望台12・20（昼食）12・57—矢頭山13・15～35—矢頭峠14・20—中宮公園14・30—室ノ口15・22～35（バス）川合高岡駅16・00（解散）

役ノ小角によって開山されたという伝承があるだけに登山道にはロープが張ってあり、急登、急降下の山だった。山頂からの展望はすばらしく、伊勢の名山であると思った。

（参加者）吉村　昭　前川和代子
岩田育士　杉田尋子　砂原恵美子
真田明子　永富律子　宮路ちへ子
◎小山良春　（計9名）

鈴鹿・霊仙山

（近畿百名山に登る36回）

4月14日(日)　晴れ
JR米原駅集合9・00～05（バス・タクシー）醒ヶ井養鱒場9・30～40—榑ヶ畑10・40—汗フキ峠10・50—経塚山12・30（昼食）13・10—霊仙山13・30—最高点14・00—近江展望台14・50～15・00—笹峰15・30—茨谷16・00—汗フキ峠16・40～50—榑ヶ畑17・00—醒ヶ井養鱒場17・50（解散）～18・18（バス）米原駅18・45

林道にタクシーが入らないので養鱒場から歩いた。展望抜群の霊仙山の草原からやぶを潜いで西南尾根に出ると、フクジュソウが群生していた。ロングコースになったが、心地よい疲れだった。

（参加者）堀田輝子　中村和江
栗栖崇吉　栗栖君子　山縣勝美
福隅　章　田中義雄　小林　稔
吉森孝次　西居俊弥　宍戸喜久江
木村　豊　荒井寿子　中嶋日出男
山本武臣　山本金子　宮下淳一
三上仲夫　東山澄夫　塩尻香織
中川光郎　辻村幸裕　秋田楠師
中島　隆　小谷和子　小原きぬ子
山下晴美　入江武史　中上紀代子
白倉忠亨　川中　保　井林寿奈子
田中博子　川島徹也　川島勝美
西村耕一　西野幸夫　西野加代子
前田初雄　仲谷礼司　中尾美智子
長比裕美　磯野重治　寺田久巳
加藤浩二　西居裕子　磯尾健治
岩鶴健司　松本東敏　山高冬恵子
米谷建治　松村雅子　宮村孝次郎
水谷陽子　辻　行子　白根清子
中西信行　光川博史　光川二美子
高島伸浩　山縣　隆　○安倉正勝
◎村田智俊　（計33名）

吉野・蜻蛉の滝から青根ヶ峰

4月16日(火)　◎亀本裕治
＊雨天のため中止しました。

西山・小塩山からポンポン山

（北山ちょっと歩き35）

4月16日(火)　◎宍山繁三
＊雨天のため中止しました。

美濃・伊吹全尾根

（自然観察山行36）

4月21日(日)　◎鷲見守康
＊4月20日也を変合で21日に変更しましたが、当日は雨天のため中止しました。

金勝アルプス
鶏冠山から竜王山

4月21日(日)　◎小山良春
＊雨天のため中止しました。

三国岳・烏帽子岳

（鈴鹿を歩く141）

4月21日(日)　◎宍野　明
＊雨天のため中止しました。

みづめ桜の御獄山

4月21日(日)　雨
JR新大阪駅集合7・10（バス）東加古川駅8・25（バス）樽見の大桜10・45（バス）糸原11・15（昼食）11・50—尾根原付12・10—みづめ桜13・00—糸原13・55（バス）若穂温泉14・45（入浴）15・35（バス）姫路駅経由大阪駅19・35（解散）

みづめ桜は散ってしまった。雨のなかを歩いたが、バスの中でとも温泉で疲れをとった。次回は大桜の近くの大アベマキをゆっくり観ねばならないと思う。

（参加者）鞆越裕明　鞆越みよ子
宮下淳一　岡田　昇　岡田恵美子
佐野信江　前川　一　松土美代子
上田久子　岩田育士　川上香代子
秋田楠師　白倉忠亨　熊田千夜子
鈴木敏彦　大和　紘　相原悠紀子
栗栖崇吉　栗栖君子　大須賀　實
森　瑞代　多賀久子　土井あつ子
青木一雄　島田亮子　前田喜久子
岩城豊子　前田悦子　森実淳美子
三輪澄子　平畝英子　田所真里子
簑田久子　長沢佑美　八木八重子
馬籠忠男　宮西和子　河本英子
黒河内東洋明　柳川常雄
東山澄夫　小田潤子　山田芳子
原　雅子　高島朝子　井上喜美子
◎古賀隆一　（計47名）

鎌ヶ岳（鈴鹿百山29）

4月21日(日)　◎山田明男
＊雨天のため中止しました。

大峰・大天井ヶ岳

4月22日(日)　晴れ
近鉄下市口駅集合9・10（タクシー）五寸高原登山口10・10—大天井ヶ岳11・30（昼食）12・45—尾根—大天井谷—洞川スキー場13・40—千本谷林道—洞川バス停15・00～55（バス）下市口駅17・10（解散）

五寸高原トンネルまでタクシーが入り、予定タイムより早く登山口

に着き、お陰でのんびりと新緑を楽しみながらの山行ができた。
（参加者）若林文夫　砂原恵美子　東山澄夫　山根弘美　宮村孝次郎　山縣勝美　小谷和子　中尾美智子　木村　豊　大和　紘　山本千鶴子　角田一江　石田高敦　石倉真佐子　藤井益子　竹田勝美　高岡富美子　石原君子　小林伊仔子　石井恵美子　○中村英雄　◎西上利和　（計22名）

西山めぐり2
上桂から大枝ノ山・小塩山
（水曜ハイク51）

4月24日(水)　晴れ
阪急上桂駅集合8・00～10―唐櫃越道8・20―尾根筋分岐8・57―野鳥園9・20―仏舎利塔前9・50―首塚大明神10・20―大枝ノ山11・05―大暑山11・50（昼食）12・30―小塩山13・25―天皇陵道13・45―南春日町14・45（解散）
大枝ノ山は首塚大明神から西側の谷を南につめて南尾根の急坂を登った。小塩山の南尾根はあまり歩かれていない。小塩山ではカタクリの花が終わりで、ニリンソウはたくさん見られた。
（参加者）田中義雄　東山澄夫　谷　守　木村　豊　石田賢二　角江朝子　吉條孝次　眞田久子　岸本節美　村上吉子　赤松しげみ　辻　寛子　宮本真幸　瀬戸内伸子　諏訪稔子　本下朝子　長岡保江　白根清子　飯田愛子　近藤　恭　山縣勝美　辻　行子　青生幸子　中上紀代子　妹尾一正　野々山明美　藤井誠二　白付紀子　小林伊仔子　中井　博　杉田愛子　広田不佐子　浦上　明　吉原清夫　山本すま子　長尾一令　小山　輝　市野博文　細井和子　大谷章子　南　ミヤ子　林　進　原　正志　千葉千枝子　岡田里子　船越利明　船越みよ子　石原君子　本間繁子　本間　隆　小川晴美　仲谷礼司　呉山繁三　舟岡　武　○青木一雄　◎湯浅次男　（計56名）

高塚山から上醍醐と供水峠

4月24日(水)　小雨のちくもり
JR山科駅8・59（バス）醍醐新町9・20―長尾天満宮9・40―高塚山10・40―上醍醐11・30（昼食）12・10―本宮の峰12・35―上東山13・20―供水峠・石仏広場13・50―方丈石14・20―日野14・30（解散）
集合時の小雨も登行中は薄日の差すまでに回復し、里山の新緑をゆっくりと楽しんだ。峠ではめずらしいチョンマゲ石仏に対面し、下山途中は鴨長明の方丈石を見た。
（参加者）三浦　勝　三浦真左子　若林文夫　中村啓一　迫　恵美子　細野欽也　武村千鶴　中嶋日出男　磯部　純　清水昭三　速水　保　岩本健一　岩本彩子　岩城豊子　和田直樹　中村静香　竹田善美　兼田幸子　◎金谷　昭　（計19名）

静岡
毛無山と長者ヶ岳と天子ヶ岳
（自然観察山行87）

4月26日(金)～28日(日)
前夜発1泊2日
〈26日　晴れ〉JR岳南駅集合23・00～10（バス）
〈27日　晴れのちくもり〉（バス）根原バス停付近6・15―浅間神社6・20―蒲尾峠7・30―雨ヶ岳9・00―高デッキ10・00―P1959付近10・50―毛無山11・30（昼食）12・20―地蔵峠13・20―龍山ノ家15・40～50（バス）朝霧高原民宿16・00（泊）
〈28日　くもりのち晴れ〉民宿6・00（バス）白糸ノ滝6・15～35（バス）立石6・40―登山口6・50―林道出合7・20―天子ヶ岳9・15～30―長者ヶ岳10・25～45―田貫湖12・00（バス）朝霧高原温泉12・30（入浴・昼食）13・45（バス）岳南駅18・30（解散）
毛無山は予定を変更して雨ヶ岳から縦走。長者と天子はリーダーの脚の故障により急登の天子から登り、長者のゆるやかな道を田貫湖へくだった。春霞のなかいつもデッカイ富士がいっしょで、広大な朝霧高原を従えていた。
（参加者）石田賢二　岩田育士　大角良子　緒方由子　神　伸　川島勝美　木村光江　萩野美紀恵　清川陽子　小松志信　砂原恵美子　白井忠子　田中　茂　加納由紀子　田中義雄　田辺弘子　中川光郎　仲谷礼司　長尾一令　船本哲巳子　夏山春子　松尾麗子　松土美代子　山形　明　横井　徹　横井恭子　○荻野東彦　◎鷲見守康（計29名）

朽木・駒ヶ岳

4月27日(土)　晴れ
朽木村役場集合8・30（車）―木地山9・00―東谷尾根取付9・25―尾根10・40―駒ヶ岳11・00（福井側ルート散策）11・30（昼食）12・10―西谷へ下山12・50―東谷出合13・45―木地山14・00（車）朽木村役場14・30（解散）
東谷から急登をこなして尾根に登り、左に日本海を見ながら山頂へ着いた。東が開かれ、箱館山・武奈ヶ嶽・三重岳・三十三間山などが眼前に広がった。造林公社林境を伝い西谷からくだった。
（参加者）宮尾信子　瀬戸内伸子　多田陽子　前川　勉　岡本美千子　森本　勝　森本淳子　石田眞由美　池田繁美　奥田真雄　◎高島伸浩　（計11名）

湖北・滝谷山

4月27日(土)　晴れ
ビラデスト今津集合8・30（車）―淡海休憩所8・50―天狗岩歩道と稜線分岐9・20―滝谷山9・50―近江坂分岐11・00―近江坂・北近江展望台11・28（昼食）12・30―近江坂―ビラデスト今津14・30（解散）
本コースは今津町役場により整備され、やぶ漕ぎのなくなったブナ林の新緑を満悦した。シャクナゲを始めとする次々に出会う春の草花に応対のひまがなかった。
（参加者）山田明男　後藤康幸　三上神夫　三上泰子　春見孝重美　山田景三　塩尻香織　小谷和子　竹田善美　谷　守　神野孝允　岩城豊子　湯浅康夫　角田一江　○磯部　純　◎金谷　昭　（計15名）

北山濃習林
芦生・三国峠から杉尾坂

4月28日(日)　◎山本久雄
＊リーダーの都合で中止しました。

奈良・金剛山から神福山

4月28日(日)　晴れ
近鉄富田林駅集合10・05（バス）千早城バス停10・40～50―千早城跡―金剛山12・15（昼食）12・50―湖出岳13・12―中葛城山14・07―高谷山14・26―神福山15・14～20―行者杉峠15・37～45―大沢寺16・15（タクシー）JR五条駅17・00（解散）
千早城跡から金剛山に登ると、大変な人出だった。しかし、神福山からは人気のない山になった。行者杉峠からキリサコ尾根をくだり、花の多い大沢寺に下山した。
（参加者）大和　紘　保田　正　宮下淳一　谷川俊一　土井あつ子　藤本桂吉　川中　保　前田喜久子　森　晴代　鵜野綾子　中尾美智子　桐山直江　出田年子　○福隅　章　◎小出良春　（計15名）

魚谷山・滝谷峠・二の瀬ユリ
（京都北山歩き101）

4月29日(祝)　晴れ
京都地下鉄北大路駅集合9・00（タクシー）祖父谷林道ゲート9・30―狼峠取付9・45～10・00―狼峠10・15―まほら谷11・00―魚谷峠11・25―魚谷山手前伐採地11・30（昼食）12・15―魚谷山12・20―槙谷峠12・30―芦生峠分岐13・20―伐採地13・30～40―滝谷峠14・00―二の瀬ユリ展望地14・30～45―夜泣峠15・30～35―富士神社15・50～16・15（解散）―二の瀬駅16・27（電車）出町柳駅17・50
狼峠から夜泣峠まで六つの峠を結んで、北山らしい新緑の尾根道をのんびりと歩いた。
（参加者）遠藤　準　谷川俊一　小林　稔　馬籠忠男　前田栄三　山縣勝美　入江武史　杉田尋子　細野欽也　竹田勝美　柳川常雄　山岸勝雄　辻村幸裕　市野博文　砂津達雄　西居俊弥　中西美也子　速水　保　松尾一郎　川戸せつ　磯野重治　中村英雄　日野照代　岩鶴健司　牧　和夫　妹尾一正　角田一江　武部　剛　武部美美子　畏比裕美　杉本　高　川上久堅　中村和江　川島勝美　中原眞理子　小谷和子　佐野信江　中西信行　岩本健二　岩本彩子　高岡富美子　古賀慶二　長塚恵子　北川朝子　西尾久枝　○安倉正勝　◎村田智彦　（計47名）

九州・熊本の山
球磨三名山を登る

5月2日(木)夜～6日(日)朝
4泊5日（船中2泊）
〈2日）大阪南港かもめフェリーターミナル集合18・50～19・30（フェリー泊）
〈3日　雨〉宮崎港8・20～35（バス）白髪岳登山口14・20～25―猪ノ子伏14・40～50―登山口15・05～20（バス）湯山温泉17・15（泊）
〈4日　くもりのち雨〉湯山温泉7・25（バス）市房神社入口8・00―市房神社8・35～45―馬ノ背9・25～35―市房山11・05（昼食）11・40―P1642との中間点12・25―市房山13・05～10―市房神社14・55～15・10―市房神社入口15・45～50（バス）湯山温泉16・

00（泊）

〈5日　晴れ〉湯山温泉7・00（バス）三井谷登山口8・25～35上二本杉9・05～10―仏石岳9・40（仏石往復）10・10―御烏帽子山10・55～11・20―仏石分岐11・50―二本杉上流水場12・05（昼食）12・35―登山口13・10～20（バス）五木温泉13・45（入浴）14・25（バス）宮崎港18・10～19・10（フェリー泊）

〈6日〉大阪南港7・40（解散）

〈3日〉雨天のため、5日に予定した白髪岳へ変更したが、登山口手前でバスが軟弱な路肩に沈み、脱出に90分も要したので、猪ノ子伏までの散策で切り上げた。

〈4日〉満開のツクシアケボノツツジの群生やヒカゲツツジを楽しみながら歩いた。二ツ岩へのやせ尾根で雨が強く風も出てきたので、縦走を断念して往路をくだった。

〈5日〉晴天で仏石分岐付近はヤマシャクヤクの群生が白い花を競って開花していた。御烏帽子山頂からは360度の展望を楽しんだ。

〔参加者〕宮本真幸　宮本悦子　仲谷礼司　鮎越利明　堀田輝子　秋田楠師　松尾麗子　青木一雄　若林文夫　三井紘一　吉福　清　眞田久子　小林　桂　大平敦子　大平　漸　山縣勝美　徳田帽子　森　晴代　◎狩野東彦（計20名）

南紀・法師山と大塔山

（近畿百名山に登る37回）

5月3日(水)～5日(日)　2泊3日

〈3日　晴れ〉JR・南海橋本駅集合10・30（バス）高野山11・45～12・00（バス）護摩壇山駐車場12・40―護摩壇山12・50（昼食）13・20―駐車場13・30（バス）百間山渓谷キャンプ村16・10（泊）

〈4日　雨〉キャンプ村7・00（バス）板立峠本守御登山口7・20～30―タママツ尾根―法師山9・45～10・00―山頂10・50～11・30―P1008岩12・00（昼食）12・30―P951岩13・30―千体仏登山口14・00―百間山渓谷休憩地15・30―キャンプ村16・00（泊）

〈5日　晴れ〉キャンプ村6・00（バス）弘法杉登山口8・30―北尾根ルート―大塔山東ピーク11・00―大塔山（二の森）11・15（昼食）11・50―一の森12・30―一の森・二の森の鞍部12・40―大塔谷堰堤13・50―弘法杉14・00―県道14・20～30（バス）南部かんぽの湯16・40（入浴）17・30（バス・阪和道）天王寺駅23・10（解散）

〈3日〉百間山キャンプ村に予定通り到着して、夜はバーベキューを開み盛り上がった。

〈4日〉終日小雨で法師山からの展望はゼロ。稜線の岩場は危険、ロープを張ってやっと通過できた。時間をロスしたので百間山登頂をやめ、千体仏にくだった。アケボノツツジの花と、渓谷美が雨中をなぐさめてくれた。

〈5日〉バスが林道へ入れなかったので、弘法杉から登った。北尾根のルートには、シャクナゲやアケボノツツジが咲いていた。大塔山からの大展望を楽しみ、二の森への鞍部から弘法杉へくだった。帰路の高速道路が大渋滞で、大阪へ戻ったのは深夜になった。

〔参加者〕沖　伸　小林　稔　三上仲夫　松村雅子　布施清美　吉條孝次　原　文子　奈良邦子　堀辰斎織　岩田育士　角田一江　小谷和子　上田久子　中嶋日出男　森　瑞代　中村和江　高岡富美子　多賀周二　多賀久子　川上喜代子　入江武史　安田文美江　村田はる江　○呉比資美　○安倉正勝　◎村田智俊（計25名）

例会参加の注意点

山行例会参加の場合は、新ハイキングの規定があります。（88ページ山行計画欄）、これを十分にご理解のうえ申し込んでください。規定に反しますと、係や参加の他の人にも迷惑をかけることになります。気分よく山行するため、みんなでルールを守りましょう。

特に次の2点をよろしく。

★計画を早めに決め、必ず7日前には申込先に到着するよう、往復ハガキに必要事項をすべて記入のうえ申し込んでください。直前や飛び込みはお断りします。また電話やファクシミリでは、名簿作成や山行案内の返信に困ります。

★雨天に歩くのが嫌な方は始めから小雨決行・雨天決行の計画には申し込まないでください。また、当日の決行か中止かは、返信案内の降水確率を見て、必ず前夜の気象情報で確認し、判断ください。

新ハイキングクラブ関西 入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」（隔月刊・年6号発行）の定期購読者を中心にしたハイキングの集いです。

この雑誌は紀行文やコースガイドなどで、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、情報豊かで健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和25年発足以来、東京を中心に50年間も好評のうちに活動してきました。関西は平成3年発足で11年目に入りますが、すでにたくさんの会員が活動しています。

会員は当会の山行例会に優先して参加できます。この山行例会を通じて正しい山歩きを、楽しい山仲間たちと味わいませんか。

リーダー（係）はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。

会員には毎号「新ハイキング関西の山」をお送りします。

四季の自然に触れながら歩き、若々しい心と健康をいつまでも持続するのはすばらしいことです。これから始めてみたい人も、すでにベテランの人もみなさんご入会いただけます。

入会金　500円（バッジ代）

年会費　3000円（送料共）

入会の申し込み（随時）はこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名（ふりがな）及び第何号からの送本かを忘れずにご記入ください。

なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただきますと、毎号確実にお手元に届きますので便利です。

切手500円分をお送りになれば、「新ハイキング関西の山」見本誌1冊送ります。

○山行リーダー募集

リーダーは2ヶ月に一～二回程度の山行例会を計画・実施していただきます。

無償の奉仕ですが、やりがいもあり、楽しいものです。経験のある方や、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。マニュアル「リーダー必携」を送ります。

○新入会員紹介

新しいお仲間のみなさんです。会員番号4680番から4713番まで

【群馬】中島仁志
【静岡】牧田克己
【愛知】岩田智鶴　白木やす子　近藤周市
【三重】宮路亜希子
【滋賀】桂田　充　花房麻寿夫　北村つねみ　今井宗次　染谷つや子
【京都】今井保子　友田美保子
【大阪】須田久子　仲村久美子　秋葉正人　山本勝郎　安倍ヨシ子　山谷喜美　松浦丞一　久保田玲子　龍野礎子　桐山直江　植田　実　山本博子
【奈良】東村由美　浦西　勉
【和歌山】松本好郎　吉村佳二
【兵庫】渡辺一雅　斎藤義人　渡辺真理子　馬場昌盛　加藤喜和　桂　久美子（34名）

訂正とお詫び

64号（初夏）22ページ付近略図で「旧篠尾辻（泊）」は、南の「篠尾辻（泊）」が正しい。

64号（初夏）65ページ中段12行目「史跡　宮道道法師道」は「史跡　宮道道法師道」が正しい。

64号（初夏）84ページ二段目終わりから5行目「生駒山系雷岳縦走」は「最南端」が正しい。

64号（初夏）102ページ四段目の山行報告「生駒　飯盛山から宝池・星のプランコ」の参加者に「瀧尾健治」さんが記載漏れでした。参加人数は（37名）となります。

（編集室）

毎号お求めになりたい方へ

前もって書店に毎号ほしいと「購読予約」をされますと、どこの書店でもお買い求めいただけます。偶数月の20日ごろ（隔月刊）の発売です。